オーナーズマニュアル

MULTISTRADA

MULTISTRADA 1200

DUCATI

オーナーズマニュアル

日本人

MULTISTRADA

MULTISTRADA 1200

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間はモーターサイクルと共に保管しなければなりません。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も新しい所有者に譲渡されなければなりません。
本取扱説明書は大切に保管しなければなりません。損傷や紛失した場合、速やかにDucati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターに新しい取り扱い説明書を請求してください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性はデザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず更新され、したがって本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は予告なく、またその義務を負わず、いつでも変更する権利を有します。このため、お客様の実際のモーターサイクルと比較すると、いくつかの図に違いがある可能性があります。

本マニュアルの全て又は一部を複製又は流布することは禁止されています。あらゆる権利はDucati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで(書面による)許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

はじめに　7
安全性ガイドライン　7
本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク　8
用途　9
運転者の義務　10
ドライバーのトレーニング　11
服装　12
安全のための“ベストプラクティス”　13
燃料の補給　15
最大積載時の運転　16
積載容量について　16
危険物 – 注意事項　17
車両識別番号　19
エンジン識別番号　20

インストルメントパネル(ダッシュボード)　21
インストルメントパネル　21
LCD – 主な機能　27
LCD – パラメータ設定/表示　28
車両速度計　30
エンジン回転数表示(RPM)　31
ギアイン表示　32
時計　33
燃料レベル表示　34
エンジンクーラント温度　35
総走行距離″オドメーター″表示　37
″トリップ１″メーター表示　38
″トリップ２″メーター表示　39
DTC ON / OFF 機能表示　40
LAP ON / OFF 機能表示　41
警告表示（アラーム / マーク）　42
バッテリーレベル“LOW”　44
トラクションコントロール（DTC）OFF　45
Hands Free（HF）キー無感知　46
Hands Free（HF)キーバッテリーレベル“LOW”　47
エンジンクーラント温度”High″　48
エラー　ステアリングアンロック状態 – ステアリングロック状態　49

オフロード用DTC設定（DTC OFF ROAD） 50
ABSシステム解除（ABS OFF） 51
インストルメントパネルの診断 52
メンテナンス時期表示 56
SERVICEに至るまでの残りの走行距離表示 56
SERVICEに達した走行距離表示 57
メンテナンス一覧 58
SET UP – ″設定ライディングスタイル″表示 61
“RANGE” 表示 – 残留燃料 62
“CONS.” 表示 – 瞬間燃費 64
“CONS.AVG” 表示 – 平均燃費 65
″SPEED.AVG″表示 – 平均スピード 66
外気温インジケーター 67
“TIME TRIP” 表示 – 走行時間 69
Riding Mode（ライディングスタイル変更） 70
セッティングメニュー 73
バッテリーテンション表示(BATTERY) 75
“Riding Mode” のパーソナライズ 77
DTCセッティング機能(Ducati Traction Control) 79
ABS設定機能 85
ENGINE（エンジン出力コントロール)セットアップ 89
DEFAULT（ Ducati社設定の修復） 91
インストルメントパネルバックライト調整機能 92
LAP（ラップタイム)起動/解除機能 94
LAP設定 96
LAP 記録表示 98
デジタルエンジン回転表示機能 100
時計の調整機能 102
イモビライザーシステム 105
キー 106
アクティブキーのバッテリー交換 109
キーの複製 113
イモビライザーの解除手順 113
ランプコントロール 120
単位の変更 128
その他の機能 132

運転時に必要なコマンド 138
コマンド類の配置 138
Hands freeシステム 139
左側スイッチ 150
クラッチコントロールレバー 151
右側スイッチ 152
スロットルグリップ 153
フロントブレーキレバー 154
リアブレーキペダル 155
ギアチェンジペダル 156

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整 157

主要構成部品 / 装備 159
車両上の配置 159
燃料フィラープラグ 160
シートロック 162
ヘルメットホルダースタンド 165
サイドスタンド 166
ソケット 168
フロントフォーク調整 169
リアショックアブソーバー調節 171

運転のしかた 174
慣らし運転の方法 174
走行前の点検事項 176
ABS 装置 178
ON/OFF 179
車両の発進 181
ブレーキ操作 181
車両の停止 184
パーキング 185
燃料の補給 188
付属アクセサリー 189
フロントセミマッドガードキット 190
リアロングマッドガードキット 192

主な整備作業とメンテナンス 193
クーラントレベルの点検および補充 193
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検 195
ブレーキパッドの摩耗点検 197
ジョイント部の潤滑 198
スロットルグリップの調整 200
バッテリーの充電 201
トランスミッションチェーン張力の点検 205
チェーンの潤滑 207
付属のチェーン張力計測器の使用 208
ハイ/ロービーム電球の交換 210
リアターンインジケーター 213
ナンバープレートランプ 214
ヘッドランプの光軸調整 215
リアビューミラーの調整 217
チューブレスタイヤ 218
エンジンオイルレベル点検 221
スパークプラグの清掃と交換 223
車両の清掃 224
長期間の保管 226
重要注意事項 226

メンテナンスプログラム 227

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス 227
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス 230

テクニカルデータ 231

重量 231
全体寸法(mm) 232
燃料補給 233
エンジン 235
タイミングシステム 236
性能データ 237
スパークプラグ 237
燃料供給 237
ブレーキ 237
トランスミッション 238
フレーム 239
ホイール 239
タイヤ 239
サスペンション 239
エキゾーストシステム 240
カラーバリエーション 240
エレクトリカルシステム 241

定期点検メモ 247

定期点検メモ 247

はじめに

安全性ガイドライン

この度はDucati 製品をお買い上げ頂きありがとうございます。貴方をドゥカティストの仲間としてお迎えできるのは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクでは日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。Ducati Motor Holding S.p.A.は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っています。

お客様のモーターサイクルはDucati モーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものであり、メンテナンスプログラムに従い、オリジナルスペアパーツを使用することで品質を維持することが重要です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターに配備されているディーラーマニュアルに記載されています。
あなた自身のため、また製品の安全性及び信頼性を保証するために、定期メンテナンスプログラムで行うあらゆる作業は、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼頂くよう強くお薦めします（ページ 227 参照）。

Ducati オフィシャルディーラーの熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具、完璧な交換可能性、円滑な作動、ロングライフを保証するDucati オリジナルパーツのみを使用し、最善のサービスを提供致します。

全てのDucati モーターサイクルには保証書が付属しています。
車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。
車両や部品の一部でも交換したり、改造したり、変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり、不十分だったり、オリジナルでない又はDucati に承認されていないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全性は非常に重要です。
Ducati モーターホールディング社はお客様にモーターサイクルを責任をもって使用されることをお願いします。
お客様のモーターサイクルをはじめてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後まで注意深くお読みになり、記載されているガイドラインに忠実に

従ってください。正しい使用法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先のオフィシャルディーラーにお問い合わせ下さい。

本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク

お客様又はその他の人に負わす可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、及び警告又は重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告

この説明を遵守しなかった場合、ライダー又はその他の人が重度の負傷および死亡に至る危険性があります。

重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は進行方向を見たときのを方向です。

用途

舗装されていない道路やオフロードでこのモーターサイクルを使用することができます。

警告

このモーターサイクルをトレーラーのけん引に使用したり、サイドカーを取り付けて使用してはいけません。コントロールを失う原因となり、事故につながる可能性があります。

このモーターサイクルにはライダーが乗り、パッセンジャーを乗せることができます。

警告

ライダー、パッセンジャー、荷物、アクセサリーを含めた走行時の総重量は、430kg/948 lb を越えてはいけません。

警告

サイドバック、トップケース、タンクバックの最高重量は、以下のように区分した合計 35kg を絶対に超えていけません。

サイドバックは 1 個につき最大 10 kg

トップケースは最大 10 kg

タンクバックは 5 kg

運転者の義務

すべてのライダーは運転免許証を所持していなければなりません。

警告
無免許運転は法律違反で、法律により訴追されます。モーターサイクルを使用するときには免許証を携帯していることを確認してください。未経験者および有効な免許証を持っていないライダーに使用を認めないでください。

飲酒後や麻薬の使用後には運転しないでください。

警告
飲酒運転や麻薬の使用後の運転は法律違反で、法律により訴追されます。

薬の副作用に関する情報をかかりつけの医師から説明を受けていない場合は、運転前の薬の服用は避けてください。

警告
薬によっては眠気を催したり、運転者の反射神経やモーターサイクルの制御能力を減少させることがあり、事故を起こす危険があります。

保険の加入を義務付けている国があります。

警告
自身の国の法律を確認してください。保険に加入し、モーターサイクルのその他の書類と共に保険証書を大切に保管してください。

ドライバー及び必要に応じてパッセンジャーの安全を守るため、規格に適合したヘルメットの着用を法律で義務付けている国があります。

警告
自身の国の法律を確認してください。ヘルメット着用せずに運転すると処罰されることがあります。

警告
ヘルメットを着用しないと、事故の際、重傷や死に至る危険が高まります。

警告

ヘルメットが安全性の規格を満たしており、視界がよく、頭部にちょうどフィットし、自身の国の規格認証ラベルが貼られていることを確認してください。交通関連法規は国によって異なります。モーターサイクルを運転する前に自身の国の現行の法律を確認し、常にそれに従ってください。

ドライバーのトレーニング

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死や重大な破損の原因になる可能性があります。

服装

モーターサイクル使用時の服装は安全性の面で非常に重要です。モーターサイクルは衝撃に対して車のように人を保護することができません。

適切な服装とは、ヘルメット、目を保護するゴーグル、手袋、ブーツ、長袖ジャケット、長ズボンです。

- ヘルメットはページ 10 に記載されている要件を満たしていなければなりません。バイザーの付いていないモデルのヘルメットを使用する場合には、適切なメガネを使用してください。
- 手袋は革製又は摩耗に耐える素材のもので、5 本指のものでなければなりません。
- 運転用ブーツ又は靴は、滑り止めソール及び足首のプロテクションが付いていなければなりません。
- ジャケット及びズボン、又は防護スーツは、革製又は摩耗に耐える素材のもので、非常に目立つ色でなければなりません。

重要

いずれにせよ、車両にひっかかる可能性のあるひらひらした服装やアクセサリーの使用は避けてください。

重要

安全のため、季節を問わずこのような服を着用しなければなりません。

重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための“ベストプラクティス”

使用前、使用中、使用後、人の安全性の確保に非常に重要な簡単な作業及びモーターサイクルの有効なメンテナンスを忘れずに行ってください。

重要
慣らし運転期間中は、本取り扱い説明書の″使用方法″の章の記載を遵守してください。
順守されなかった結果、エンジンの損傷、および寿命の短縮などについて、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負いません。

警告
運転中に使用する装置について熟知していない場合は運転しないでください。

起動前には本取扱説明書に記載されている点検を行ってください（ページ 181 参照）。

警告
点検を行わないと、車両が破損したり、ライダー又はパッセンジャー、またはその両方に重大なけがを負わせる原因になることがあります。

警告
エンジンの始動は屋外又は十分な換気がされている場所で行い、閉ざされた場所では絶対にエンジンを始動させないでください。
排気ガスは有毒ですので、短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中はライダー、パッセンジャーと共に適切な姿勢を保ちます。

重要
ライダーは常にハンドルバーを握っていなければなりません。

重要
ライダー、パッセンジャー共に、走行中は足をフットレストに乗せておいて下さい。

重要
パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

重要
交差点や私有地の出口に近い場所、駐車場、高速道路への進入路等を走行する際は充分に注意して下さい。

重要
良好な視界を保ち、前方車両の″死角″に入らないよう走行して下さい。

重要
車線を変更する時や曲がる時には、常に適切にターンインジケーターを使用し、早めに合図を出して下さい。

重要
車両は人や物がぶつからないような場所にサイドスタンドを使用して停車して下さい。車両が倒れる可能性があるので平坦でないところや柔らかい地面には絶対に停車しないで下さい。

重要
タイヤを定期的に点検します。特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかを注意深く目視点検して下さい。損傷が著しい場合はタイヤを交換して下さい。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いて下さい。

警告
エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストチューブ、及びサイレンサーは長時間高温を帯びているので、手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。

警告
モーターサイクルを目の届かない場所に置く場合には、常にイグニッションキーを抜き取り、車両の使用に適していない人の手に触れられないように保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油時には絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジン及びエキゾーストチューブに燃料がかからないように注意してください。
給油中、燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中、燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10%以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10%以上のガソリンを使用することは禁止されています。 この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10%以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

警告

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに石鹸水で洗ってください。

警告

燃料は非常に引火しやすいので、過って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
重量をバランス良く配分することは、通常の安全走行に必要な注意事項です。凸凹な道を走行したり、急な進路変更を必要とする際のトラブルを避けるために非常に重要です。

警告
サイドバック、トップケース、タンクバックを積んだ状態での最高走行速度は 180 km/h を超えてはならない。

警告
車両許容重量を超えることのないよう、以下の積載容量に注意すること。

積載容量について

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置するよう努めて下さい。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に、体積や重量のかさむものを固定しないで下さい。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていない場合、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになる恐れがありますのでフレームのすき間に絶対に物を挟まないで下さい。

警告
タイヤが、正しい空気圧で良いコンディションであることを確かめて下さい。

ページ 218 の”タイヤ”の章を参照してください。

重要
サイドバック設置（ご要望でDucati部品交換センターにて受付可能）の際は、荷物やアクセサリーをそれぞれの重量に基づき、サイドバックの重量が均一になるように心がけます。それぞれのロックでサイドバッグを閉めます。

危険物 – 注意事項

使用済みエンジンオイル

警告
使用済みエンジンオイルは長期間にわたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になることがあります。日常的に使用済みエンジンオイルを取り扱う場合には、使用後速やかに手を水と石鹸で入念に洗ってください。子供の手の届かない場所に保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキユニットを清掃する際、圧縮空気のジェットやドライブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告
車両のプラスチック、ゴム製部品又は塗装部品にブレーキフルードがかかるとその部品の損傷の原因になることがあります。ブレーキシステムのメンテナンスを始める前に、これらの部品に清潔な布をかぶせてください。子供の手の届かない場所に保管してください。

警告
ブレーキフルードは腐食性です。誤って目や皮膚に付いた場合は、大量の流水で洗浄して下さい。

クーラント

特定の条件下ではエンジンクーラントに含まれるエチレングリコールが発火し、その炎は目に見えません。エチレングリコールが発火するとその炎は目に見えず、重大なやけどの原因になることがあります。

警告
エンジンクーラントをエキゾーストシステムやエンジン部品にかけないようにしてください。

これらの部位は高温のためクーラントを発火させる危険があり、見えない炎で焦げてしまいます。クー

ラント(エチレングリコール)は皮膚の炎症の原因になることがあり、飲み込むと有毒です。子供の手の届かない場所に保管してください。エンジンがまだ熱いときにはラジエーターのキャップを取り外さないでください。クーラントは圧力がかかっており、やけどの原因になることがあります。
クーリングファンは自動的に作動するので手や衣服を近付けないでください。

バッテリー

警告

バッテリーは爆発性ガスを発生させます。火花、炎、タバコを近付けないでください。バッテリー充電を行う場所の換気が適切であることが確認してください。

車両識別番号

参考

これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

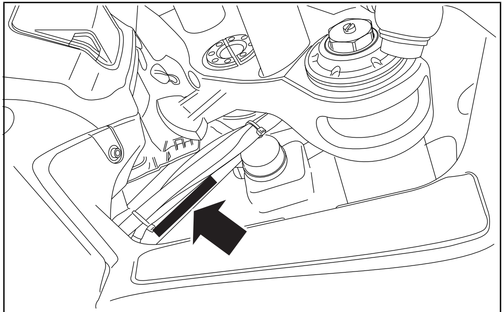


図 1

エンジン識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

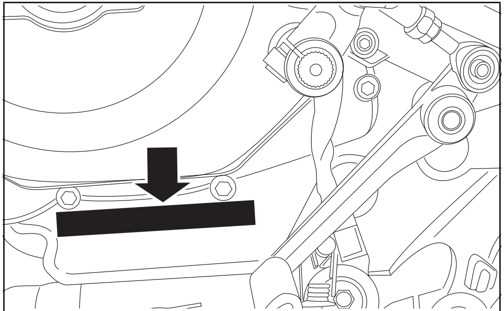


図 2

インストルメントパネル(ダッシュボード)

インストルメントパネル

1) LCD Dot-Matrix.

2) タコメーター(rpm)

1 分間のエンジン回転数を表示します。

3) ニュートラルランプ N（緑）。

ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。

4) ハイビーム表示灯 ≣D （青）。

ハイビーム点灯時に表示します。

5) エンジンオイル圧警告灯 （赤）。

エンジンオイルのプレッシャーが低すぎる時に点灯します。“Key-on” で点灯しますが、エンジン起動後、数秒の停止が必要です。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

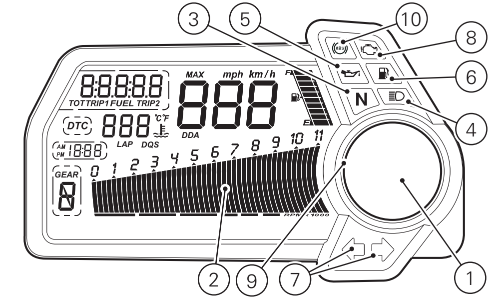


図 3

重要

このエンジンオイルランプが点灯続けている場合は、エンジンに重度の破損をもたらす恐れがあるので、車両を使用しないで下さい。

6) リザーブ燃料警告灯 （琥珀色）。
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。この際、燃料残量は約 4 リットルです。
7) ターンインジケーター表示灯 ⇔ （緑）。
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。
8) ″エンジン/車両診断- EOBD″ランプ （琥珀色）。
エンジンおよび車両、またはその一方にエラーが出ると同時に点灯しますが、場合によっては、エンジンブロックにつながることもあります。
9) リミッターランプ “OVER REV” / トラクションコントロールランプ “DTC” （赤）。

	Over rev ランプ
続行	停止
第一起点 – リミッターに達する RPM 数 (*)	On – 無点滅
リミッター(外部回転切断) (*)	On – 点滅

(*) それぞれのエンジンコントロールユニットの口径測定は、モデルにより、リミッターの限界とリミッターそのもの次第で異なる設定になる場合があります。

	DTC 干渉ランプ
干渉なし	停止
DTC 作業中	On – 無点滅

参考

Over rev ファンクションランプと DTC ランプが同時に点灯した場合、インストルメントパネルには Over rev ファンクションランと表示されます。

10) ABS ランプ (琥珀色) (図 3)。

エンジン停止 /走行速度 5 Km/h 以下		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
-	メニューの機能を介して ABS が解除されている(**)	ABS 機能はまだ発動していない
エンジン起動 /走行速度 5 Km/h 以下		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
-	メニューの機能を介して ABS が解除されている	ABS 機能はまだ発動していない
エンジン起動 /走行速度 5 Km/h 以上		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
ABS 機能は起動中	メニューの機能を介して ABS が解除されている	問題発生のため、ABS は解除され作動していない

(**) ABS はエンジン起動後もランプが点滅する時のみ停止します。

機能ボタン

1) コントロールボタン
インストルメントパネル”▲”上のパラメーター設定および表示に使用するボタン。
2) コントロールボタン
インストルメントパネル”▼”上のパラメーター設定および表示に使用するボタン。
3) ハイビームフラッシャーランプボタン
フラッシャーランプ機能ボタンはLAP機能に使用する場合もあります。
4) ターンインジケーター解除ボタン
このボタンは通常ターンインジケーターの起動および解除に使用しますが、メニューの検索およびライディングモードの起動にも使用します。
このボタンを左側に3秒間押すと、ハザード機能が起動します(すべてのターンインジケーターランプ点滅)。

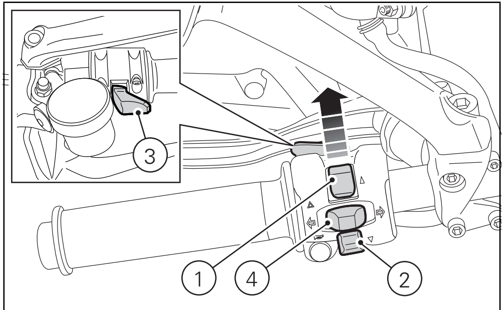


図 4

本マニュアルで使用されている頭字語及び略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
BBS
ブラックボックスシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
DDA
ドゥカティデータアナライザー
DSS
DUCATI Skyhook サスペンション
DSB
インストルメントパネル
DTC
ドゥカティトラクションコントロール
HF
Hands free
ECU
エンジンコントロールユニット

技術用語

ライディングモード
ライダーは 4 つの初期設定(ライディングモード)からドライビングスタイルや道路の状態に最も合っているものを選択することができます。ライディングモードではエンジンの出力と排出量(ENGINE)、ブレーキコントロールレベル(ABS)、トラクションコントロールの干渉レベル(DTC)、"Sport"バージョンではサスペンションの調整(DSS)を瞬時に変更することができます。
可能な設定は Sport、Touring、Urban、Enduro です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を変更することができます。

DSS (Ducati SkyHook System)
Multistrada 1200 には新しいサスペンション制御システム DSS(Ducati Skyhook System)が装備されています。DDS はサスペンションのブレーキング、そしてフィルタリング能力に作用する力を制御するシステムです。ライディングモードを選択することにより、サスペンションの基本動作、特徴、それに伴う車両の特徴を決定することができます。
DDS システムのデフォルト設定はインストルメントパネルの専用設定メニューを介して変更することができます。設定メニューではそれぞれのライディングモードで個別にフォークおよびショックアブソーバーの機能を特徴付ける基本の剛性を増加させるか減少させることができます。

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)
ドゥカティトラクションコントロール(DTC)はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つの干渉レベルを

基に機能します。それぞれリアホイールのスリップに対し異なる許容値がプログラムされています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された干渉レベルが割り当てられています。レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動し、一方、熟練ライダー向けのレベル 1 は許容値が高いのが特徴で、システムの干渉が最小限に抑えられます。

アンチロックブレーキシステム(ABS)
Multistrada 1200 に搭載されている ABS はデュアルチャンネルの次世代システムで、リアホイールのリフティングを制御することでインテグラルブレーキを行い、停止距離を短くするだけでなく、ブレーキ動作における高い安定性を確保します。ABS には 3 つの干渉レベルがあり、それぞれひとつのライディングモードに関連付けられています。

Hands Free (HF)
Hands free システムは直訳すると”自由な手”という意味で、物理的にキーを使用せずに車両のエンジンをかけることができます。例えばライダーのポケットの中等、車両の近くにキーがあれば車両を使用することができます。
Hands free システムが採用しているエレクトリックステアリングブロックにより、ハンドルバーを右いっぱいに切った状態でも左いっぱいに切った状態でも固定することができ、車両をより駐車しやすくなりました。
Hands free システムは CAN ラインを通して車両の別のコントロールユニットおよびインストルメントパネルに接続しています。
この接続を介して、システムは車両の起動させたり(キーがあり、識別された)、起動させなかったり(キーがない、または識別されない - イモビライザー機能)することができます。インストルメントパネルにはキーのバッテリー消耗状態やキーを検知できない等のインフォメーションメッセージが表示されます。

LCD – 主な機能

警告
インストルメントパネルでの操作は必ず車両が停止している時に行なって下さい。走行中にインストルメントパネルの操作は絶対に行わないで下さい。

1) スピードメーター
走行速度を表示します。
2) オドメーター
総走行距離を示します。
3) トリップメーター
リセット後の走行距離を表示します(TRIP 1 および TRIP 2)。
4) 時計
5) 燃料レベル
6) エンジン回転数表示(RPM)。
7) ラップタイム、瞬間最高速度、最大 RPM(LAP)
8) DTC ON/OFF 表示
9) ギア表示
10) クーラント温度計。
エンジンクーラント温度を表示します。

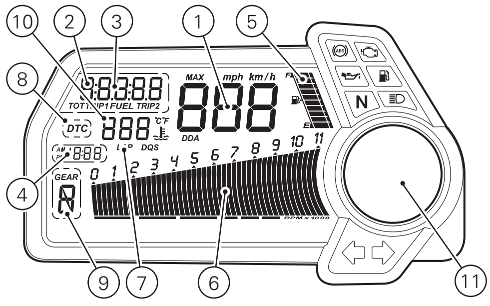


図 5

重要
温度が最高値に達した時は、エンジンを傷める可能性がありますので車両を使用しないで下さい。

11) LCD Dot-Matrix.

LCD – パラメータ設定/表示

インストルメントパネルチェック後には常にディスプレイ中央にオドメーター (TOT)と円形のディスプレイにはライディングスタイルが表示されます。

参考

ボタンを押しながらチェックを中断することができます(1)。

初期チェックが終了すると、インストルメントは必ず"メイン"表示に移ります。メイン LCD(A)には次の情報が表示されます。

- 走行速度表示
- エンジン回転数表示(RPM)
- ギア表示
- 時計
- 燃料レベル表示
- エンジンクーラント温度表示
- TOT – オドメーター

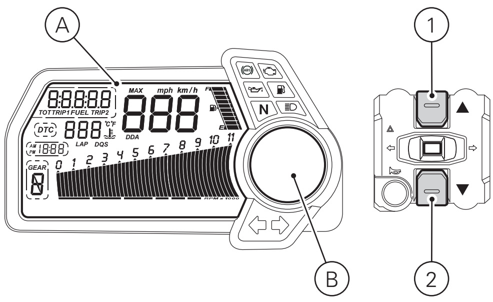


図 6

LCD Dot-Matrix (B 図 6)には次の情報が表示されます。

- 警告（起動の場合）
- エラー（起動の場合）
- DESMO SERVICE（起動の場合）
- SET UP -ライディングスタイル設定表示

この時点でボタン((1 図 6))を押すと、メインLCD((A 図 6)に表示される以下の機能に移ることができます。

- TRIP1 – オドメーター1
- TRIP2 – オドメーター2

この時点でボタン(2 図 6)を押すと、LCD Dot-Matrix (B 図 6)に表示される以下の機能に移ることができます。:

- RANGE – 燃料残量
- CONS. -瞬間燃費
- CONS.AVG – 平均燃費
- SPEED.AVG – 平均スピード
- AIR – 気温
- TRIP TIME – トリップタイム

車両速度計

この機能はメイン LCD に走行速度（Km/h または mph の選択が可能）を表示します。
インストルメントパネルは実際の速度(km/h)情報を 5%増大させたデータを表示します。
表示最高速度は 299 km/h（186 mph)です。
299 Km/h（186 mph)以上の場合、"－－－"(連続表示)が表示されます。

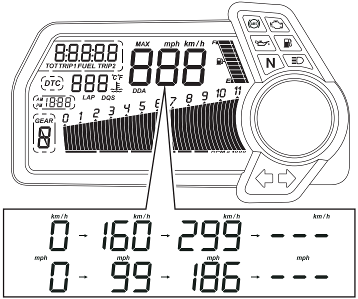


図 7

エンジン回転数表示(RPM)

この機能はメインLCDにエンジン回転を表示します。
インストルメントパネルにはエンジン回転データが表示されます。
左から右に見えるデータは回転数を表します。

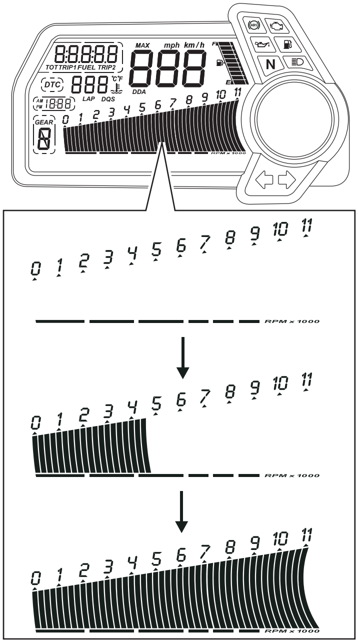


図 8

ギアイン表示

この機能はギアを表示します。
インストルメントパネルはデータおよびクラッチを切った状態またはニュートラル“N”を表示します。

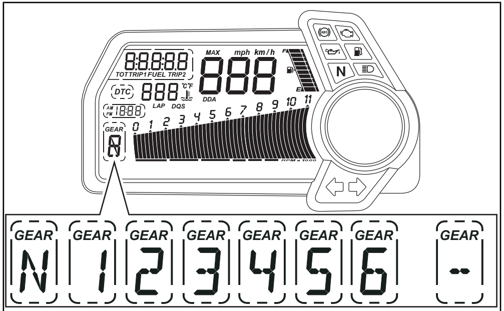


図 9

参考

ギアセンサーエラーが出た場合 “-” の表示が出ます(無点滅) 。

時計

この機能では時刻を表示します。
時刻は常に以下のように表示されます：
AM 0:00 から 11:59
PM 12:00 から 11:59

バッテリー電源が中断された場合(Batt-OFF)、電源の確保および次の起動時(Key-On)に時計はリセットされ、自動的に“0:00”から再開します。

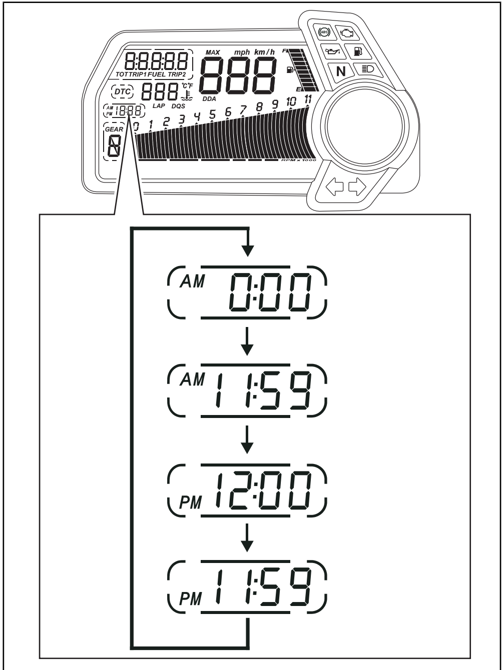


図 10

燃料レベル表示

この機能は燃料残量を表示します。リザーブランプは2目盛まで下がり、燃料タンクに約4リットルの残量がある場合点灯します。 残量がさらに減少すると、一番下の目盛りが点滅します。

重要

リザーブ状態に入りランプが点灯した場合、給油中は車両を停止(key-off)することをお勧めします。停止せずに(key-on およびエンジン off)で給油すると、データのアップデートがすぐにおこなわれないことがあります。

参考

レベルセンサーエラーが出た場合、目盛のない棒グラフが表示され、数値は点滅表示されます。

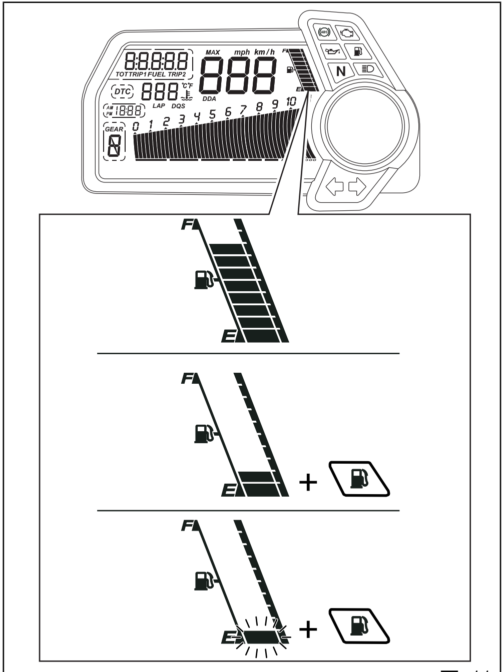


図 11

エンジンクーラント温度

エンジンクーラントに関する表示機能について記述します。温度測定単位の選択が可能です（° C 又は° F）。

ヨーロッパ、カナダ、フランス、日本バージョンでは単位は° C で、UK、USA バージョンでは° F です。
以下のとおり、データが表示されます:

- データが- 39° C から +39° C の場合、インストルメントパネルには無点滅で “LO” と表示されます。
- データが- +40° C から +120° C の場合、インストルメントパネルには無点滅で表示されます。
- データが+121 ° C（° F ）以上の場合、ディスプレイ上には”HI”が点滅表示されます。

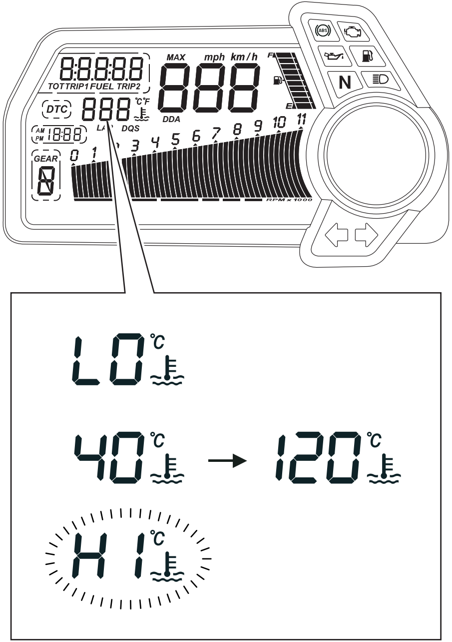


図 12

参考

センサー"エラー"の場合は "---"が点滅表示され、同時にエンジン/車両診断ランプ-EOBD が点灯します。

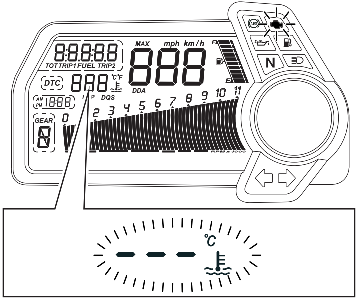


図 13

総走行距離"オドメーター"表示

この機能では総走行距離を表示します。
キーオンでシステムは自動的にこの機能に入ります。
数値は永久保存され、ゼロクリアすることはできません。
数値が 99999 Km(または 99999 マイル)を越えると、表示は"99999"のまま残ります。
ヨーロッパ、カナダ、フランス、日本バージョンでは単位は Km で、UK、USA バージョンではマイルです。

参考

オドメーター機能で点滅する点線" ----- "が表示される場合、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

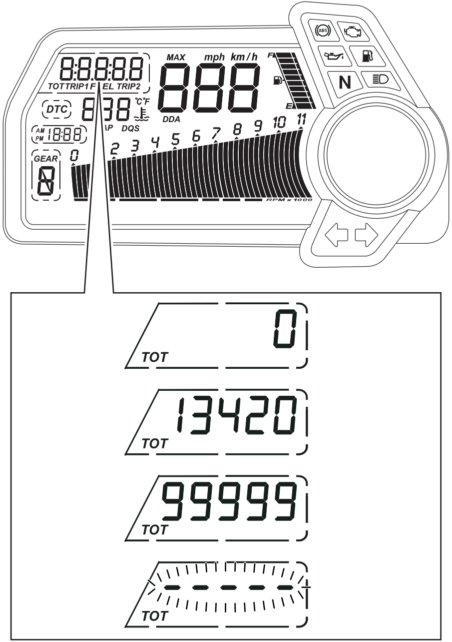


図 14

″トリップ１″メーター表示

この機能では部分的走行距離を表示します。
この機能が表示されている時にボタン(1)を 3 秒間押すと、データはリセットされます。数値が 999.9 を超えると、トリップメーターはリセットされて、自動的に再びゼロからカウントされます。システムの測定単位を変更もしくは供給中断 (Battery off)が発生した場合は、その時点でこの機能はリセットされ、0 からカウントが始まります (新しく設定された単位で)。

参考

このデータがリセットされると、″平均燃費″と″平均速度″および″走行時間″機能もリセットされます。

ヨーロッパ、カナダ、フランス、日本バージョンでは単位は Km で、UK、USA バージョンではマイルです。

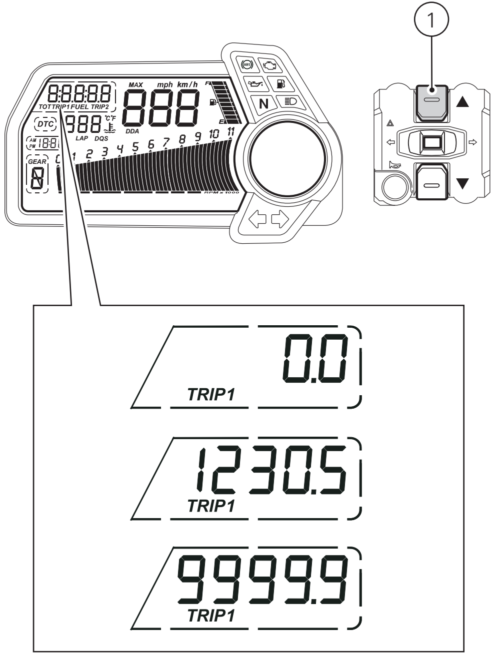


図 15

″トリップ２″メーター表示

この機能では部分的走行距離を表示します。
この機能が表示されている時にボタン(1)を 3 秒間押すと、データはリセットされます。数値が 999.9 を超えると、トリップメーターはリセットされて、自動的に再びゼロからカウントされます。システムの測定単位を変更もしくは供給中断（Battery off)が発生した場合は、その時点でこの機能はリセットされ、0 からカウントが始まります（新しく設定された単位で)。
ヨーロッパ、カナダ、フランス、日本バージョンでは単位は Km で、UK、USA バージョンではマイルです。

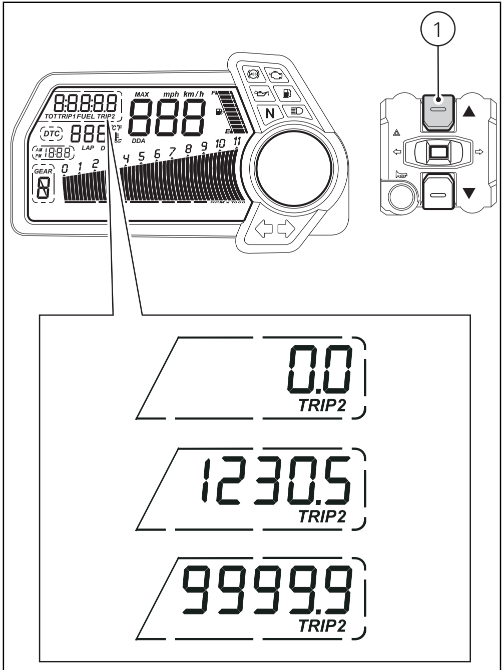


図 16

DTC ON / OFF 機能表示

この機能はDTC (Ducati Traction Control)がONの状態の時のみ表示されます。

枠内の"DTC"が消えている場合、OFF状態を表します。

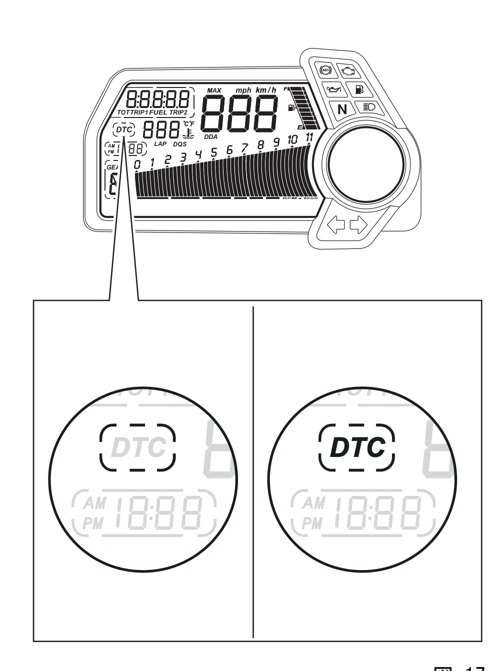


図 17

LAP ON / OFF 機能表示

この機能は LAP（ラップタイム）が ON の状態の時のみ表示されます。
"LAP"の文字が消えている場合は、OFF 状態を表します。

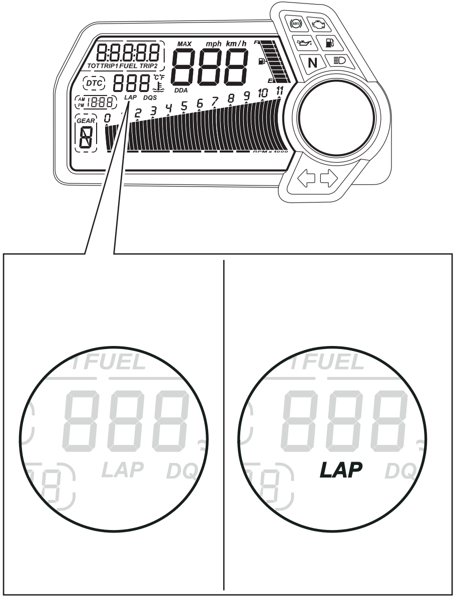


図 18

警告表示（アラーム / マーク）

インストルメントパネルは円形ディスプレイ “Dot-Matrix” (B)上に車両の正常機能に危険のない程度の警告を表示します。
Key-On (チェック終了後)状態で、起動中の場合、一つもしくはそれ以上の”警告”表示が出ます。
起動中に警告が発令された場合、円形ディスプレイ “Dot-Matrix” (B) 上は自動的にマークに置き換わります。
警告マークが 2 つ以上の場合、3 秒ごとに表示が変わります。

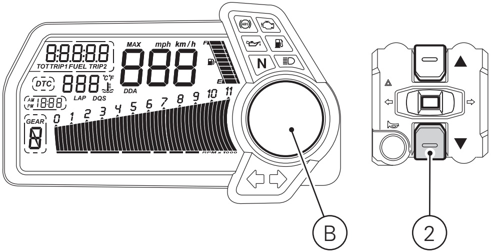


図 19

参考

一つもしくはそれ以上の”警告”がある場合、マークランプは点灯しません。

”警告”は以下のマークで表示されます。

- バッテリーレベル
- トラクションコントロール
- Hands Free キー
- Hands Free キーバッテリーレベル
- 冷却水温度
- ハンドル解除エラー時
- DTC オフロード設定(DTC OFF ROAD)
- ABS システム解除(ABS OFF)

一つもしくはそれ以上の”警告”が出た場合でも、ボタン(2 図 19)を押せば他の機能に移動が可能です。

バッテリーレベル “LOW”

車両バッテリーが低下すると、この”警告”が表示されます。

バッテリー電圧が 11.0 ボルト以下になると表示されます。

参考

この場合 Ducati 社は、車両停止を避けるため、正規チャージャーで速やかにバッテリーチャージをすることを推奨します。

バッテリーを保護するため、次の 2 つの条件が想定されています。

1) エンジンが起動している状態でインストルメントパネルを切らずにエンジンを切ると、30 秒後サスペンションへの電源供給が停止します。

2) エンジンが停止している状態でエンジンをかけずにインストルメントパネルを起動すると、30 秒後サスペンションへの電源供給が停止します。

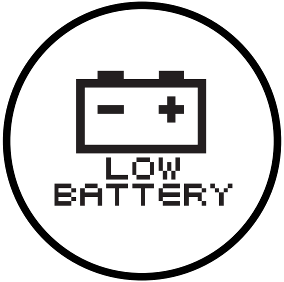


図 20

参考

これらのサスペンションに電源が供給されていないと、油圧ブレーキが強くかかっているため車両が停止しているときのように非常にかたくなっています。電源が供給されているサスペンションと供給されていないサスペンションでは、違いが大変よくわかります。

トラクションコントロール（DTC）OFF

この”警告”はDTC（Ducati Traction Control）がOFFの状態を表します。

参考

この場合Ducati社は、車両がトラクションコントロール機能に沿っていない理由から、運転に細心の注意を払うことを推奨します。

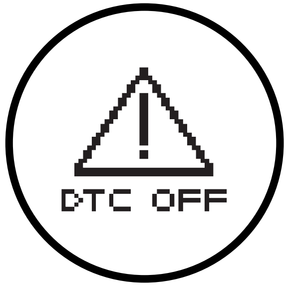


図 21

Hands Free（HF）キー無感知

この警告はアクティブキー(1 図 56)の Hands Free システムが車両付近に感知されない場合表示されます。

参考

この場合 Ducati 社は、アクティブキーを車両付近で感知確認（および紛失していないという確認）をすることを推奨します。

図 22

Hands Free (HF) キーバッテリーレベル “LOW”

Hands Free システムが車両と交信し起動させるアクティブキー(1、図 56)の電池が切れかかっていることを検知すると、この警告が表示されます。

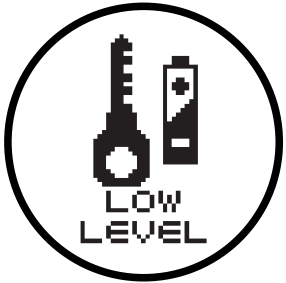


図 23

参考

この場合、できるだけ早く電池を交換してください。

電池の交換については”アクティブキーのバッテリーの交換”ページ 109 の章を参照してください。

エンジンクーラント温度”High”

この”警告”はエンジンクーラント温度が高温であることを表します。温度が121°C (250°F)まで上昇すると作動します。

参考

この場合Ducati社は、速やかに車両を停止させ、エンジンを切ることを推奨します。 ファンが機能していることを確認してください。

図 24

エラー　ステアリングアンロック状態 – ステアリングロック状態

この"警告"は Hands Free システムがステアリングロックにオンできなかった時に表示されます。

警告
この場合 Ducati 社は、ハンドルレバーを押しながら車両の停止と再起動（Key-Off/Key-On）を推奨します。もしマークが変わらない（つまりステアリングロック状態のまま）場合は、Ducati オフィシャルディラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。

図 25

オフロード用 DTC 設定 (DTC OFF ROAD)

この警告は、トラクションコントロールの設定が"極値"(オフロード用設定)で運転しているため、アスファルト上では細心の注意を払う必要があるときに表示されます。
この警告は DTCDTC (Ducati Traction Control)介入レベルが n.01 および n.02 の場合に表示されます。

警告
この場合、運転中には細心の注意を払い、行動ではこのタイプの DTC(Ducati Traction Control)設定は使用せず、オフロードでのみ使用するようにしてください。

図 26

ABS システム解除 (ABS OFF)

この警告は、ABS ブレーキシステムが解除されているため、運転に細心の注意を払う必要があるときに表示されます。

警告

この場合、運転およびブレーキングに細心の注意を払うようにしてください。

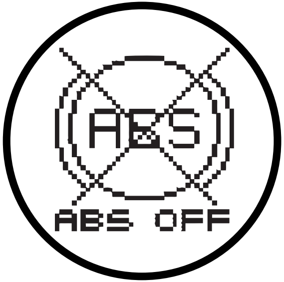


図 27

インストルメントパネルの診断

この機能は車両の異常を点検します。インストルメントパネルは、あらゆる車両異常（エラー）を即時に表示します。Key-On（チェック終了後)状態で、一つもしくはそれ以上の"エラー"が表示されます（起動中の場合のみ)。起動中に"エラー"が検知された場合、円形ディスプレイ“Dot-Matrix”(B)上の表示は自動的にエラーに置き換わります。3 秒ごとに複数のエラーがある場合、3 秒ごとに表示が変わります。ひとつ異常のエラーが発生すると、必ず"エンジン/車両診断-EOBD"ランプが点灯します。一つもしくはそれ以上のエラーが出た場合でも、 ボタン(2)を押せば他の機能に移動が可能です。以下は表示されるエラー一覧表です。

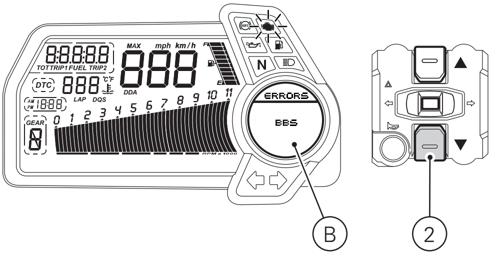


図 28

警告

一つかそれ以上のエラーが表示された場合には、必ず Ducati ディーラーまたはサービスセンターにご連絡下さい。

エラーメッセージ	エラー
CAN LINE	"BUS Off" CAN ライン(様々なコントロールユニットの通信ライン)
UNKNOWN DEVICE	コントロールユニットがシステムに認識されません - SW エラー
ABS(アンチロックブレーキシステム)	ABS コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
BBS(ブラックボックスシステム)	BBS コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
BBS(ブラックボックスシステム)	BBS コントロールユニット機能の一般不具合
BBS(ブラックボックスシステム)	エキゾーストバルブモーター EXVL 機能の不具合
インストルメントパネル	DSB コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
HANDS FREE	HF コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
HANDS FREE	HF コントロールユニットの一般不具合
HANDS FREE	キーおよびアンテナ、またはその一方の不具合(イモビライザー)
ENGINE	ECU コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません

エラーメッセージ	エラー
ENGINE	ECU コントロールユニットの一般不具合
ENGINE	スロットルポジションセンサー不具合
ENGINE	リレーおよびスロットルモーター、またはその一方の不具合
ENGINE	圧力センサー不具合
ENGINE	エンジンクーラント温度センサー不具合
ENGINE	インテークダクト温度センサー不具合
ENGINE	インジェクションリレー不具合
ENGINE	イグニションコイル不具合
ENGINE	インジェクター不具合
ENGINE	エンジン回転センサー不具合
ENGINE	ラムダセンサー又はラムダセンサーヒーター不具合
ENGINE	車両スターターリレー不具合
ENGINE	セカンダリエアセンサー不具合
GEAR SENSOR	ギアセンサー機能の不具合
FUEL SENSOR	NTC リザーブセンサー機能の不具合
SPEED SENSOR	フロント及び/又はリアスピードセンサー機能の不具合
BATTERY	バッテリー電圧が高すぎる、又は、低すぎる
STOP LIGHT	ストップライトが機能していない

エラーメッセージ	エラー
FAN	エレクトリッククーリングファンの不具合

メンテナンス時期表示
この機能は車両の走行距離から、Ducati オフィシャルサービスセンターにてゼネラルメンテナンスもしくはオイル交換の必要性を表示します。

SERVICE に至るまでの残りの走行距離表示
Ducati 社がプログラムした"SERVICE" までの残走行距離が 1000 Km(621 マイル)に達すると、インストルメントパネル(起動チェック後) 上に点検の種類と残走行距離 (count-down)が表示されます。
この表示は Key-On するごとに、5 秒間点滅します。
残る走行距離 I は 100 Km ごとに更新されます(-1000、 -900、 -800、 -700 など)。

警告
Ducati ディーラーもしくはサービスセンターにてメンテナンスを受けた後、ディスプレイ上の表示がリセットされます。

SERVICE に達した走行距離表示

Ducati 社設定の走行距離に達した場合、インストルメントパネル上に、Ducati ディーラーもしくはサービスセンターにて行なわれる “DESMO SERVICE” もしくは “OIL SERVICE” メンテナンスが表示されます。
この表示は Key-On 毎に点滅せずに起動します。ボタン(2)を押すと別の機能の表示に移ることができます。この表示はリセットしない限り残り、機能スクロールをするたびに表示されます。

警告

Ducati ディーラーもしくはサービスセンターにてメンテナンスを受けた後、ディスプレイ上の表示がリセットされます。

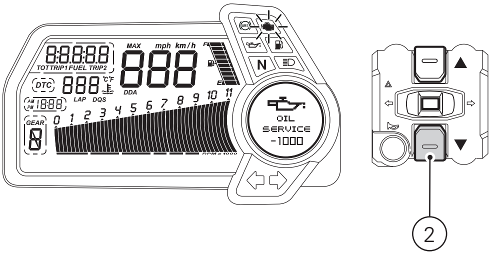


図 29

参考

走行距離限界は絶対厳守で、Ducati サービスセンサーがいつ”リセット”のリクエストをおこなったかについては考慮されません。

メンテナンス一覧

サイン	走行距離数	カウントダウン – 1000 Desmo service	カウントダウン -1000 Oil service	Desmo service	Oil service
1	1000				●
2	11000		●		
	12000				●
3	23000	●			
	24000			●	
4	35000		●		
	36000				●
5	47000	●			
	48000			●	
6	59000		●		
	60000				●
7	71000	●			
	72000			●	
8	83000		●		
	84000				●

サイン	走行距離数	カウントダウン – 1000 Desmo service	カウントダウン –1000 Oil service	Desmo service	Oil service
9	95000	●			
	96000			●	

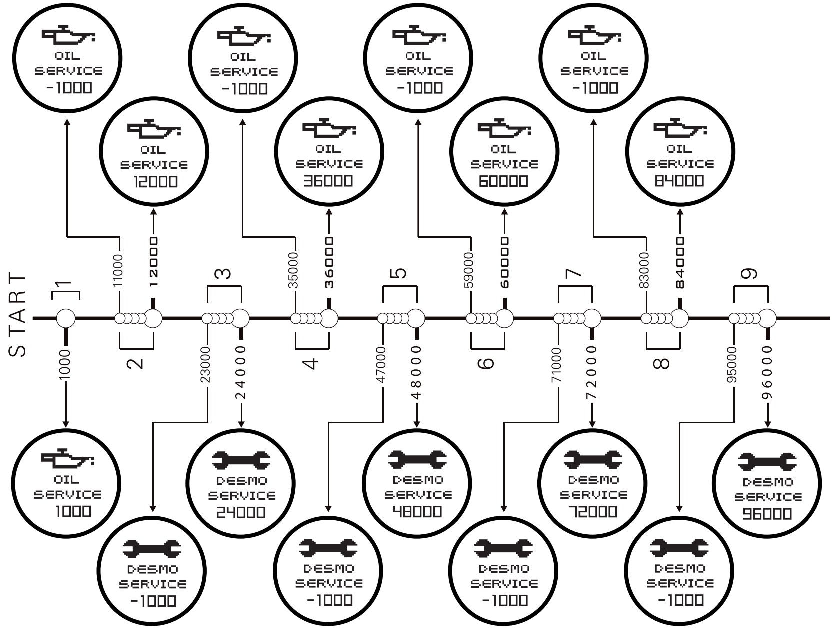

START
1
2
3
4
5
6
7
8
9
1000
11000
12000
23000
24000
35000
36000
47000
48000
59000
60000
71000
72000
83000
84000
95000
96000
OIL SERVICE 1000
OIL SERVICE -1000
OIL SERVICE 12000
DESMO SERVICE -1000
DESMO SERVICE 24000
OIL SERVICE -1000
OIL SERVICE 36000
DESMO SERVICE -1000
DESMO SERVICE 48000
OIL SERVICE -1000
OIL SERVICE 60000
DESMO SERVICE -1000
DESMO SERVICE 72000
OIL SERVICE -1000
OIL SERVICE 84000
DESMO SERVICE -1000
DESMO SERVICE 96000

図 30

SET UP – ″設定ライディングスタイル″表示

この機能は車両に設定されたライディングスタイルを表示します。ライディングスタイルは SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO の 4 種類があります。それぞれのライディングスタイルを " Riding Mode " 機能によって変更するができます。
デフォルト設定のライディングスタイルは″Riding Mode″ Tourin g です。
次の内容が表示されます。

- 設定したライディングモード
- エンジン出力 : ヨーロッパ、UK、USA バージョンでは 150 HIGH、150 LOW、100 HP、フランス、日本バージョンでは HIGH、MIDDLE、LOW。
- トラクションコントロール (DTC) のレベル
- ABS レベル

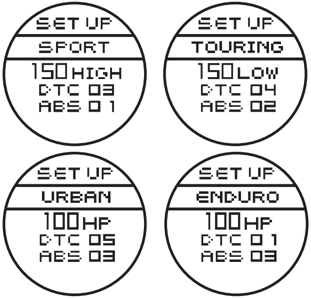


図 31

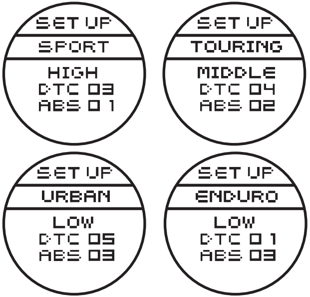


図 32

“RANGE” 表示 – 残留燃料

この機能は燃料タンク内の燃料でどれだけ走行したかを表示します。燃料レベルにより算出され、平均燃費は最後の約 30 秒の走行時間を参照しています（ “CONS.AVG” とは別）。

ヨーロッパ、カナダ、フランス、日本バージョンでは単位は Km で、UK、USA バージョンではマイルです。

車両が停止(key-off)の状態で 4 リットル以上の給油をおこなうと、次の key-on 時に燃料残量のデータが更新され、燃料の新しい量と平均燃費 18.0 Km/L を元に計算されます。そうでない場合(給油量が 4 リットル未満の場合)、車両が動き始めてからデータが更新されます(リアルタイムではありません)。

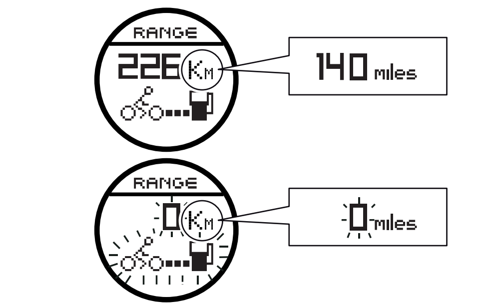


図 33

走行距離が 0 になった時、点滅表示になり、同時にマーク（車両＋ガソリンポンプ）点滅も開始します。数値はエンジン起動中かつ車両が動いている時に算出されます（車両停止中およびエンジン停止中、またはどちらか一方の場合のギア中断はお勧めできません）。

警告
給油中は車両を停止(key-off)することをお勧めします。停止せずに給油した場合(key-on/エンジン off)、車両が動き始めてからデータが更新されます(速度 0 キロ以上)。

警告
検知される燃料残量は大まかな値です。Ducati社は最後通知前の給油を推奨します。

“CONS.” 表示 – 瞬間燃費

この表示は車両の瞬間燃費を表します。
数値は消費燃料の量と最終秒の走行距離から算出されます。
ヨーロッパ、日本、中国バージョンでは、 データは”L / 100” （リットル/ 100 Km)で表示されます。”特殊設定”機能で単位を“Km / L” （キロ/リットル)に変更することができます。 UK バージョンでは、データは“mpg UK” (UK ガロンあたりのマイル数)で表示されます。
数値はエンジン起動中かつ車両が動いている時に算出されます(車両停止中もしくはエンジン停止中のギア中断はお勧めできません)。算出がされない場合、ディスプレイ上に “- -.-”が表示されます。

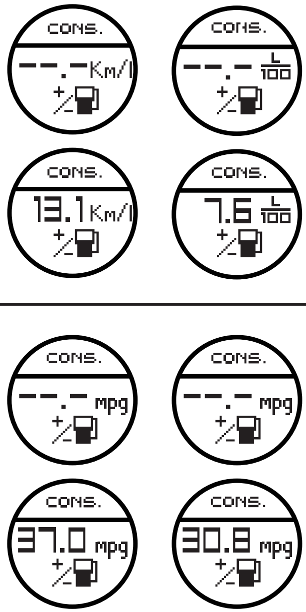


図 34

“CONS. AVG” 表示 - 平均燃費

この表示は車両の平均燃費を表します。使用燃料の量及びTrip1 の最後のリセット以降の走行距離から計算されます。TRIP 1 がリセットされると、データがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の 10 秒間は “- -.-” が表示されます。
ヨーロッパ、日本、中国バージョンでは、 データは”L / 100” (リットル/ 100 Km) で表示されます。”特殊設定”機能で単位を “Km / L” (キロ/リットル) に変更することができます。 UK バージョンでは、データは “mpg UK” (UK ガロンあたりのマイル数) で表示されます。
車体停止、エンジン作動中も計算されます (エンジン停止中のギアの中断は考慮されません)。

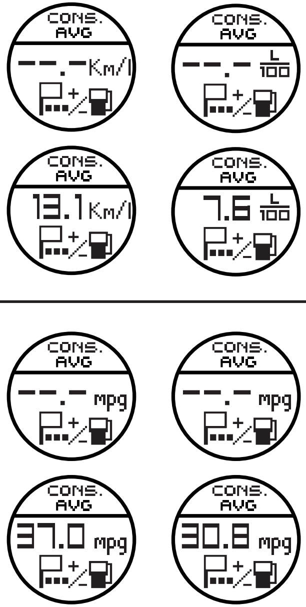


図 35

"SPEED.AVG"表示 – 平均スピード

車両の平均速度が表示されます。
TRIP 1の最後のリセット以降の走行距離及び時間から計算されます TRIP 1がリセットされると、データがリセットされ、最初のデータはリセットから10秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の10秒間は "– –.–" が表示されます。車体停止、エンジン作動中も計算されます(エンジン停止中のギアの中断は考慮されません)。表示車両速度を5%増大させたデータを表示します。
ヨーロッパ、カナダ、フランス、日本バージョンでは単位はKmで、UK、USAバージョンではmphです。

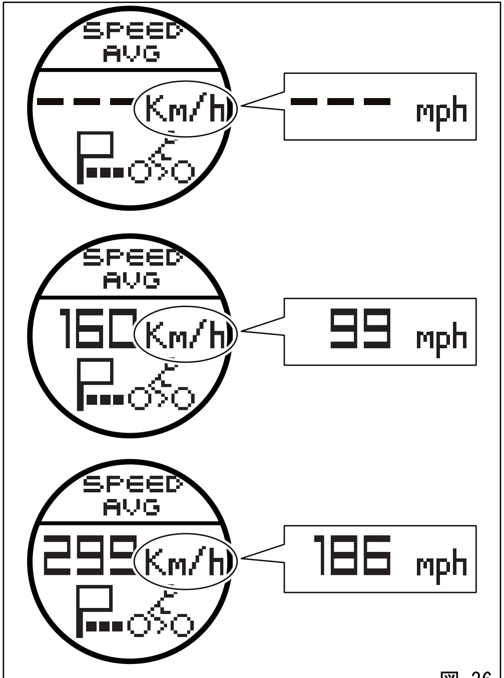


図 36

外気温インジケーター

この機能では外気温を表示します。
表示範囲：-39°C ～ +124°C
センサーエラーの場合(-40°C、+125°C または電源 OFF)は"- - -"が固定表示され、続けて車両/エンジン診断-EOBD ランプが点灯し、メニューの"エラー"リストに記録されます。

参考

停止車両にとって、エンジン熱は表示温度に影響を与えます。

ヨーロッパ、カナダ、フランス、日本バージョンでは単位は°C で、UK、USA バージョンでは°F です。

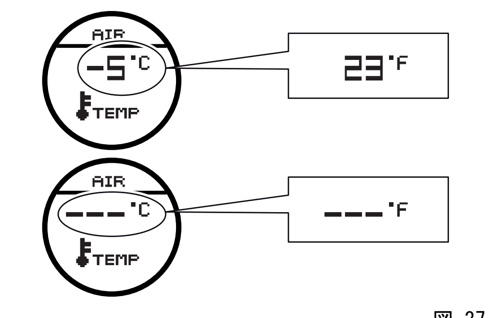


図 37

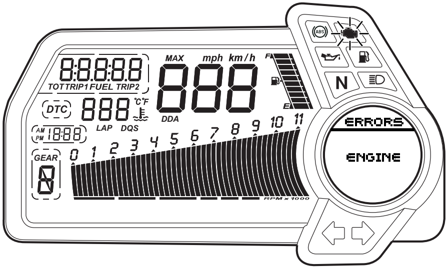


図 38

4° C (39° F) まで温度が下がった場合、氷結危険の注意が表示されます。6° C (43° F)まで温度が上がると通告は解除されます。

⚠ 警告

気温が 4° C (39° F)以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が"低い"場合は、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。

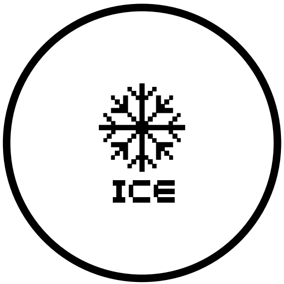


図 39

“TIME TRIP” 表示 – 走行時間

この機能は車両の走行時間を表示します。
TRIP 1の最後のリセット以降の走行時間から計算されます Trip1がリセットされると、データもリセットされます。
車体停止、エンジン作動中も計算されます（エンジン停止中のギアの中断で、時間は自動的に止まり、計算が始まると自動的に時間測定も始まります。）

図 40

Riding Mode (ライディングスタイル変更)

この機能で車両のライディングスタイルの変更(SET UP)が可能です。
それぞれのライディングスタイルは各自のトラクションコントロール (DTC - Ducati Traction Control)、ブレーキコントロール(ABS - Antilock Braking System)、エンジン排気量と出力(Engine)を兼ね備えています。
ライディングスタイルを変更するたびに車高も変更します。
車両のライディングスタイル変更は、リセットボタン(4)を一度だけ押し、円形ディスプレイ上に"SET UP"メニューが表示されます。

- ガスグリップが閉じており、ブレーキがかかっていない、または車両が停止している場合、インストルメントパネルは選択したライディングスタイルを承認し(*)、"スタンダードスクリーン"の表示に戻ります。
- ガスグリップが開いている、ブレーキがかかっている、または車両が動いている場合、インストルメントパネルはディスプレイに"CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES"(スロットルを閉じてブレーキを放してください)と表示します。すべての条件が確認された場合にのみ(ガスグリップが閉じており、ブレーキがかかっておらず、車両が停止している)、インストルメントパネルは選択したライディングスタイルを承認し(*)、"スタンダードスクリーン"に戻ります。

参考

(*)ライディングモードを変更した際に ABS システムの状態が on/off または off/on に変更された場合、去っていしたライディングスタイルの確認時にインストルメントパネルは"ABS の起動/解除の手続き"も表示します。

"SET UP" メニューが表示され、リセットボタン(4)を 10 秒連続で押さなければ、 インストルメントパネルは無変更のまま、自動的に表示が消えます。

警告

Ducati 社は車両停止時のライディングスタイル変更をお勧めします。運転中にスタイル変更を行なう場合は、充分ご注意下さい（低速での変更をお勧めします）。

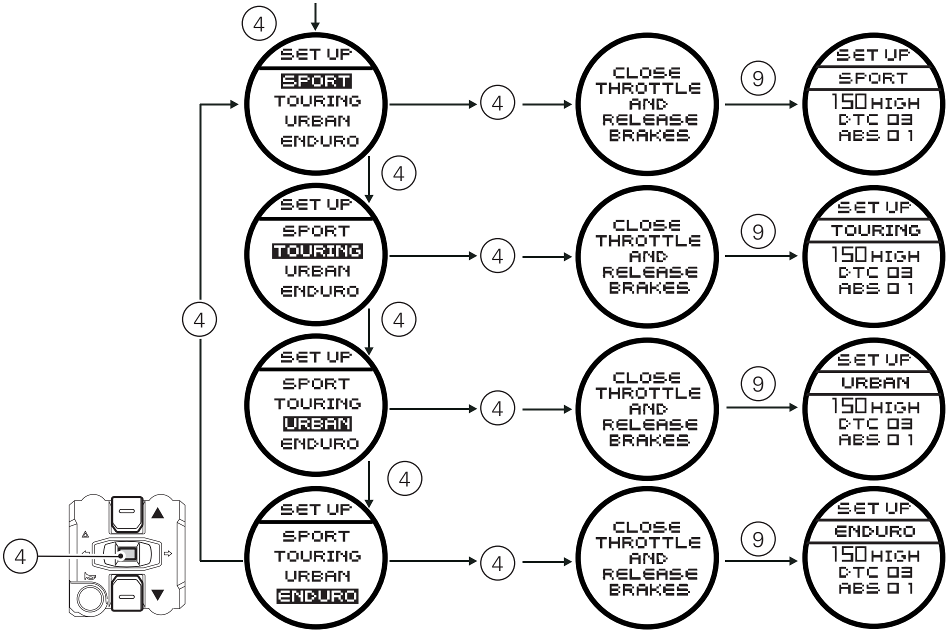

4
SET UP
SPORT
TOURING
URBAN
ENDURO
4
CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES
9
SET UP
SPORT
150 HIGH
DTC 03
ABS 0 1
SET UP
TOURING
150 HIGH
DTC 03
ABS 0 1
SET UP
URBAN
150 HIGH
DTC 03
ABS 0 1
SET UP
ENDURO
150 HIGH
DTC 03
ABS 0 1

図 41

セッティングメニュー

このメニュはいくつかの車両機能の設定および使用を可能にします。ボタン(2)を押して″設定メニュー″に入ります。

参考

このメニューが表示されているときは、メインディスプレイ上でのスクロールはできなくなります。

重要

安全性の理由から、車両スピードが 20 Km/荷ならナイト設定メニューに入ることはできません。このメニューが表示されているときに車両スピードが 20 Km/h を超えると、インストルメントパネルは自動的に″メイン″の表示に変わります。

設定メニューの項目は次の通りです。

- EXIT
- BATTERY
- SETUP
- B.LIGHT
- LAP
- RPM
- CLOCK
- PIN CODE
- EXIT

セッティングメニューから出る場合は、ボタン(1)またはボタン(2)で “EXIT” （メニュ項目の最初と最後にあります）を選択し、リセットボタンを押します(4)。

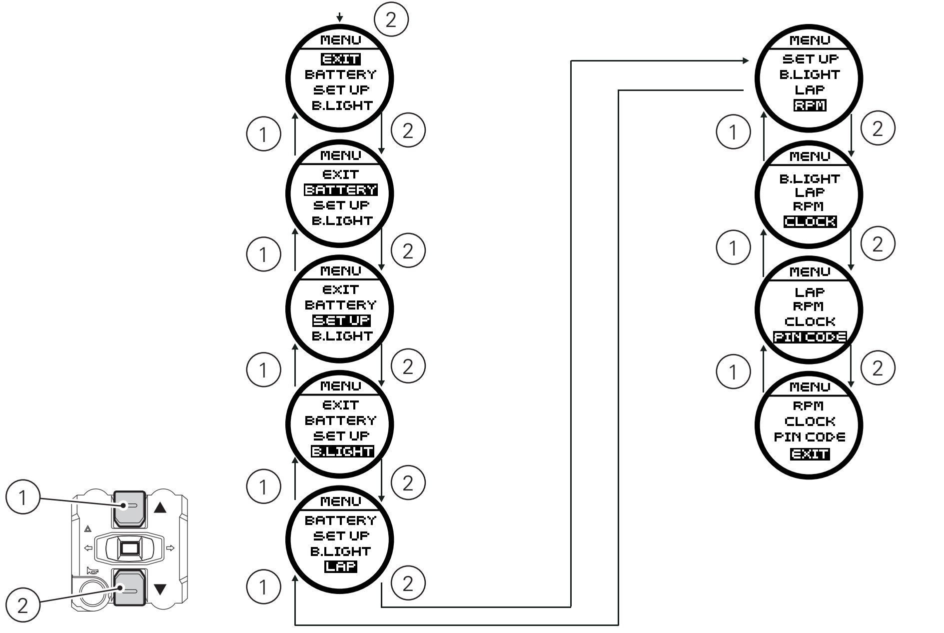


図 42

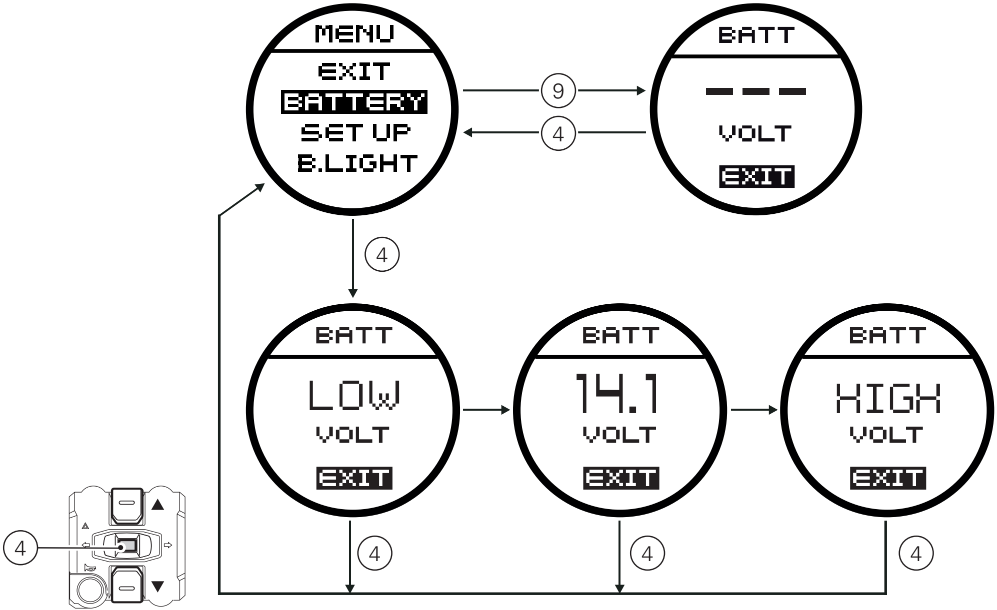
バッテリーテンション表示(BATTERY)

ここではバッテリーテンション表示機能を説明します。
この機能は"設定"ページ 73 メニューから、"BATTERY"のページに入ります。
ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

- バッテリーテンションが 11.8 から 14.9 Volt の場合、固定表示になります。
- バッテリーテンションが 11.0 から 11.7 Volt の場合、点滅表示になります。
- バッテリーテンションが 15.0 から 16.0 Volt の場合、点滅表示になります。
- バッテリー電圧が 10.9 Volt 以下の場合、"LOW"の文字が点滅します。
- バッテリー電圧が 16.1 Volt 以上の場合、"HIGH"の文字が点滅します。

参考

データが出力できない時(9)は "- - -"が表示されます。


MENU
EXIT
BATTERY
SET UP
B.LIGHT
9
4
BATT

VOLT
EXIT
4
BATT
LOW
VOLT
EXIT
BATT
14.1
VOLT
EXIT
BATT
HIGH
VOLT
EXIT
4
4
4
4

図 43

“Riding Mode” のパーソナライズ

この機能でそれぞれのライディングスタイルの設定が可能になります。
機能を表示するには、″設定″メニューページ 73 から、″SET UP″のページに入ります。
この機能に入ると、円形ディスプレイ(B)に 4 種類のライディングスタイル(SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO)が表示されます。パラメーターをパーソナライズするには、ボタン(1 または 2)で変更したいライディングスタイルを選択し、リセットボタン(4)を押して決定します。
パーソナライズできるパラメーターは、″DTC″(Ducati Traction Control)、″ABS″ (Antilock Braking System)、″ENGINE″ (エンジン)です。
更新事項は Battery-Off 後もメモリー消去されません。
DTC パラメーターの変更は、″DTC (Ducati Traction Control)″の章ページ 79 を参照してください。
ABS パラメーターの変更は、″ABS 設定機能″の章ページ 85 を参照してください。
エンジンパラメーターの変更は、ENGINE (エンジン出力コントロール) の章ページ 89 を参照してください。
それぞれのライディングスタイルを Ducati 社初期設定に戻すには、” DEFAULT” で可能です。
″デフォルト″パラメーターの変更は、″DEFAULT (Ducati 初期設定修復)″の章ページ 91 を参照してください。

警告

パラメーターの変更は車両の″セットアップ″に習熟している場合のみおこなうことをお勧めします。
パラメーターが不注意によって変更された場合は、″DEFAULT″機能を使用してパラメーターを修復してください。

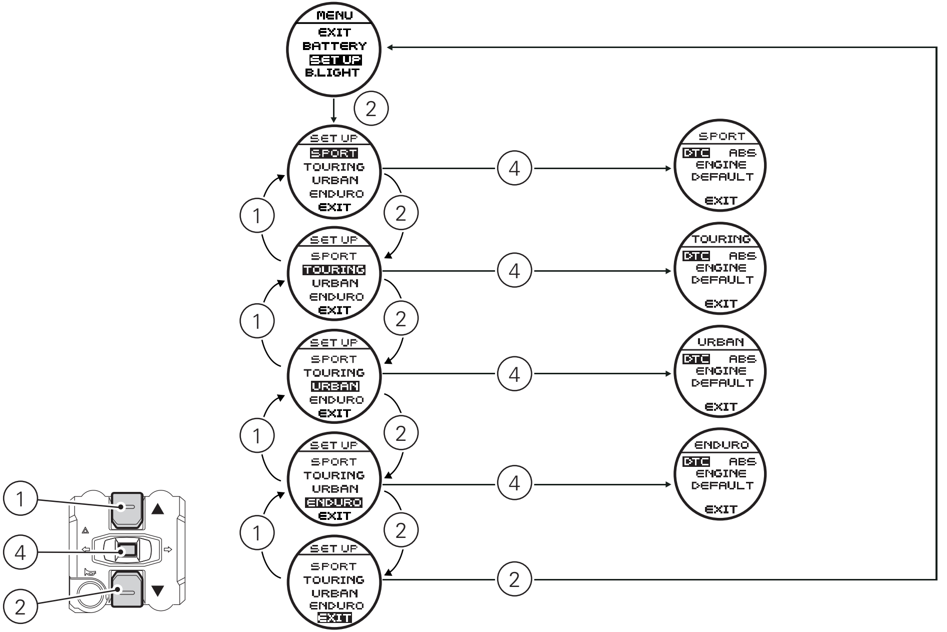

MENU
EXIT
BATTERY
SET UP
B.LIGHT
SET UP
SPORT
TOURING
URBAN
ENDURO
EXIT
SPORT
DTC ABS
ENGINE
DEFAULT
EXIT
TOURING
URBAN
ENDURO
1
2
4

図 44

DTC セッティング機能(Ducati Traction Control)

この機能はDTC (Ducati Traction Control)のパーソナライズを可能にします。
機能を表示するには、"設定"メニューページ 73 から、"SET UP"のページに入ります。
パーソナライズにはボタン(1 または 2)で更新したいライディングスタイルを選択し、リセットボタン(4)で DTC 画面に移ります。
円形ディスプレイの機能の入り口上部に、設定した DTC レベルが "LEVEL." で表示されまず。トラクションコントロールの介入レベルは 1 から 8 まであり、設定した数字に合わせて増加します。
DTC レベルの更新には、ボタン(1)と(2)で"LEVEL"を選択し、リセットボタン(4)を押します。ディスプレイには設定したい数字が強調表示されます。ボタン(1)および(2)で数字を大きくしたり小さくしたりすることができます。リセットボタン(4)を押して新しいレベルを決定します。
"OFF"を選択すると、DTC は解除されます。
この時点で MEMORY" 表示が強調表示されている状態で reset ボタン(4)を押し、新しい設定をメモリーします。
"LEVEL"表示が更新され、新設定がメモリー済みである確認がされます。
この機能を終了するには "EXIT" の文字を選択し、リセットボタン(4)を押してください。DTC はレベル 1 からレベル 8 まであります。DTC はレベル 1 からレベル 8 まであります。

警告

DTC の介入レベル n. 01 または n. 02 を選択し、メモリーすると、自動的に"DTC OFF ROAD"の警告が表示されます。この場合は、運転に細心の注意を払い、DTC のこの設定は行動を走行する際には使用せず、オフロードのみで使用するようにしてください。

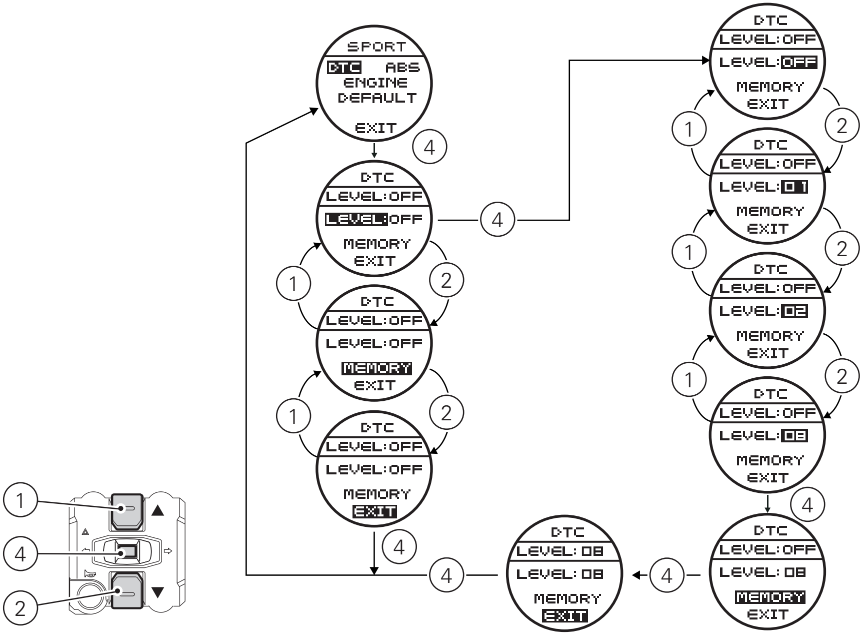

SPORT
DTC ABS
ENGINE
DEFAULT
EXIT
DTC
LEVEL:OFF
LEVEL:OFF
MEMORY
EXIT
LEVEL:01
LEVEL:02
LEVEL:08
LEVEL: 08
1
2
4

図 45

下記の表は、各タイプのライディングに適したDTC レベルで、″RIDING MODE″のデフォルトで設定されているものです。

DTC レベル	ライディングモード	使用	DEFAULT?
1	ENDURO プロフェッショナル	熟練ライダー向けオフロード仕様 。リアホイールスピンが高めです。アスファルト上での接地を失っても適切なコントロールを保証できません。	NO
2	ENDURO	普通ライダー向けオフロード仕様 。アスファルト上での接地を失っても適切なコントロールを保証できません。	ライディングモード″ENDURO″のデフォルトレベル
3	TRACK	熟練ライダー向けサーキット仕様 。スキッドします	NO
4	SPORT	路上およびサーキット上で、スポーティライディング	ライディングモード″SPORT″のデフォルトレベル
5	TOURING	ノーマルライディング	ライディングモード″TOURING″のデフォルトレベル

DTC レベル	ライディングモード	使用	DEFAULT?
6	URBAN	ENGINE 100HP (最大出力 100 HP)で、とても慎重なライディングです。	ライディングモード"URBAN"のデフォルトレベル
7	RAIN	濡れた路面	NO
8	HEAVY RAIN	路面は濡れ、アスファルトは滑りやすい	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告

あなたの車両のDTCシステムの8レベル調整は、車両に搭載されているタイヤの種類(メーカー、モデル、サイズなどの特徴)によって決定されています。
標準装備のタイヤと異なったサイズのタイヤを使用する場合、システム機能の特徴を変更することができます。
標準装備のタイヤとモデルやメーカーが違うが、サイズクラスが同じ(リア＝190/55-17、フロント＝120/70-17)など、少し違うだけのタイヤを使用する場合、 システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。
サイズクラスの違うタイヤ、またはサイズが少しだけ違うタイヤを使用する場合、システム機能は設定可能な8レベルのどれでも納得するものにはならないでしょう。この場合、システムは解除する事をお勧めします。

レベル8を選択すると、DTCコントロールユニットはリアタイヤのわずかなスピンにも対応します。
レベル8とレベル1の間には、その他に6つのレベルが存在します。DTCの介入度はレベル8から1に向かい減少します。
レベル1および2はオフロード専用を念頭にしたもので、アスファルト上での接地を失っても適切なコントロールを保証できません。
レベル3、4ではDTCコントロールユニットはリアタイヤにカーブ出口でのスピンおよびスリップをさせることができます。これらのレベルはサーキット内での使用および熟練者の使用時に設定することを推奨します。
正しいレベルの選択は、3つの観点から行います：

1) 接地(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
2) レイアウト/行程(同じような、または全く異なったスピードでのカーブ)
3) ライディングスタイル(より"丸く"又は"鋭く")。

定着の状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中の定着状況に関連します(後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイス参照)。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に均等な速度で走行するカーブがある場合、カーブごとに満足できる介入レベルを見つ

けることはとても簡単です。その反対に、よりゆるいカーブがある場合、より譲歩した介入レベルが必要です(ゆるいカーブ時、DTC はその他のカーブよりもより介入しようとします)。

ライディングスタイルからのレベル選択
DTC は″丸く″操縦する人にはバイクを倒し、″鋭く″操縦する人には車体を上げて、カーブからより早く抜けれるよう介入します。

サーキットでの使用時のアドバイス

タイヤを温める間の数周は、システムとの接触を良くするため、レベル 6 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 5、4、と DTC の最適なレベルに達するまで調整します(タイヤを温めるため、ひとつのレベルごとに数周する)。
1 つか 2 つのゆるいカーブ以外は納得のできるレベルの場合、違うレベルに設定しようと調整するよりは、ゆるいカーブでのライディングスタイルを少し″鋭く″し、カーブ出口での車体角度をより早く上げて走行するとよいでしょう。

一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動し、ライディングモード URBAN(DTC 介入レベル 6 を想定)を選択します。車両を各自のスタイルに合わせて運転します。DTC の介入が大きすぎる場合には、ライディングモード TOURING(DTC 介入レベル 5 を想定)を試してください。これでも介入が大きすぎる場合には、ライディングモード SPORT(DTC 介入レベル 4 を想定)を試してください。どのライディングモードでも満足できない場合、好みの介入レベルが見つかるまで上記の表の指示に従い、ライディングモードをパーソナライズすることが可能です。
定着状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更し、設定レベルでは満足できない場合は、次のレベルに設定します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例:レベル 7 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 6 に、レベル 7 では全く DTC の介入がないと感じる場合はレベル 8 に)。

ABS 設定機能

この機能はABS(Antilock Braking System)の介入レベルをパーソナライズしたり、必要に応じて解除したりすることができます。
機能を表示するには、"設定"メニューページ 73 から、"SET UP"のページに入ります。
変更したい"ドライビングスタイル"を選択し、"ABS"機能に入ります。ディスプレイの機能の入り口上部に、設定した ABS レベルが "LEVEL." で表示されます。
ABS レベルの更新には、ボタン(1)と(2)で"LEVEL"を選択し、ボタン(4)を押します。
ディスプレイには設定したい数字が強調表示されます。ボタン(1)および(2)で数字を大きくしたり小さくしたりすることができます。ボタン(4)を押して新しいレベルを決定します。
"OFF"を選択すると、ABS は解除されます。
この時点で新設定をメモリーするには、ボタン(4)を3秒間押しながら、"MEMORY" を表示してください。
"LEVEL"表示が更新され、新設定がメモリー済みである確認がされます。
この機能を終了するには "EXIT" の文字を選択し、ボタン(4)を押してください。

⚠ 警告

ABS"OFF"を選択し、メモリーすると、"ABS OFF"の警告が自動的に表示されます。この場合、運転とブレーキには特に注意してください。

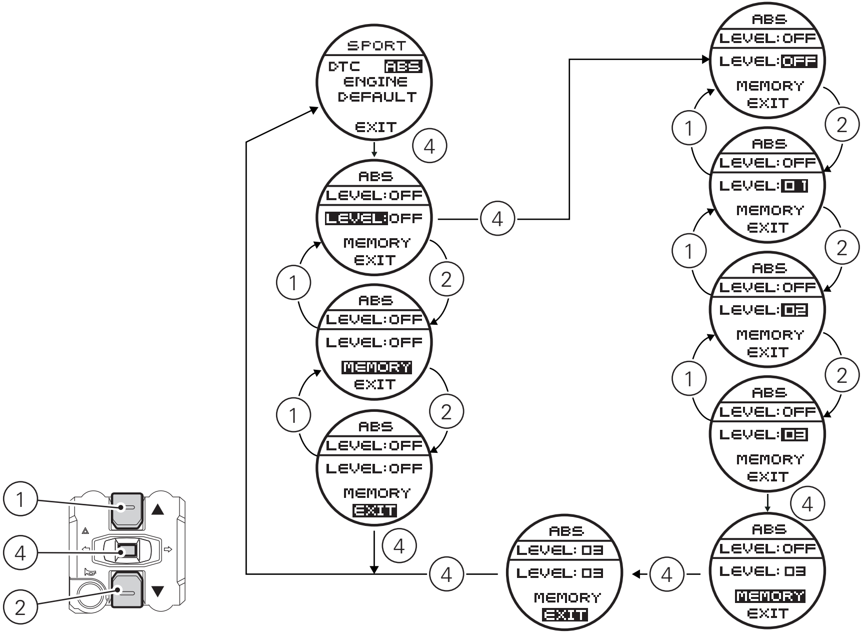

SPORT
DTC ABS
ENGINE
DEFAULT
EXIT
ABS
LEVEL:OFF
LEVEL:OFF
MEMORY
EXIT
LEVEL:01
LEVEL:02
LEVEL:03
LEVEL: 03
1
2
4

図 46

下記の表は、各タイプのライディングに適した ABS レベル、及び、ユーザーが選択できる”ライディングモード”のうちどのレベルがデフォルト設定かを表示します。

レベル	スタイル	使用	DEFAULT?
停止		ABS システム解除	NO
1	ENDURO	熟練ライダー向けオフロードでの使用のみ(ストリートでの使用は推奨しません)。このモードでは ABS は両方のホイールに機能します(ブロックを防止)。しかしリアホイールにはより長い時間ホイールがブロックできるようコントロールします(オフロードでのブレーキングをしやすくするため)。システムはリフトアップを制御しませんが、フロント及びリア間に若干のブレーキ配分を実行します。	ライディングモード”ENDURO”のデフォルトレベル。
2	SPORT	高い定着性のある条件でのストリートでの使用向け。このモードでは ABS は両方のホイールに機能します。フロントブレーキのみでブレーキをかけるときには、ブレーキ配分をおこないリアキャリパーにも圧力をかけます。このキャリブレーションは制動力を優先し、ライダーがホイールのリフトアップを管理できるようにするため、アンチリフトアップコントロールは起動していません。	ライディングモード”SPORT”のデフォルトレベル。

レベル	スタイル	使用	DEFAULT?
3	ROAD	あらゆる状況での運転向け。このモードでは ABS は両方のホイールに機能します。フロントブレーキがかけられたとき、ブレーキ配分をおこないリアキャリパーにも圧力をかけます。システムは多くの場合リフトアップを制御し、安全で安定したブレーキをかけます。	ライディングモード"TOURING"および"URBAN"のデフォルトレベル。

ENGINE（エンジン出力コントロール）セットアップ

この機能でエンジン出力と排出量をパーソナライズします。
機能を表示するには、"設定"メニューページ 73 から、"SET UP"のページに入ります。
パーソナライズにはボタン(1 または 2)で更新したいライディングスタイルを選択し、リセットボタン(4)で"ENGINE"画面に移ります。
機能の入り口では、円形ディスプレイの上部にエンジン設定が表示されます。

- 150 HIGH、150 LOW、100 HP（EU、UK、USA バージョン）
- HIGH、MID、LOW（フランス、日本バージョン）。

エンジン出力レベルの変更には、ボタン(1)および(2)で"NEW SET"を選択し、リセットボタン(4)を押します。
ボタン(1)および(2)で、3 つ(150 HIGH、150 LOW、100 HP)の選択肢、フランスおよび日本バージョンは(HIGH、MID、LOW)から選択が可能です。リセットボタン(4)を押し、新しいレベルを決定します。
この時点で新設定をメモリーするには、リセットボタン(4)を 3 秒間押しながら、"MEMORY" を表示してください。
表示が更新され、新設定がメモリー済みであることが確認されます。この機能を終了するには "EXIT" の文字を選択し、リセットボタン(4)を押してください。

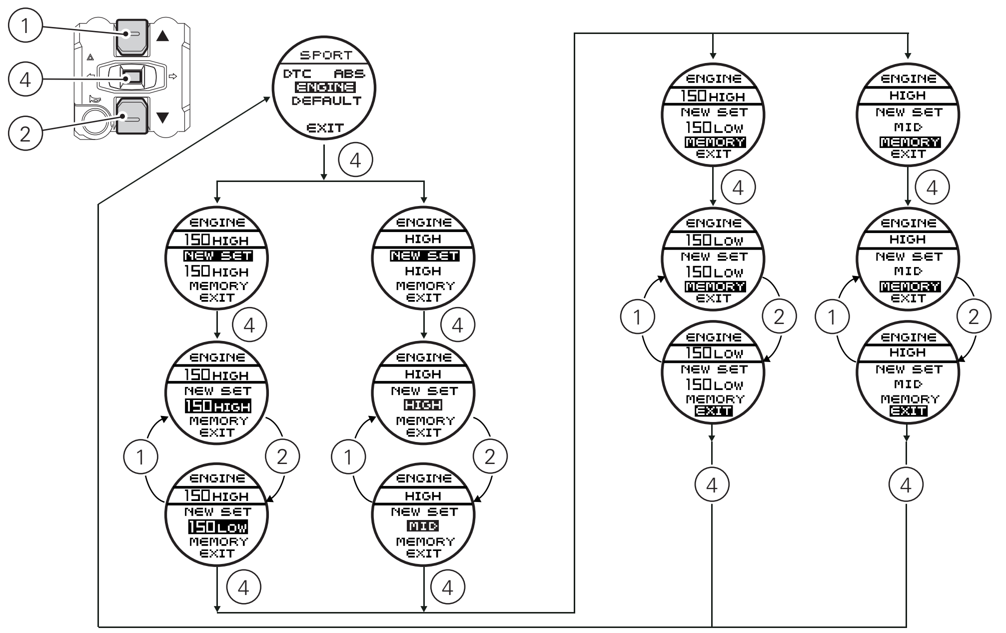

1
4
2
SPORT
DTC ABS
ENGINE
DEFAULT
EXIT
4
ENGINE
150 HIGH
NEW SET
150 HIGH
MEMORY
EXIT
ENGINE
HIGH
NEW SET
HIGH
MEMORY
EXIT
ENGINE
150 HIGH
NEW SET
150 LOW
MEMORY
EXIT
ENGINE
HIGH
NEW SET
MID
MEMORY
EXIT
ENGINE
150 LOW
NEW SET
150 LOW
MEMORY
EXIT

図 47

DEFAULT （ Ducati 社設定の修復）

この機能で Ducati 社設定から、それぞれのライディングスタイルに設定が可能です。機能を表示するには、″設定″メニューページ 73 から、″SET UP″のページに入ります。
ボタン(1)および(2)で設定を修復したいライディングスタイルを選択し “DEFAULT” 機能に入ります。
円形ディスプレイ上に、 “DEFAULT PARAMETER ?” が表示されます。パラメーター更新には “YES” を選択し、リセットボタン(4)を押します。パラメーターの回復には、ディスプレイに″WAIT…″ と 2 秒間表示されます。手続きが終了すると、円形ディスプレイにパラメーターの回復が正常に行われたことを表す″DEFAULT OK″ が表示されます。

重要
この作業で全てのライディングスタイルパラメーターを修復します。

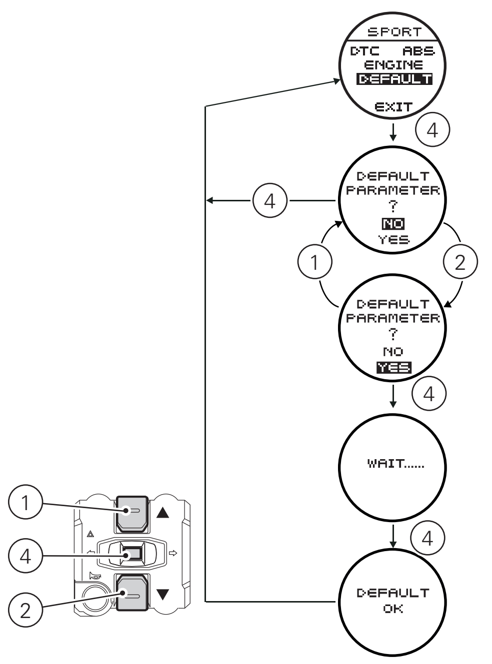


図 48

インストルメントパネルバックライト調整機能

この機能ではインストルメントパネル画面上の光の調整を行います。
この機能を表示するには、″設定″メニューページ 73 ページから″B.LIGHT″のページに入ります。
ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

- 矢印は現在使用しているレベルをさします。
- ボタン(1)および(2)で新しいレベルを選択できます。
- 新設定をメモリーするには、r リセットボタン(4)を押します。矢印がメモリーした条件に移動します。

この機能終了には “EXIT” を選択し、リセットボタン(4)を押します。

″MAX″調整：この設定がバックランプは一番明るい状態です。
″MID″調整：この設定はバックランプは MAX より 30% 減の明るさです。
″MIN″調整：この設定はバックランプは MAX より 70% 減の明るさです。

参考

バッテリーが中断された場合(Batt-OFF)、電源の確保および次の Key-On 時に画面の光調整もリセットされ、いつも最大レベルにセットされます。

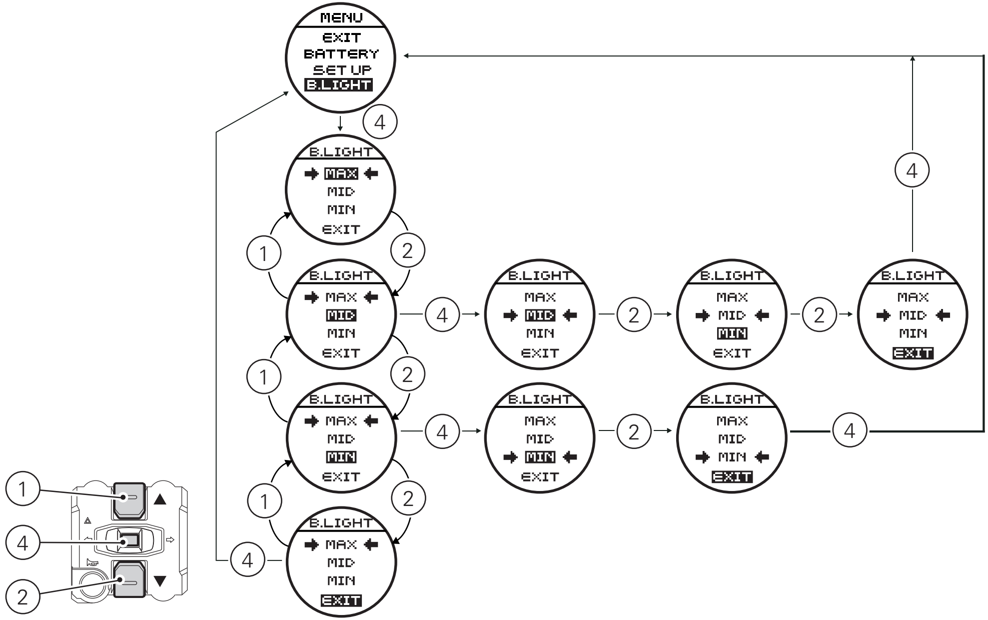


図 49

LAP (ラップタイム)起動/解除機能

この機能で LAP (ラップタイム)の起動/解除が可能です。
機能を表示するには、″設定″メニューページ 73 から″LAP″のページに入ります。

- 矢印は現在使用しているレベルをさします。
- ボタン(1)および(2)で、新しい設定を選択できます。
- 新設定をメモリーするには、リセットボタン(4)を押します。
- 矢印はメモリーされたレベルに移動します。

この機能終了には“EXIT”を選択し、リセットボタン(4)を押します。
“OFF”設定にすると、LAP 機能は解除されます。
“ON“ 設定にすると、LAP 機能は起動されます。
(LAP 機能設定ページ 96 参照)

参考

″LAP″機能が起動中、フラッシュボタン (3) は、ハイビーム機能の “flash” とラップタイム機能の Start / Stop の両方に使われます。

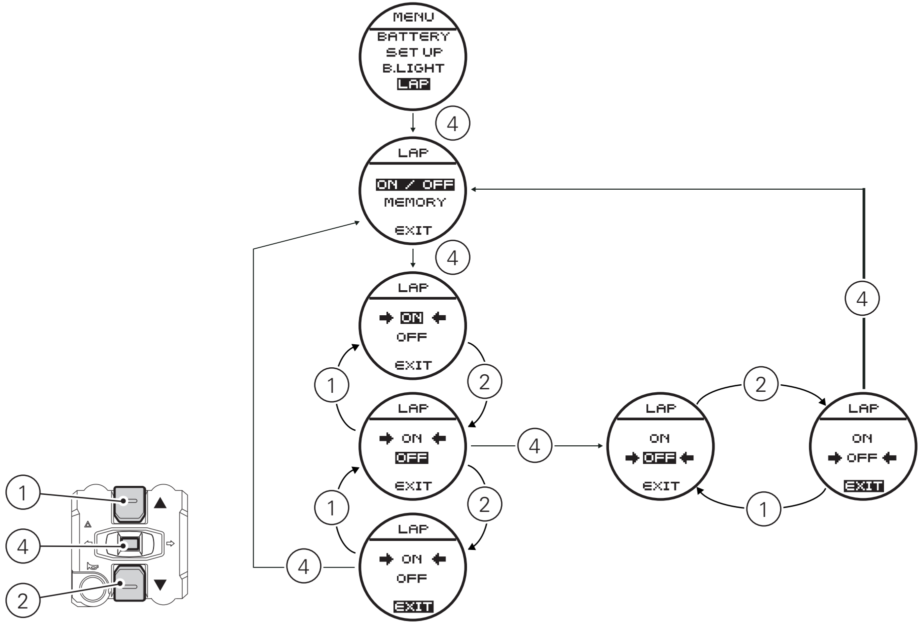

MENU
BATTERY
SET UP
B.LIGHT
LAP
4
LAP
ON / OFF
MEMORY
EXIT
4
LAP
ON
OFF
EXIT
1
2
LAP
ON
OFF
EXIT
1
2
LAP
ON
OFF
EXIT
4
4
LAP
ON
OFF
EXIT
2
LAP
ON
OFF
EXIT
1
4
1
4
2

図 50

LAP 設定

この機能で LAP の設定をします。
機能が起動状態であれば(LAP 起動/解除ページ 94 参照)、以下の方法でラップタイム機能の設定が可能です。

- flash ボタン(3)を一度押すと、クロノメーターが最初のラップをとりはじめ、円形ディスプレイ(B)上に“START LAP”が 4 秒間表示され、その後元の表示に戻ります。
- 以後、flash ボタン(3)を押すたびに、円形ディスプレイ(B)上にはラップタイムが自動的に 10 秒間表示され、その後元の表示に戻ります。

30 回までラップタイムを記録することができます。メモリーがフルの場合、メモリーがリセットされるまでは、フラッシュボタン（3）を押してもラップタイムは記憶せず、円形ディスプレイ上に 3 秒間″LAP MEMORY FULL″と点滅表示されます。LAP 機能を OFF にした場合、そのラップは記録されません。LAP 機能使用中に突然エンジンが止まった場合(キー OFF)、LAP 機能は自動的に OFF になります(クロノメーターが作動していても、ラップタイムは記憶されません)。
ラップタイムの″STOP″指示が出されなかった場合、9 分 59 秒 99 の時点でクロノメーターは 0 に戻り、ストップ指示が出されるまでラップタイムを測定し続けます。LAP 機能が ON になり、″メモリー″がリセットされず、記憶されている周回数が 30 未満（例えば 18 周分メモリーされている）の場合、インストルメントパネルはメモリーがいっぱいになるまで記憶します（この場合はさらに 12 周分記憶可能）。
この機能では、記録中のラップタイムの表示のみが設定されています。ラップメモリー機能の全データを完全に表示するために、 他のデータ（最高速度、エンジン最高回転数、最高値に達した場合リミッター） も同様に記録されます(メモリーされた LAP の表示)。

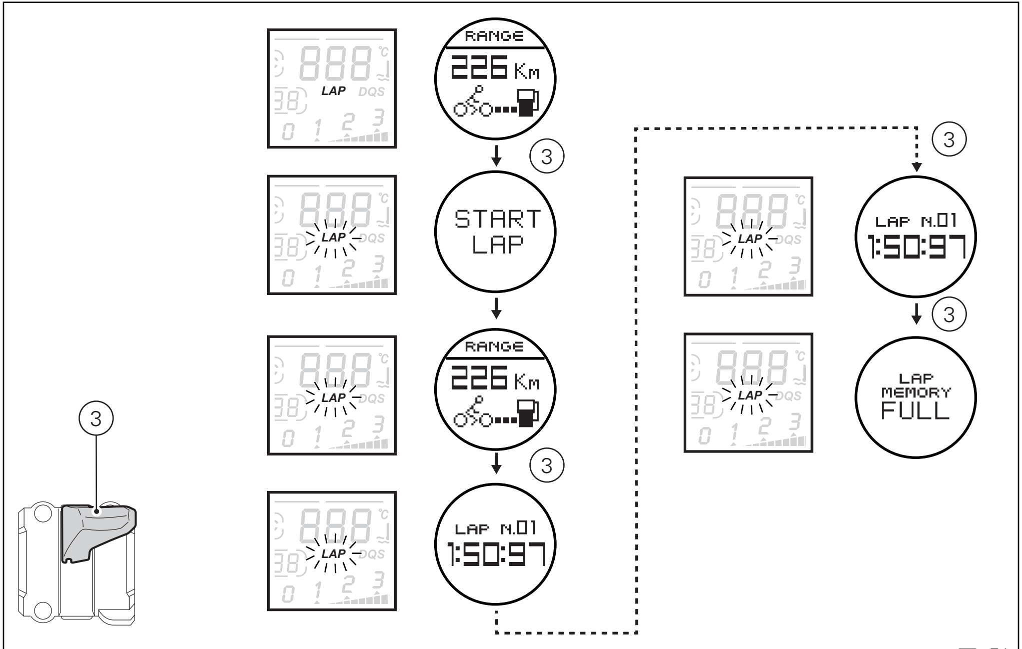


図 51

LAP 記録表示

この機能で LAP 記録表示をします。
機能を表示するには、″設定″メニューページ 73 から″LAP″のページに入ります。
次の表示で、“MEMORY” の文字が強調表示された状態でリセットボタン(4)を押します。
ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

円形ディスプレイ(B)

- 表示中のラップ数(例: N.1)
- NEXT は次の LAP 表示に移るときに使います。
- RESET は記録されている全てのラップタイムを消去する時に使います。

この機能終了には “EXIT” を選択し、リセットボタン(4)を押します。

LCD（メインディスプレイ） (A)

- 上部左 かかった時間(例: 1:50:97)
- 上部右 記録 LAP で出した最高速度
- 下部 記録 LAP で出した最高エンジン回転数(RPM)

参考

記録最高速度はメインディスプレイ(A)に表示されます (8%増大させたもの)。データ取得中に最高速度が 299km/h(186 mph)を超えた場合、到達した速度のデータが表示されます(例 : 316 Km/h)。

メモリーにデータが記録されていない場合、30 のラップタイムが″0.00.00″と表示されるクロノメーター、最大 rpm = 0、および最高速度= 0 と共に表示されます。ラップタイム記録中に、エンジンがリミッター限界に達した場合、記録タイム表示時に Over Rev ランプ(9)が点灯します。別の記録された周回を表示するには、″NEXT″の文字を強調表示し、リセットボタン(4)を押します。リセットボタン(4)を押すたびに、その次の周回が表示されます。全ての記録タイムを消去するには、RESET 表示からリセットボタン(4)を 3 秒間押します。

参考

記録タイムが消去されると、LAP 機能が起動中でも自動的に OFF になります。

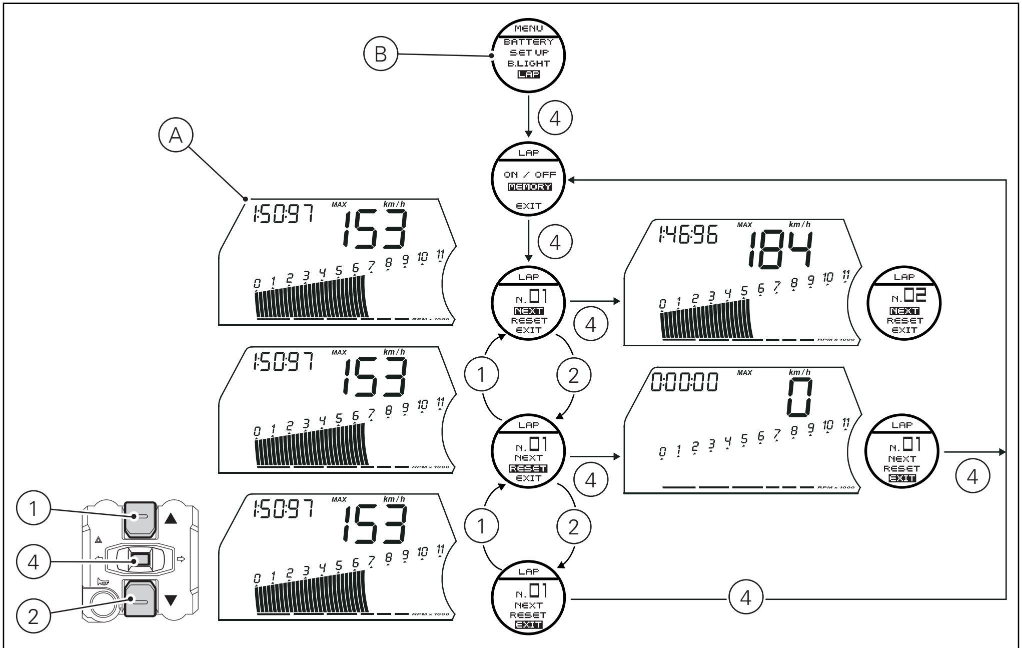

B
MENU
BATTERY
SET UP
B.LIGHT
LAP
A
ON / OFF
MEMORY
EXIT
N.01
NEXT
RESET
N.02
1:50:97
153
MAX
km/h
1:46:96
184
0:00:00
0
RPM x 1000
1
2
4

図 52

デジタルエンジン回転表示機能

この機能はより正確なエンジン回転数(RPM)を表示します。

機能を表示するには、"設定"メニューページ 73 から"RPM"のページに入ります。

ディスプレイにはエンジン回転情報が 50 rpm から正確に表示されます。

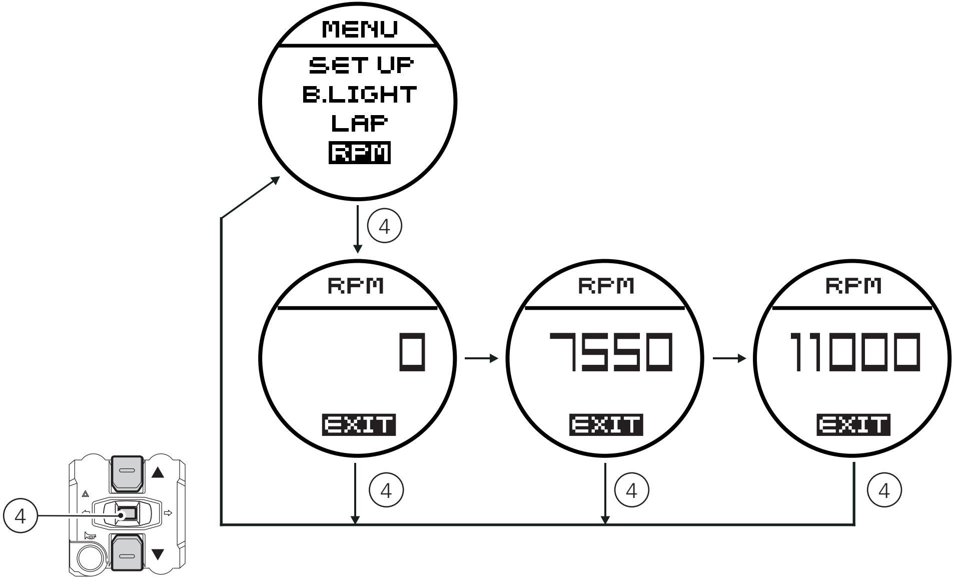

MENU
SET UP
B.LIGHT
LAP
RPM
4
RPM
0
EXIT
RPM
7550
EXIT
RPM
11000
EXIT
4
4
4
4

図 53

時計の調整機能

この機能は時計の調整設定をします。
機能を表示するには、"設定"メニューページ 73 から"CLOCK"のページに入ります。
次の表示で"SET UP"の文字を強調表示した状態でリセットボタン(4)ボタンを 3 秒間押し、実際の調整をおこないます。
円形ディスプレイ(B)に"SET CLOCK ….."の文字が表示され、時間の設定をおこなっていることを示します。時間の設定はメインディスプレイ(A)に表示されます。

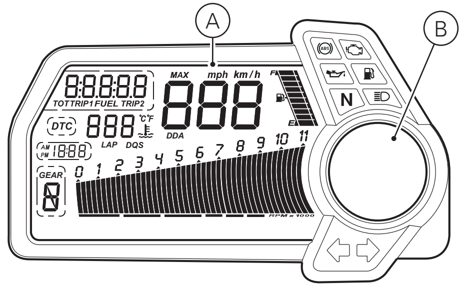


図 54

時計のセットアップ

この機能の入り口では"AM"の文字が点滅しています。ボタン(2)を押すと、"PM"の文字が点滅します。
ボタン(2)を押すと、ひとつ前のステップに戻ります(時間が 00:00 の場合は、AM から PM へ移ると 12:00 が表示されます)。
ボタン(1)を押すと、時間表示が点滅し始め、時間の設定に入ります。
ボタン(2)を押すたびに 1 時間ずつ増えます。ボタン(2)を長押しすると、1 秒ごとに 1 時間ずつ増えます(ボタンを長押ししている間は時間は点滅しません)。
ボタン(1)を押すと、分設定に移り点滅します。ボタン(2)を押すたびに 1 分ずつ増えます。ボタン(2)を長押しすると、1 秒ごとに 1 分ずつ増えます。
ボタン(2)を 5 秒以上押し続けると、100ms につき 1 分の割合で数字が増します(ボタン(2)を押している間、数字は点滅しません)。ボタン(1)を押すと、全ての新しい時間表示は点滅し、円形ディスプレイ上に“MEM”の表示が出ます。
新しい時間設定を決定（メモリー）する場合は、リセットボタン(4)を押します。
この機能終了には“EXIT”を選択し、リセットボタン(4)を押します。

参考

バッテリーが中断された場合、電源の確保および次の Key-On 時に、時計はリセットされます（自動的に 00:00 から再開します)。

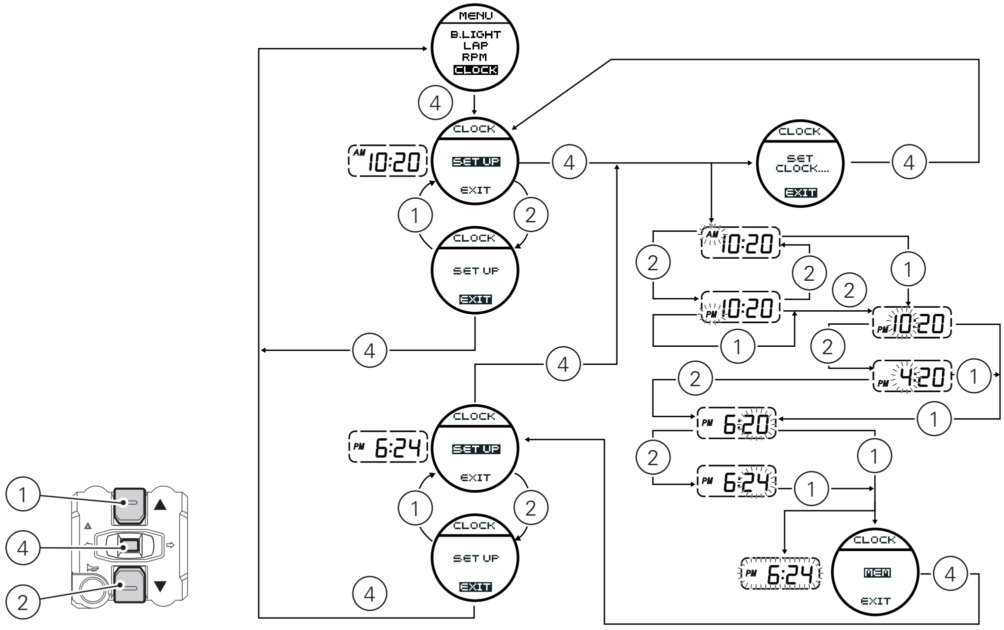

MENU
B.LIGHT
LAP
RPM
CLOCK
CLOCK
SET UP
EXIT
AM 10:20
SET
CLOCK....
PM 10:20
PM 4:20
PM 6:20
PM 6:24
MEM

図 55

イモビライザーシステム

この車両には電子制御でエンジンをブロックする盗難防止システム(イモビライザー)が搭載されています。イモビライザーは、毎回エンジンを停止する度に自動的に作動します。

各キーボディにはトランスポンダーが内蔵されています。トランスポンダーからの信号は、フェアリングに組み込まれたアンテナを介してコントロールユニットに送られます。この信号はパスワードの役割を果たし、イグニッションキーがスイッチに差し込まれる度に変更し、CPU がその“パスワード”によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー

車両には、以下のキーが付属しています：

- アクティブキー１本 (1)
- パッシブキー１本(2)

これらのキーは、異なる方法でHands freeシステムkey-on状態にする為のコードをもっています。

アクティブキー(1)は普通使用のキーで、ボタン(A)がついています。それを押すと金属部分(B)が出てきます。
金属のへこみの最後部分は、柄の内側に入っています。

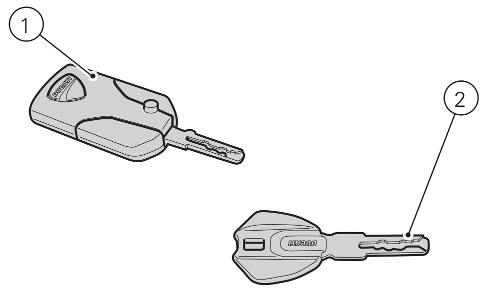


図 56

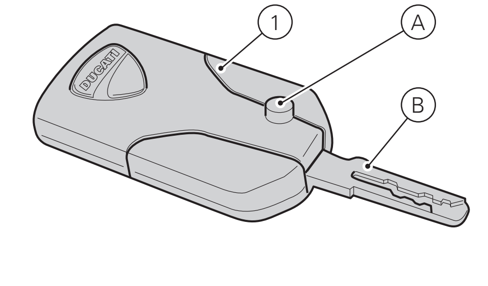


図 57

アクティブキー内部には、バッテリーが内蔵されており、インストルメントパネル起動時、low levelのメッセージがキーとバッテリーのマークの下に表示が出たときは、交換しなければなりません。

参考

この場合できるだけ早いバッテリー交換をお勧めします。

充電量がある程度の限度を下回ると、このキーはパッシブキー同様、発信できなくなります。 この場合、インストルメントパネルに一切のメッセージが表示されません。

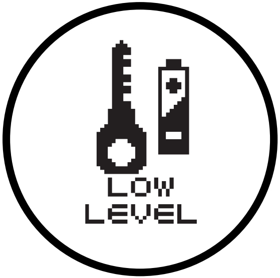


図 58

⚠ 警告

キー(アクティブまたはパッシブ)をフィラープラグのロックやシートロックに挿したまま走行しないで下さい。抜けたり、思わぬ事故の元になります。また、強度の衝撃はキー機能と全回路に損傷を与える可能性があります。
過酷な天候の下、キー挿入のまま走行することも、キー内部の回路に損傷を与える可能性があります。
洗車中にキーを車両の上に放置しないで下さい。防水対応はしておりませんので、損傷の可能性があります。

アクティブキーのバッテリー交換

リチウムイオンバッテリー CR 2032　3 Volt のみ使用してください。

参考

交換後のキーの再設定は必要ありません。

バッテリーの金属部分を取り出してください。
図のように直径がある程度ある硬貨(2 ユーロ硬貨)を使い、プラスチックの柄部分を開きます

重要

矢印で表示されている部分のみに、硬貨を挿入してください。上記以外の場所にその他の物を使用しないでください。内部回路や保護シールに損傷を与える可能性があります。

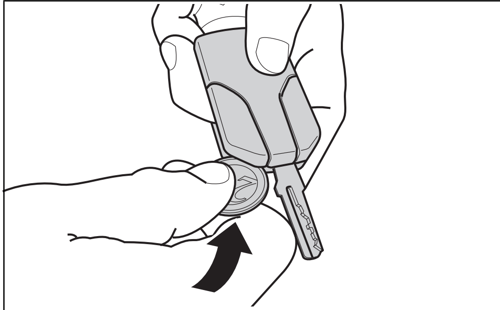


図 59

柄部分を外した後は、図で示すように、小さなマイナスドライバーの先をプリント基板(1) のすぐ下にいれ、回路を破損させないよう慎重に 持ち上げ、引き抜いてください。

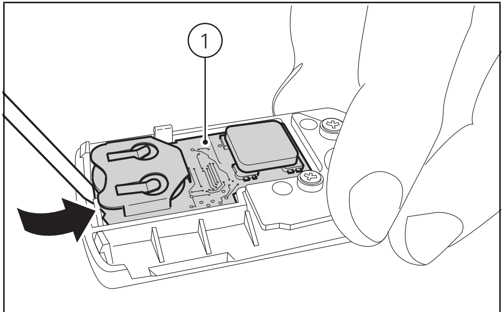


図 60

重要

小さなマイナスドライバーの先をプレス回路のすぐ下に、回路を破損させないように慎重にいれて下さい。バッテリーおよびバッテリーケースに力をかけないで下さい。

バッテリー(2)をプレス回路(1)から抜いて、新しいバッテリーと交換してください。
電極に十分に注意してください。プラス(+)を必ず上に向けます。

重要
指定バッテリーのみ、使用してください。

プリント基板(1)をバッテリー(2)側からプラスチック製カバーに入れます。

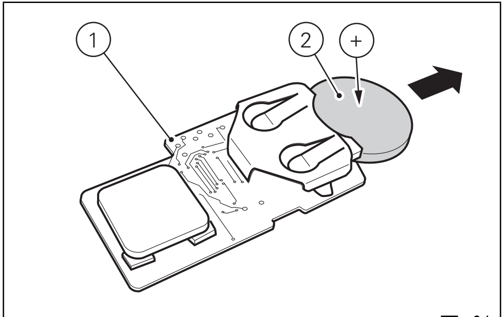


図 61

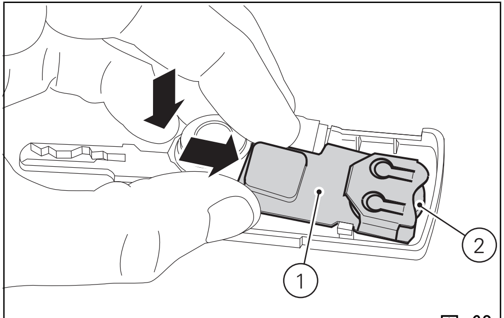


図 62

プレス回路アンテナ(3)をカチっという連結音が聞こえるまで軽く押して下さい。

二つの柄を揃え、矢印部分を押して、閉じます。カチッという音でよく閉じたことがわかります。

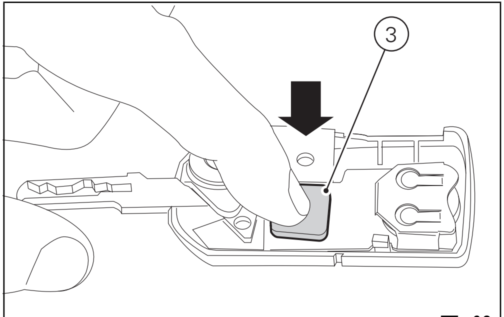


図 63

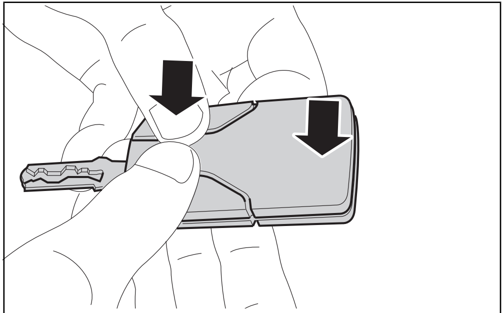


図 64

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、お持ちのキー全てを持ってDucati サービスセンターにご依頼下さい。
Ducati サービスセンターは新しいキー、およびお手持ちのキーを再プログラミングします。
Ducati アシスタントサービスは、お客様が車両のオーナーである証明の提示を求めることがありますので、必要書類をご持参下さい。
この作業時に再メモリーされなかったキーのメモリーは削除されて無効となるため、エンジンを始動する為に使用することはできません。

イモビライザーの解除手順

HF (Hands Free)システムに不具合が生じた場合、車両の一時起動をします。

参考
PIN CODE 機能作動には、不具合が生じた場合に一時起動をするため、予め4桁のPINをインストルパネルに入力します。

警告
PIN CODEは車両の所有者が設定(登録)しなければなりません。PINがすでに設定されている場合には、ドゥカティオフィシャルディーラーにて機能の"リセット"を依頼してください。設定解除をする場合、Ducati ディーラーは車両所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE 起動機能

機能を表示するには、″設定″メニューページ 73 から″PIN CODE″のページに入ります。

参考

その時点で “MODIFY” の表示が出た場合、PIN は既に存在し機能していることを表します。

この機能の入り口では円形ディスプレイに″NEW PIN″の表示および 4 本の点線″– – – –″が表れます。ここで 4 桁のコードを入力します。

コードの入力：
ボタン(2) を押すごとに、表示数値は 0 から 9 まで移動し、また 0 に戻ります。リセットボタン(4) を押して数字を決定します。
同じ方法で 4 桁すべてを入力します。新たにリセットボタン(4) を押し、設定されます。
ディスプレイ上に “OK” と “EXIT” の表示が出ます。
入力した PIN を確定するには、″OK″の文字を強調表示した状態で再度リセットボタン(4) を押します。
PIN 設定が完了すると、ディスプレイ上に “NEW PIN MEM” が 3 秒間表示されます。3 秒後、インストルメントパネル上から、自動的に設定メニュが消えます。
以後、新たに PIN CODE 機能に入った場合 “MODIFY” が表示され、PIN の再設定が可能になります。

メモリーされたピンコード(10)
メモリーされていないピンコード(11)

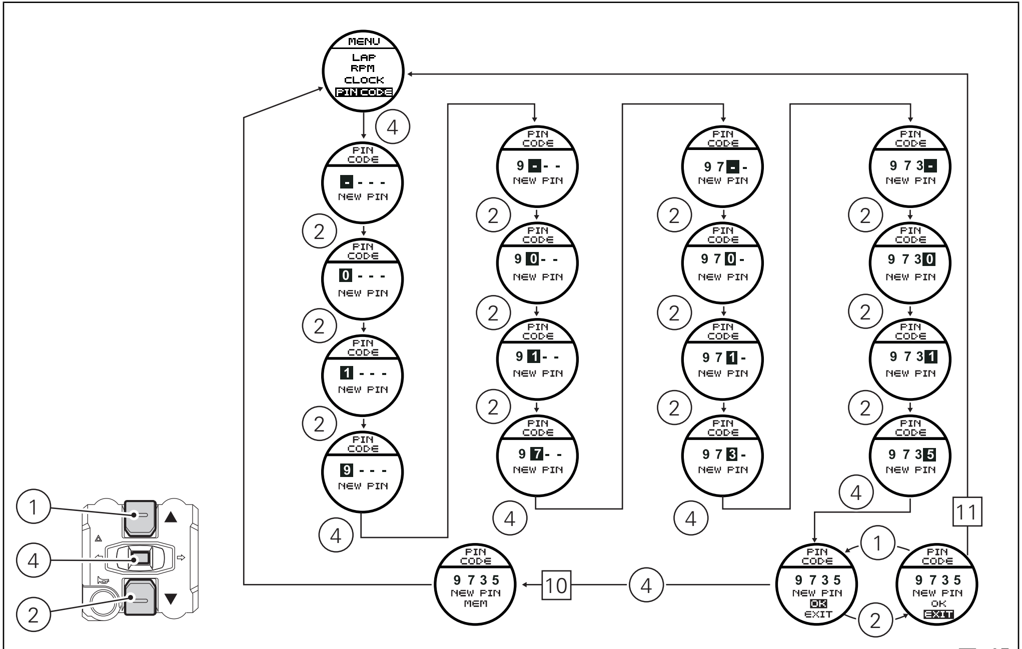

MENU
LAP
RPM
CLOCK
PIN CODE
PIN CODE
NEW PIN
9 7 3 5
NEW PIN
OK
EXIT
NEW PIN
MEM
10
11

図 65

PIN CODE 変更

この機能で 4 桁の PIN CODE の変更が可能となります。
機能を表示するには、″設定″メニューページ 73 から″PIN CODE″のページに入ります。

参考
“NEW PIN” と “– – – –” が即表示された場合は、未入力同様、PIN CODE が機能していないことを示します。 前頁 “PIN CODE 起動機能” で説明したように、PIN を入力してください

この機能の入り口では円形ディスプレイに″MODIFY″の文字が表示されます。″MODIFY″の文字が強調表示された状態でリセットボタン(4)を押し、PIN を変更します。

参考
PIN 変更には、メモリー済み PIN を記憶しておくことが必要です。

この機能の入り口では円形ディスプレイに″NEW PIN″の表示および 4 本の点線″– – – –″が表れます。ここで前にメモリーされている 4 桁の古いコードを入力します。

″古い″PIN(OLD PIN)の入力：ボタン(2)を押すごとに、表示数値は 0 から 9 まで移動し、また 0 に戻ります。
数値を決定するにはリセットボタン(4)を押します。
4 桁目の数値を入力するまでこの手順を繰り返します。再度リセットボタン(4)を押して決定します。ディスプレイ上に “OK” と “EXIT” の表示が出ます。
入力した″古い″PIN を確定するには、″OK″の文字を強調表示した状態で再度リセットボタン(4)を押します。
旧コード入力を間違えた場合は、“OLD PIN WRONG” が 3 秒間表示され、その後インストルメントパネル上には、“MODIFY” が表示され、旧コード入力再試行を促します。

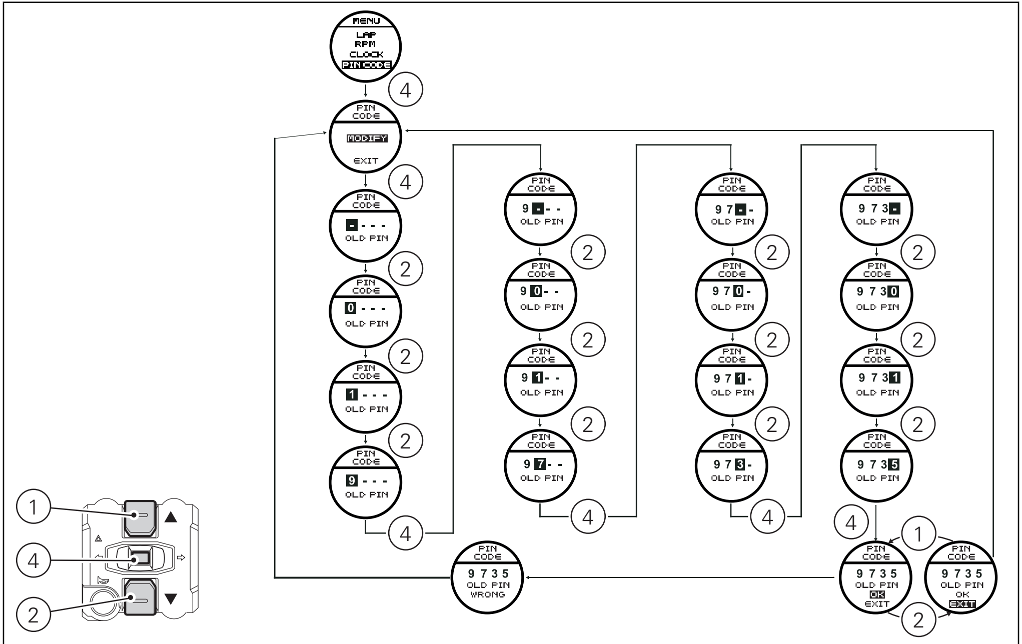

MENU
LAP
RPM
CLOCK
PIN CODE
PIN CODE
MODIFY
EXIT
PIN CODE
- - - -
OLD PIN
0 - - -
OLD PIN
1 - - -
OLD PIN
9 - - -
OLD PIN
9 - - -
OLD PIN
9 0 - -
OLD PIN
9 1 - -
OLD PIN
9 7 - -
OLD PIN
9 7 - -
OLD PIN
9 7 0 -
OLD PIN
9 7 1 -
OLD PIN
9 7 3 -
OLD PIN
9 7 3 -
OLD PIN
9 7 3 0
OLD PIN
9 7 3 1
OLD PIN
9 7 3 5
OLD PIN
9 7 3 5
OLD PIN
WRONG
9 7 3 5
OLD PIN
OK
EXIT
1
2
4

図 66

コードが正しく入力された場合には、円形ディスプレイ上に“NEW PIN” と “－－－－”が表示されます。ここで4桁の新しいコードを入力します。″新しい″PIN(NEWOLD PIN)の入力：ボタン(2)を押すごとに、表示数値は0から9まで移動し、また0に戻ります。
リセットボタン(4)を押して、数値を決定します。4桁目の数値を入力するまでこの手順を繰り返します。再度リセットボタン(4)を押して決定します。
ディスプレイ上に“OK”と“EXIT”の表示が出ます。入力したPINを確定するには、″OK″の文字を強調表示した状態で再度リセットボタン(4)を押します。
PIN設定が完了すると、ディスプレイ上に“NEW PIN MEM”が3秒間表示されます。
3秒後、インストルメントパネル上から、自動的に設定メニュが消えます。
PIN CODE 変更はこれで終了です。

参考
PIN CODEの設定は何度でも可能です。

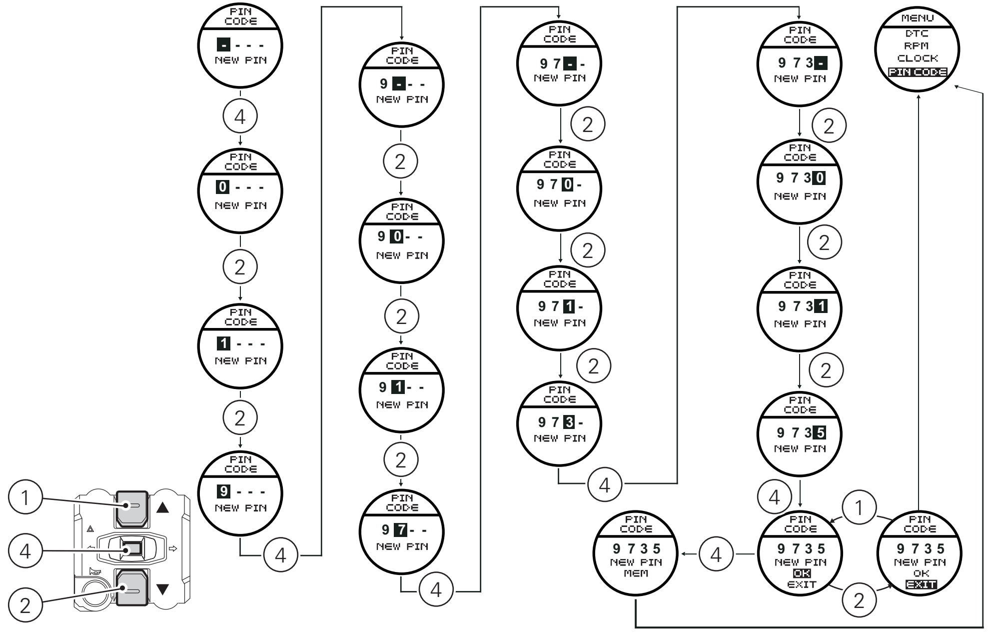

PIN CODE
- - - -
NEW PIN
4
PIN CODE
0 - - -
NEW PIN
2
PIN CODE
1 - - -
NEW PIN
2
PIN CODE
9 - - -
NEW PIN
4
PIN CODE
9 - - -
NEW PIN
2
PIN CODE
9 0 - -
NEW PIN
2
PIN CODE
9 1 - -
NEW PIN
2
PIN CODE
9 7 - -
NEW PIN
4
PIN CODE
9 7 - -
NEW PIN
2
PIN CODE
9 7 0 -
NEW PIN
2
PIN CODE
9 7 1 -
NEW PIN
2
PIN CODE
9 7 3 -
NEW PIN
4
PIN CODE
9 7 3 -
NEW PIN
2
PIN CODE
9 7 3 0
NEW PIN
2
PIN CODE
9 7 3 1
NEW PIN
2
PIN CODE
9 7 3 5
NEW PIN
4
PIN CODE
9 7 3 5
NEW PIN
OK
EXIT
1
2
PIN CODE
9 7 3 5
NEW PIN
OK
EXIT
4
PIN CODE
9 7 3 5
NEW PIN
MEM
MENU
DTC
RPM
CLOCK
PIN CODE
1
4
2

図 67

ランプコントロール
ヘッドランプコントロール

ヘッドランプが自動的にOFFとなり、バッテリーの消費量を抑えます。
Key-Onにすると、ハイビームおよびロービームはOFFの状態です。エンジンを起動すると、自動的にロービームランプが点灯します。それ以降"通常の"機能が起動し、ボタン(3)を押すことでロービームランプの補助となるハイビームランプをつけたり消したりすることができます。あるいは" FLASH"を実行します(ボタン3で)。Key-Onにした後もエンジンを始動させない場合も、左側スイッチでロー/ハイビームを点灯することができます(ボタン3)。
"最初に"押すとロービームランプが点灯します。この時点から、同じボタンを利用してハイビームランプをつけたり消したりすることができます(60秒以内にエンジンが始動されない場合は、点灯しているロービームまたはハイビームは消灯します)。

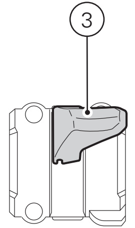


図 68

上記の手順でエンジンを始動する前にビームを点灯した場合、車両を始動させる際、自動的に一旦消灯し、エンジンが完全に始動した時点で点灯します。

ターンインジケーター（自動リターン機能）

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。
2つのうち、どちらかのターンインジケーターを点けた後リセットボタン(4)で解除することができます。手動リセットしなかった場合、500m(または0.3マイル)走行後、インストルメントパネルはインジケーターを自動的に解除します。
自動解除の際、走行距離のカウントは80 Km/h (50 mph)以下で行なわれます。
走行距離カウントは自動解除が完了した後、80 km/h (50 mph)以上で可能です。また、前述の速度を下回った場合、カウントは解除され、再開します。

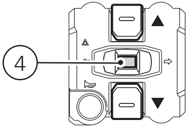


図 69

ハザード（ターンインジケーターすべて点灯）

緊急装置としてターンインジケーターを点灯させることができます。
ハザード機能を起動するには、通常なら左のターンインジケーターを起動させるボタン（ポジション(6)のボタン(4)）を 3 秒間押します。
ハザード機能は Key-On の状態でのみ起動させることができます（Key-Off では不可）。
ハザード機能が起動しているとき、インストルメントの両方のランプ(5)が同時に点滅します。
左ターンインジケーターを起動させるボタン（ポジション(6)のボタン(4)）、またはターンインジケーターを解除するボタン（真ん中の位置のボタン(4)）を一度押すだけでハザード機能を解除する（4 つのターンインジケーターを消す）ことができます
ハザード機能は Key-Off の状態でも解除することができますが、左ターンインジケーターを起動させるボタン（ポジション(6)のボタン(4)）で飲み可能です。

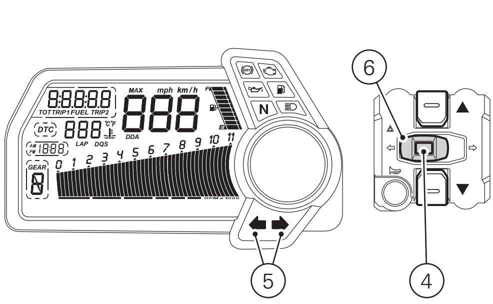


図 70

ハザード機能が起動した後、キースイッチを On から Off にすると、4 つのターンインジケーターランプは起動したままになり、自動カウントダウンを中止する手動消灯をおこなわない限り、120 分（2 時間）後自動的に消えます。

パーキング機能

この機能は"PARKING"モードを起動します。
PARKING 機能で 車両停止の際、駐車が目立つように、フロント/リアパーキングランプを点灯することができます。
車両停止後 60 秒以内にボタン(2)を 3 秒間押すと機能を起動することができます。
設定が完了すると、円形ディスプレイ上に 5 秒間表示され、ライトは 2 時間点灯され、その後自動的に消灯します。
この機能は車両の起動と停止で解除することができます。

参考
機能作動中に突然バッテリーが無くなるなどの理由で電源が遮断された場合、電源をリセットするため、インストルメントパネルは機能を停止します。

図 71

警告
この機能を頻繁に使うことで、バッテリーの消耗が著しくなります。 ドゥカティ社は必要な場合のみこの機能を使用することを推奨します

表示″ステアリングをブロックするボタンを押したままにしてください″

この機能は″ステアリングブロック″を起動させたい場合に、ボタン(1)を押したままにしておくように指示するものです。
この表示は2秒間表示され、ステアリングが正しい位置にある場合(右いっぱいか左いっぱい)は、ブロックされ、ディスプレイには次のページに説明されている″STEERING LOCKED″の文字が表示されます。

図 72

ステアリングロック起動表示

この機能でステアリングロックの起動を確認できます。
車両のエンジンを切った後 60 秒以内に、下のほうにある 3 秒間続けて RUN ボタンを押すと、ステアリングロック状態に入ります。
正常にステアリングロック状態に入れば、円形ディスプレイ上に 5 秒間表示されます。

参考

ステアリングロックは正しいステアリングポジションでのみ起動ができます。

図 73

始動の赤いボタン上に″不具合″の疑いの表示

この機能は、システムの不具合吸収がないことを保証するため、キーを″最高″の位置に持ってくる必要があることを知らせます。

重要
短時間のうちに車体のバッテリーが切れる可能性があります。

不具合は、エンジン停止(Key-Off)後の 60 秒間表示されます。
ボタン(1)を押して Key-Off、またはステアリングブロックの起動をおこなってから 5 秒たつと、システムは “RED SWITCH NOT RELEASED” を表示し、点滅します。

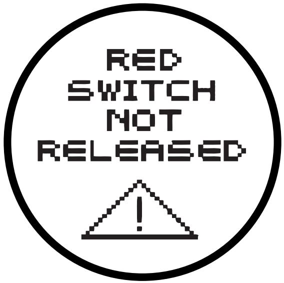


図 74

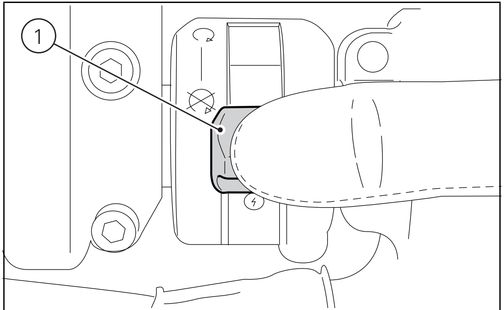


図 75

バッテリーの状態に影響を与えるシステムの不具合を避けるため、ボタン(1)を"上"の位置に戻してください。
この場合、不具合をディーラー又は、Ducati に認可された整備工場に連絡してください。

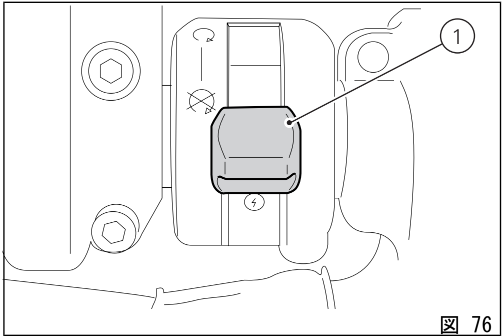


図 76

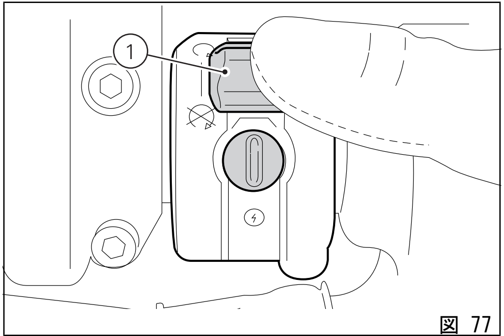


図 77

単位の変更

この機能では表示単位の変更が可能です。
このメニューに入るには、車両をONにすると同時にフラッシュボタン(3)およびリセットボタン(4)を最低3秒間押します。
このメニューに入ると"UNITS"の文字が表示されます。単位を設定するにはリセットボタン(4)を押します。
インストルメントパネルには変更できる大きさが表示されます。ボタン(1)と(2)で、希望する表示を選択し、もう一度リセットボタン(4)を押して決定します。

参考

このメニューを使用している時、他の機能は使用できません。

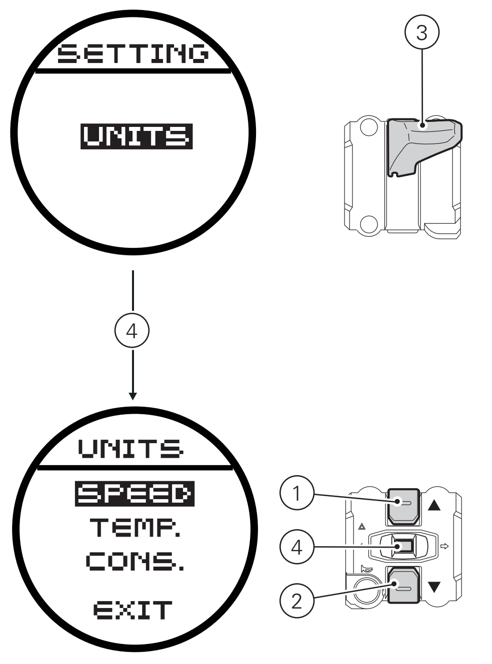


図 78

SPEED の設定

矢印は現在使用中の設定を示しています。ボタン(1 および 2)を使用して、新しい設定を選択することができます。
新設定をメモリーするには、リセットボタン(4)を 3 秒間押します。
設定をメモリーすると、自動的に表示が消えます。
ここで車両を停止します(Key-Off)。次の起動時(Key-On)、新しく設定した単位が表示されます。

1) Km/h: この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します：

- TOT、TRIP1、TRIP2、RANGE： Km
- 車両平均速度: Km/h

2) mph：この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します：

- TOT、TRIP1、TRIP2、RANGE： マイル
- 車両平均速度: mph

"TEMP."の設定

矢印は現在使用中の設定を示しています。ボタン(1 および 2)を使用して、新しい設定を選択することができます。
新設定をメモリーするには、リセットボタン(4)を 3 秒間押します。
設定をメモリーすると、自動的に表示が消えます。
ここで車両を停止します(Key-Off)。次の起動時(Key-On)、新しく設定した単位が表示されます。

3) ° C ： この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します：

- クーラントおよび T_AIR 温度： ° C

4) ° F ： この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します：

- クーラントおよび T_AIR 温度： ° F

"CONS."の設定

矢印は現在使用中の設定を示しています。ボタン(1 および 2)を使用して、新しい設定を選択することができます。
新設定をメモリーするには、リセットボタン(4)を 3 秒間押します。
設定をメモリーすると、自動的に表示が消えます。
ここで車両を停止します(Key-Off)。次の起動時(Key-On)、新しく設定した単位が表示されます。

5) Km/L: この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します：

- CONS.及びCONS. AVG: Km/L

6) L/100 : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します：

- CONS.及びCONS. AVG: L/100

7) mpgal UK : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します：

- CONS.及びCONS. AVG: mpgal UK

8) mpgal USA : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します：

- CONS.及びCONS. AVG: mpgal USA

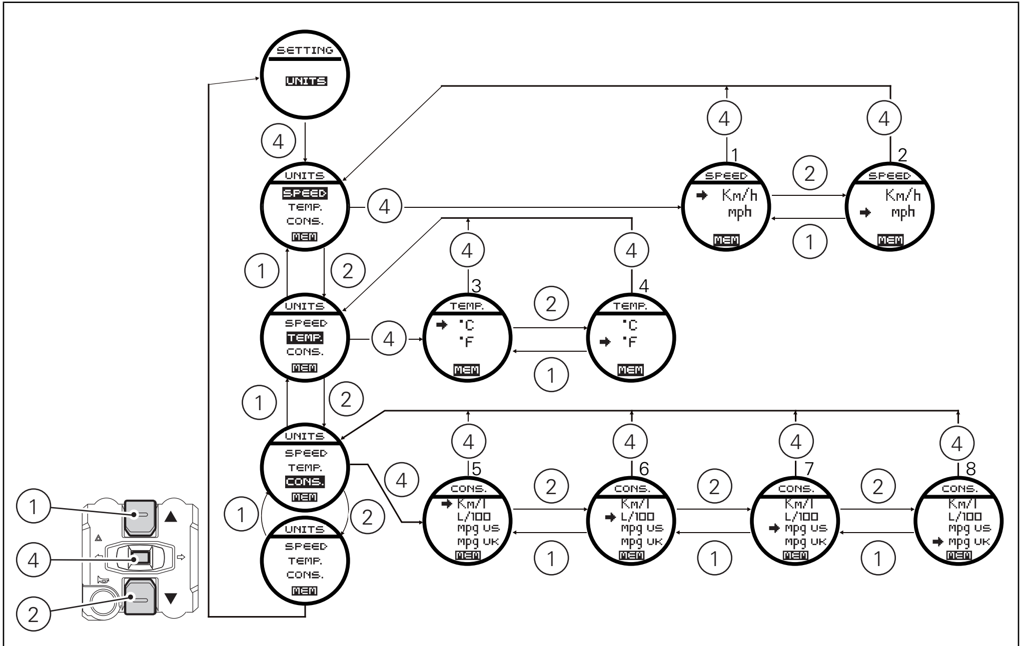

SETTING
UNITS
UNITS
SPEED
TEMP.
CONS.
MEM
SPEED
Km/h
mph
MEM
TEMP.
°C
°F
MEM
CONS.
Km/l
L/100
mpg US
mpg UK
MEM
1
2
3
4
5
6
7
8

図 79

その他の機能
UP-MAP

この機能は、レーシングエキゾーストキット(部品番号 96480021A)の取り付けにおいて、UPMAP(キー)装置からエンジンコントロールユニットへパフォーマンス設定をダウンロードする際のインターフェースとして使用します。

参考
レーシングエキゾーストキット(部品番号 96480021A)は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターでお求めいただけます。

警告
レーシングエキゾーストキット(部品番号 96480021A)の取り付けは、Ducati ディーラーまたはサービスセンターに依頼してください。

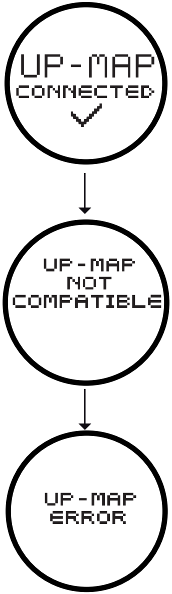


図 80

装置は Key-ON 及びエンジン停止の状態で使用することができます。UP-MAP 装置が車両に接続されると、上記の状態であるか確認し、全て確認されると UP-MAP、エンジンコントロールユニット及びインストルメントパネル間の交信が始まります。システムに UP-MAP 装置が搭載されていると、ディスプレイに UP MAP CONNECTED"の文字が表示されます。
装置の認証に失敗すると UP-MAP NOT COMPATIBLE の文字が 3 秒間表示され、その後 UNPLUG UP-MAP の表示が表れます。車両から装置の接続を切り離してください。
ダウンロードが可能な場合、"PERF.RAC.2"の文字が表示されます。
その後、DOWNLOAD の表示が表れ、
最後に OK ボタンが表示されます。
ボタン(4)を押して表示された設定のダウンロードを許可します。

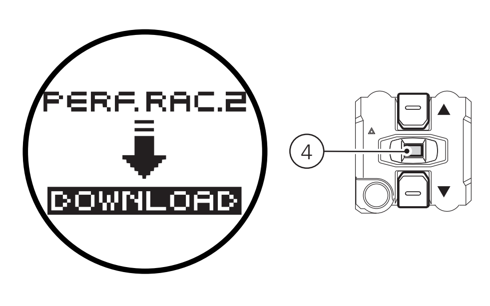


図 81

ダウンロードができずダウンロードしようとしている設定がすでにコントロールユニットに登録されている場合、MAP ALREADY PRESENT の文字及び EXIT ボタンが表示されます。
ボタン(4)を押して終了します。
ボタン(4)を押した後、又はボタン(4)を押さずに 10 秒たつと、UNPLUG UP-MAP の表示が表れます。車両から装置の接続を切り離してください。

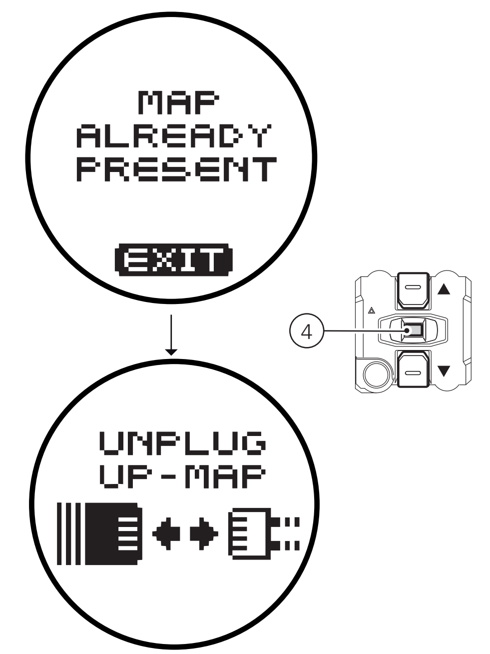


図 82

ダウンロード中、ディスプレイには”PERF.RAC.2”、”WAIT”の文字、徐々に満たされるダウンロードバーが表示されます(およそ5秒間)。
ダウンロードが完了すると、”COMPLETED”の文字と完全に満たされたダウンロードバーが表示されます。

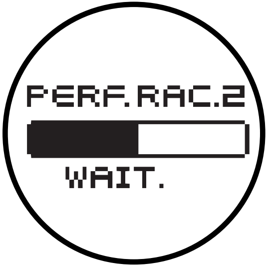


図 83

図 84

3 秒後すべて正常に終了すると、ディスプレイ上に"UNPLUG UP-MAP"の表示が表れます。車両から装置の接続を切り離してください。
"UNPLUG UP-MAP"の表示は車両から UP-MAP 装置の接続が切り離されるまで消えません。
車両から UP-MAP 装置が切り離されると、ディスプレイには"スタンダードスクリーン"が表示されます。

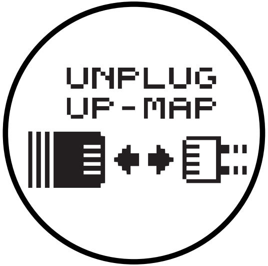


図 85

UP-MAP 装置の不具合が検出されたりダウンロードが正常に行われなかったりすると、インストルメントパネルはディスプレイに"DOWNLOAD ABORTED"の文字を 3 秒間表示し、その後 UNPLUG UP-MAP の表示が表れます。

参考

設定ダウンロードの作業が終了する前に車両が key-off されたり、UP-MAP 装置の接続が切り離された場合、ダウンロードは無効になります。

参考

車両に UP-MAP 装置が接続している状態では車両は起動できません。UP-MAP が接続している状態で車両を使用することができません。

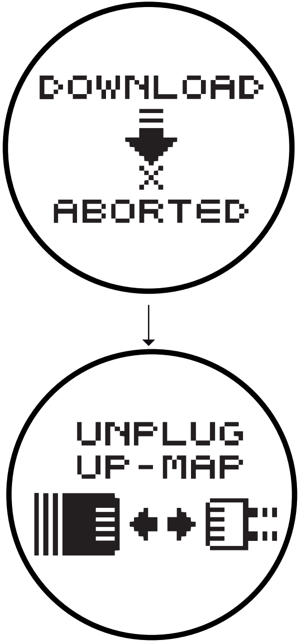


図 86

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

警告
この章では車両を運転する上で必要な全てのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読み下さい。

1) インストルメントパネル
2) Hands free システム
3) 左側スイッチ
4) クラッチコントロールレバー
5) リアブレーキペダル
6) 右側スイッチ
7) スロットルグリップ
8) フロントブレーキレバー
9) ギアチェンジペダル

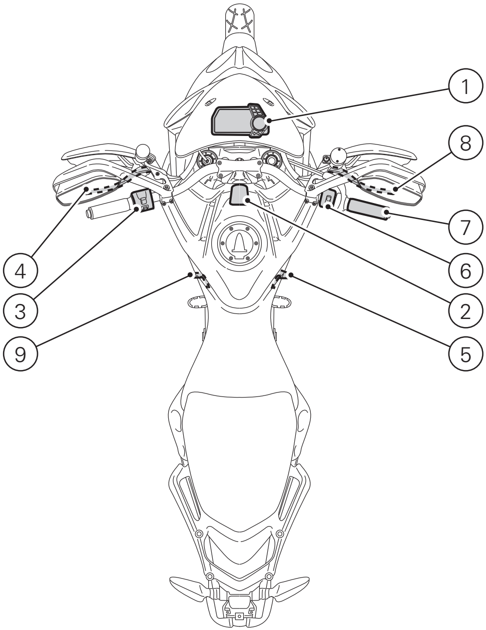


図 87

Hands free システム

Hands free システムは、以下から成り立っています。

1) Hands Free ブロック
2) アンテナ
3) アクティブキー
4) パッシブキー
5) エレクトリックキャップ（オプション）

Hands free ブロック(1)は 燃料タンクの前方部に位置し、作業するには小さな枠((8 図 90))を外さなければなりません。

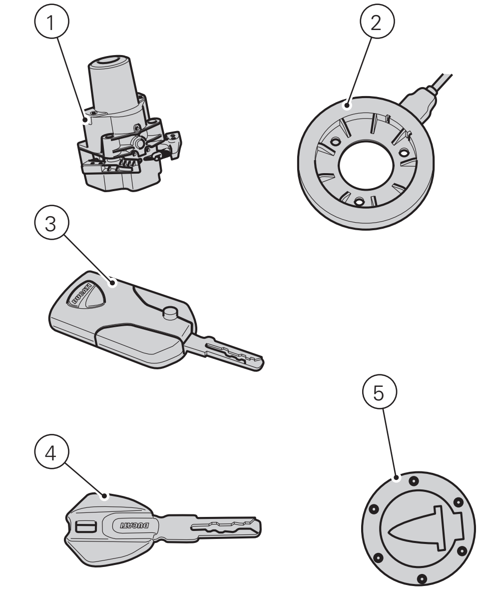


図 88

Hands free システムの起動 “key on” と解除 “key off”

key on は Hands free と全てのエレクトリックデバイスの起動/開始に使われます。key off は Hands free と全てのエレクトリックデバイスの解除/停止とエンジン停止を確実にします。key on はハンドルの右スイッチボタン(6)上か Hands free ブロック上の緊急ボタン(7)で行ないます。key off はハンドルの右スイッチボタン（6）か Hands free ブロック上のボタン(7)で行ないます。

警告

ボタン(7)は小さな枠(8)に隠れています。ボタン(7)を押したい場合は、取り外してください。

参考

(6) か(7)のボタンは ON/OFF どちらも同様に使用することができます。例えば、 どちらかで ON にすると、もう片方で OFF にすることができ、その反対で使用することもできます。

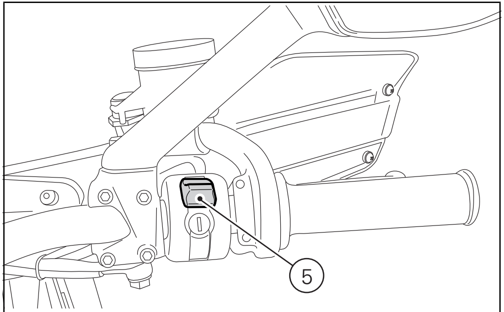


図 89

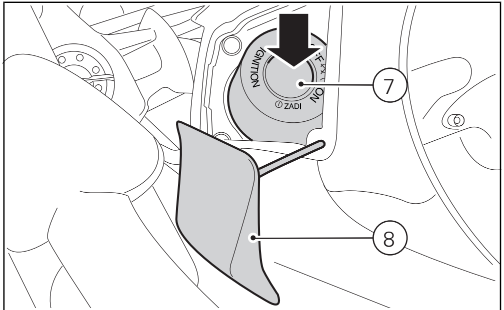


図 90

Key on は(3) か(4)のどちらか一つのキーもしくは暗証番号で可能です。Key off は(3) か(4)のキーがなくても可能です。Key off にするは、停止状態でハンドルのボタン(6)か Hands free ボタン(7)を押します。スピードがゼロでない場合は、Hands free ボタン(7)のみを押します。

参考

アクティブキー(3)のバッテリーが切れると、パッシブキー同様の作動になります。(4)。インストルメントパネルはバッテリーの消耗状態を表示します。

キー(3)の金属部分(A)は、タンクキャップを開ける時とシートおよびバックのロックに使います。キー(3)の金属部分(A)は、突き出たボタン(B) を押すと、柄の内側に隠れます。

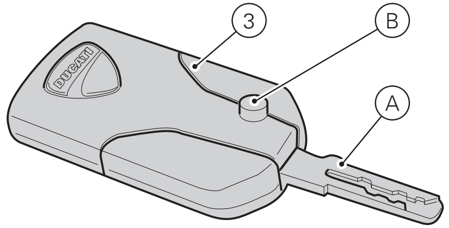


図 91

参考

車両が key-on でエンジン off の時、アクティブキー(3)を抜いた 30 秒後、車両はユーザーが何もしなくても自動的に停止します。

アクティブキーでハンドルの赤いキーを使い Key-on/key-off

key-on にはハンドルにある HANDS FREE 起動/停止の赤いキー(6)を使います。これにはアクティブキー((3、図 88))が必要です。

参考

アクティブキー(3)は、約 1.5 m 圏内で作動しますので、その圏内に置くようにしてください。

key-off にはハンドルにある HANDS FREE 起動/停止の赤いキー(6)を使います。キー((3、図 88))がなくとも、停止状態であれば key-off になります。

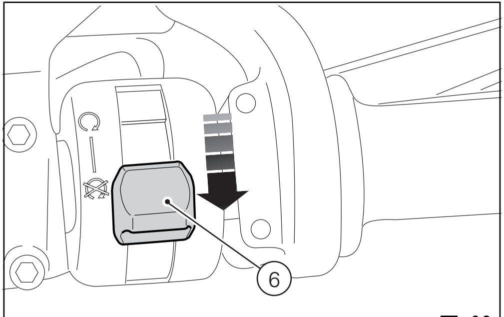


図 92

アクティブキーでHands free ブロック上のキーを使いKey-on/key-off

key-onにはHands free ブロック((1、図 88))上のボタン(7)を使います。これにはアクティブキー((3、図 88))が必要です。

参考

アクティブキー(3)は、約1.5 m圏内で作動しますので、その圏内に置くようにしてください。

key-offにはHands free ブロック((1、図 88))上のボタン(7)を使います。これはアクティブキー((3、図 88))がなくても可能です。

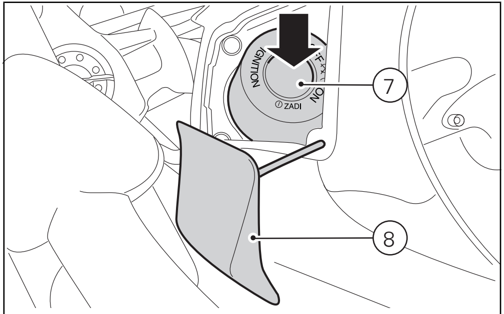


図 93

パッシブキーでハンドルの赤いキーを使い Key-on/key-off

key-on にはハンドルにある HANDS FREE 起動/停止の赤いキー(6)を使います。これにはパッシブキー((4、図 88))が必要です。

参考

パッシブキー(4)は、数 cm 圏内で作動しますので、キー(4)はアンテナ(2)のそばに置くようにしてください。

key-off にはハンドルにある HANDS FREE 起動/停止の赤いキー(6)を使います。キー((4、図 88))がなくとも、停止状態であれば key-off になります。

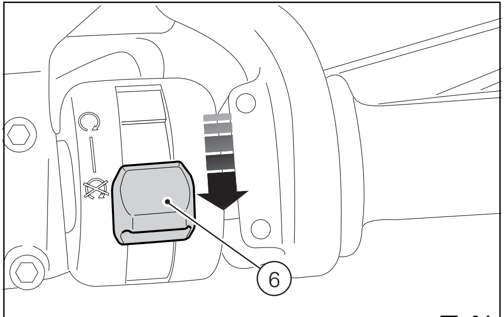


図 94

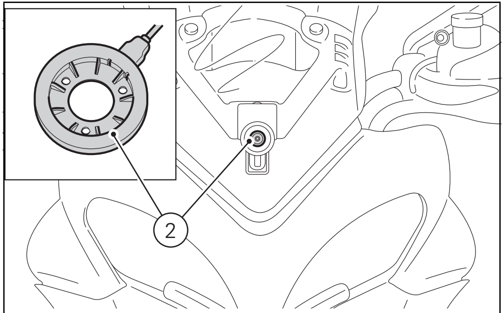


図 95

パッシブキーで Hands free ブロック上のキーを使い Key-on/key-off

key-on には Hands free ブロック上のボタン(7)を使います。これにはパッシブキー((4、図 88))が必要です。

参考

パッシブキー(4)は、数 cm 圏内で作動しますので、キー(4)はアンテナ(2)のそばに置くようにしてください。

key-off には Hands free ブロック((1、図 88))上のボタン(7)を使います。これはアクティブキー((4、図 88))がなくても可能です。

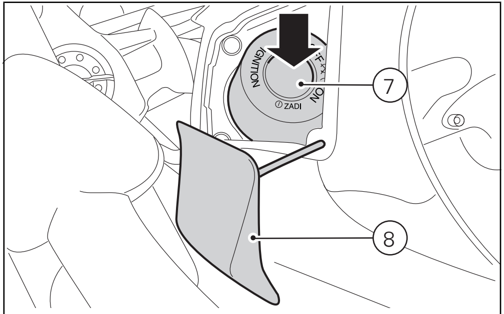


図 96

暗証番号（イモビライザー解除）で Key-on/ key-off

key-on には hands free ブロック((1、図 88))上のボタン(7)を使います。これにはキー((3、図 88))と((4、図 88))は必要なく、ダッシュボードで暗証番号を入力します。
key-off にはハンドルにあるボタン(6) を押し/ Hands Free ボタン(7) /エンジン off キー無し。
以降 key-on 後、key-off ごとにキーは使わずに暗証番号を入力します。暗証番号は車両入手時にユーザーが入力します。暗証番号を入力しないとこの機能は作動しません。Hands Free ボタン(7)を押すと、インストルメントパネルにバックライトが点灯し、円形ディスプレイに 4 桁の暗証番号入力画面が表示されます。暗証番号を正しく入力すると、インストルメントパネルが点灯し、エンジンが起動します。暗証番号は 120 秒以内に入力を終了してください。それを過ぎると自動的 Key-off となります。

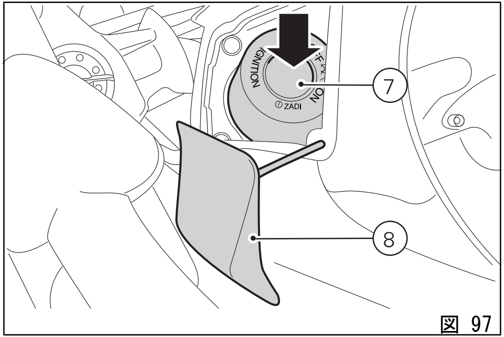


図 97

車両解除のための暗証番号入力機能

この機能でHF (Hands Free)システムに不具合が生じた場合、車両の一時起動をします。
通常ボタンで車両の起動ができないときは、作動にはカバー(8)を持ち上げた緊急Hands Free (7)ボタンを押します。
ボタンを押すと、インストルメントパネルは円形ディスプレイ(B)（とバックランプ)のみが起動し、4桁の暗証番号入力画面が表示されます。

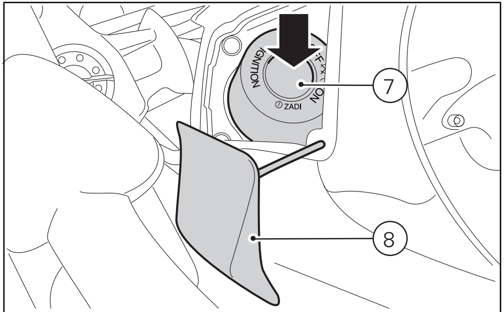


図 98

コードの入力：
ボタン(2)を押すごとに、表示数値は0から9まで移動し、また0に戻ります。リセットボタン(4)を押して数字を決定します。同じ方法で4桁すべてを入力します。新たにリセットボタン(4)を押し、設定されます。
暗証番号が正しくない場合(A)、インストルメントパネルは、最初の指示画面に戻り、暗証番号の再入力をしなければなりません。

参考

暗証番号の入力は何度でも繰り返しておこなうことができます。ただし、暗証番号入力の120秒後、インストルメントパネルは自動的に消えます。

入力番号に間違いがなければ(B)、ディスプレイ上に4秒間、暗証番号とPIN OKが点滅表示されます。
4 秒後、ディスプレイ全体が通常表示にもどります。以降、車両の起動はStartボタン(key-on)で可能になります。

参考

車両を停止するまで(key-off)起動することができます。次の起動時、問題がまだ残っている場合、″一時的″に起動するには最初から手順を繰り返す必要があります。

重要

起動のため、上記のプロセスをふまなければならないときは、早めにDucatiサービスセンターまでお問い合わせ下さい。

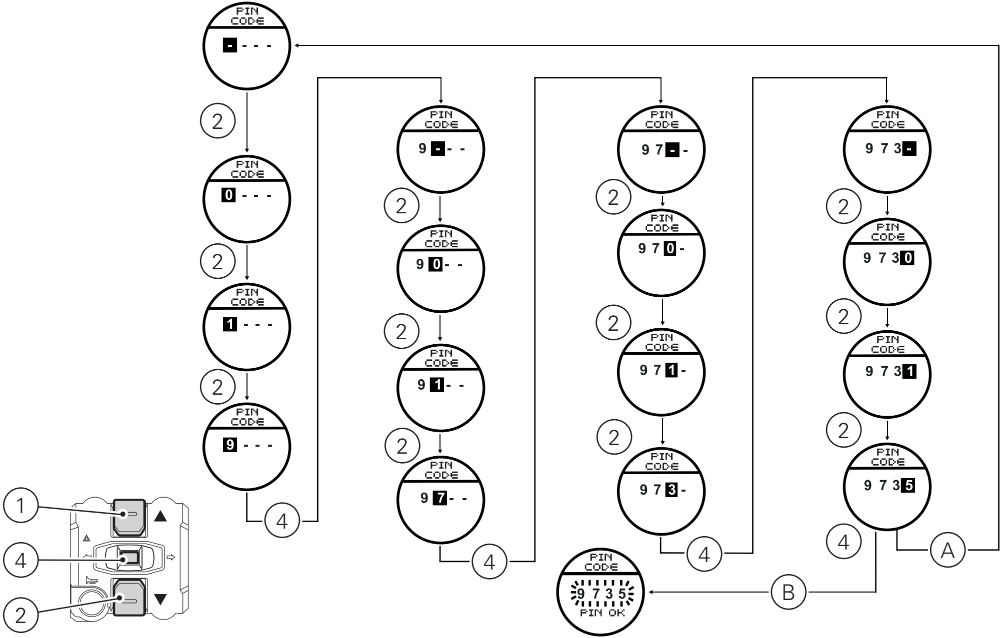


図 99

左側スイッチ

1)ディマースイッチ、ビームの選択、2 ポジション：
(A) 上方に押した場合、ロービーム ON(≣D)
(B) 下方に押した場合、ハイビーム ON(≣D)
(C) 横方向に押した場合、ハイビーム点滅(≣D)
(FLASH)、"Start-Stop lap"機能

2) ボタン = ターンインジケーター、3 ポジション
(⇦⇨)
中央 = OFF
ポジション ⇦ = 左折
3 ターンインジケーター停止ボタン、Riding mode 起動とメニュー操作
4) ボタン (⊳) = 警告ホーン。
5) メニュ操作ボタン、インストルメントパネルスクロールと TRIP1 と TRIP2 機能のリセット。
6) メニュ操作ボタン、円形ディスプレイ Dot-Matrix スクロール。

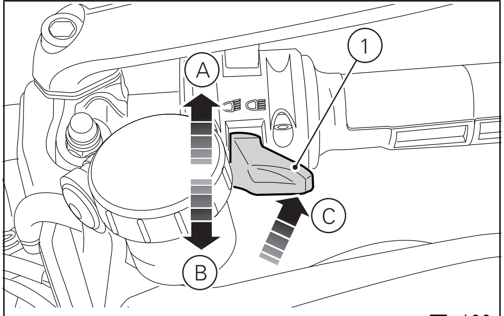


図 100

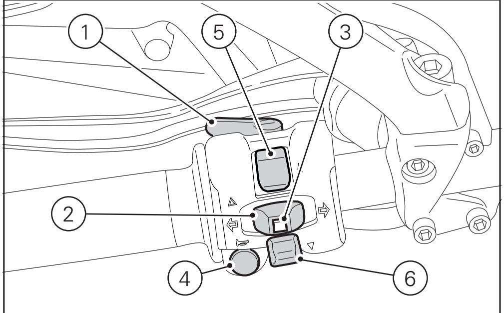


図 101

クラッチコントロールレバー

レバー(1) でクラッチの接続を操作します。 この機種にはアジャスター(2)がついており、レバーとハンドルバー上のハンドル間の調整が可能です。レバーの間隔はアジャスター(2)の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー(1)を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

警告

クラッチ及びブレーキレバーの調整は、停車時に行います。

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、車両の寿命を延ばすことができます。

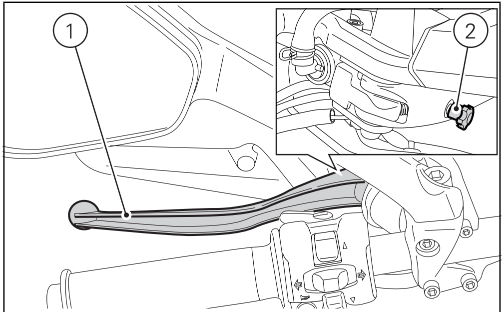


図 102

参考

スタンドが開き、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい(この際サイドスタンドは閉じていなければなりません)。

右側スイッチ

1) 赤スイッチ　ON/OFF
2)黒ボタン　エンジン始動

スイッチ(1)は3ポジションあります。

A) 中央：RUN OFF このポジションではエンジンの起動は不可、全てのエレクトリックデバイスは停止します。
B) 下部に押した場合　：起動/停止 このポジションでシステムの起動(key-on) と停止(key-off)が可能です。
C) 上部に押した場合：RUN ON このポジションのみで、黒ボタン(2)を押しながら、エンジンの起動が可能です。

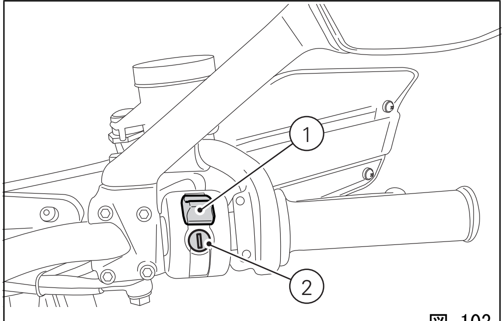


図 103

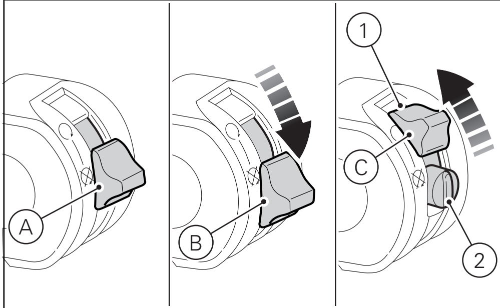


図 104

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップは、スロットルボディの開閉を操作します。グリップを緩めると、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

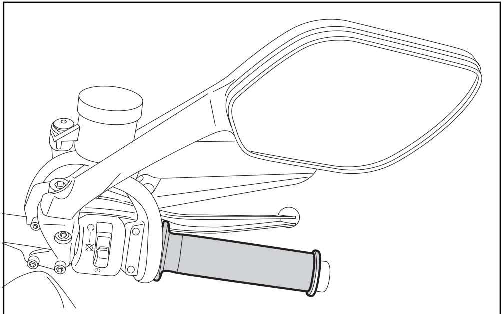


図 105

フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバー(1)にはつまみ(2)が付いており、レバーとグリップとの間隔が調整できるようになっています。

レバーの間隔はアジャスター(2)の 10 クリックで調整できます。

時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

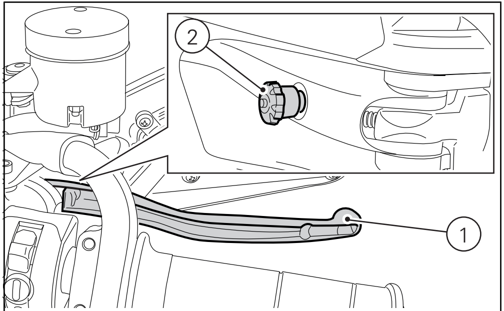


図 106

リアブレーキペダル

ペダルを下に踏むことで、リアブレーキが機能します。
システムは油圧式で作動します。

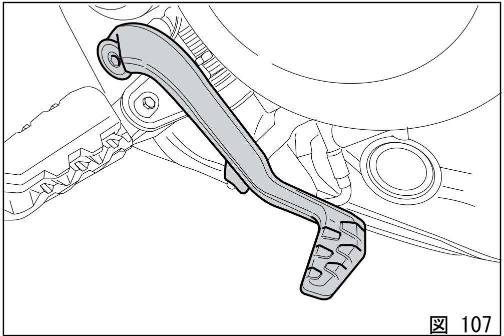


図 107

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは、中央のニュートラルのポジションＮに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネル上のＮランプ((3、図 3))で表示されます。
ペダルは以下のように動かせます：

- 下へ＝シフトダウンおよび１速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのＮランプが消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、２速から順次3､4､5､６速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

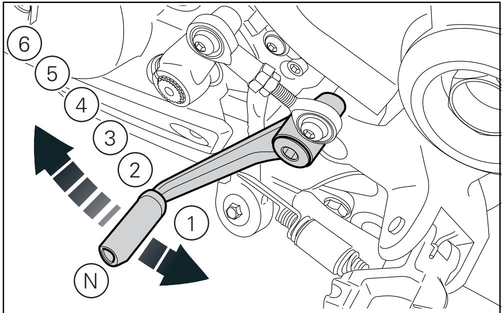


図 108

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。
これらの調整は以下の手順で行ってください：

ギアチェンジペダル

オープンエンドレンチを使用してリンケージ(1)をフラット(2)に固定し、ロックナット(3)を緩めます。
リンケージをギアチェンジレバーから取り外すため、スクリュー(4)を緩めます。
リンケージ(5)を回し、ギアチェンジペダルを好みの位置に調整します。
リンケージ(5)にギアチェンジレバーをスクリュー(4)で固定します。
リンケージ(5)をロックナット(3)で締め付けます。

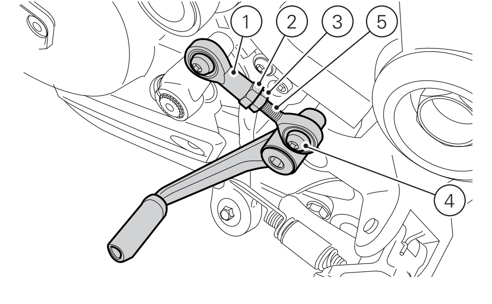


図 109

リアブレーキペダル

ナット(7)を緩めます。
ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー(6)を回します。ロックナット(7)を締め付けます。
ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始める前に約 1.5 ～ 2 mm の遊びがあるかを確認します。もし上記のような遊びが確認できない場合、マスターシリンダーのロッドの長さを次の手順で調整します：
シリンダーのロッド上にあるロックナット(10)を緩めます。
フォーク(9)のロッド(8)の遊びを増やしたい場合は締め、逆に減らしたい場合は緩めます。
ロックナット(10)を締め付け、ペダルの遊びを点検します。

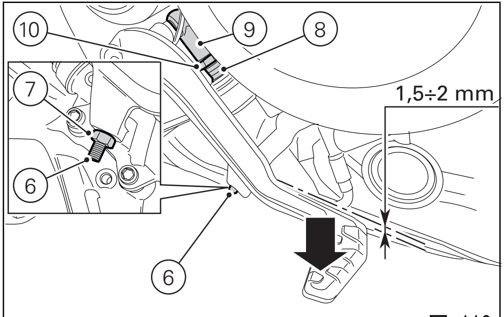


図 110

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

1) フィラープラグ
2) シートロック
3) サイドスタンド
4) パワーサプライ
5) リアビューミラー
6) フロントフォークアジャスター
7) リアショックアブソーバーアジャスター
8) 触媒
9) エキゾーストサイレンサー

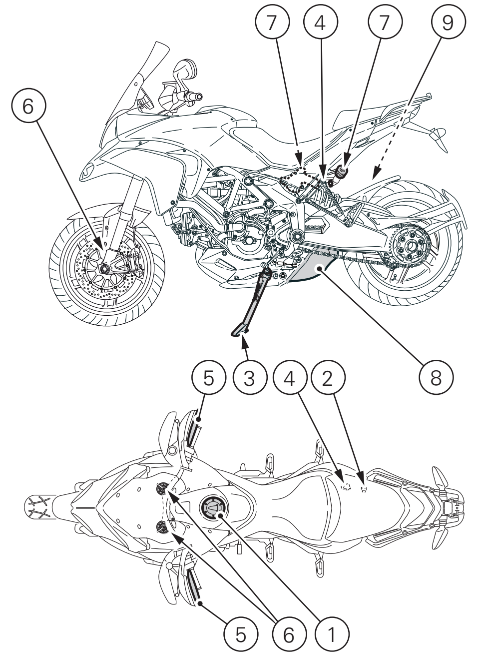


図 111

燃料フィラープラグ
開け方

プラグの保護カバー(1) を起こし、アクティブキーもしくはパッシブキーを挿入します。キーを時計回りに 1/4 回転してロックを解除します。
プラグ(2)を起こします。

閉じ方

キーの差し込まれたプラグ(2)で押しながら閉じてください。キーを抜き取り、プラグの保護カバー(1)を閉じます。

参考
プラグはキーが差し込まれていないと閉まりません。

警告
燃料補給後は毎回、プラグが正しい位置で確実に閉まっていることを確かめて下さい。

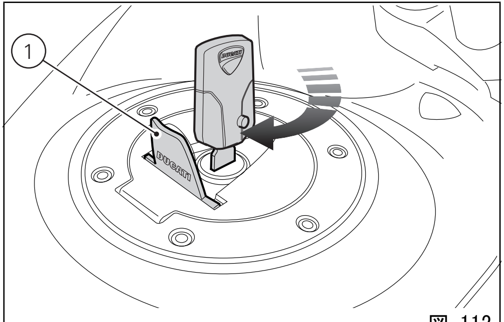


図 112

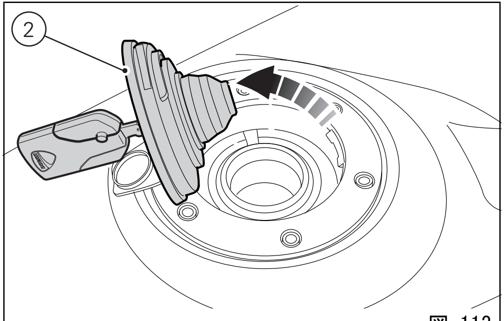


図 113

エレクトリックフィラープラグの開け方　(オプション)

エレクトリックフィラープラグ((2 図 113)、)は、小さなレバー((1、図 112))を上げて、key-off ごと 60 秒以内に開けることができます。

シートロック

パッセンジャーシート(1) はツールキットケース使用時に外すことができ、ライダーシートはバッテリーその他のデバイスアクセス時に取り外すことができます。

シートの取り外し

鍵穴(1)にアクティブキーもしくはパッシブキーを差し込み、クリックと言うパッセンジャーシートの切り離し音が聞こえるまで時計回りに回します。
パッセンジャーシート(2)の取り外しには、前方部分を持ち上げ、シート奥の後方ホック(3)をはずすように、前方に引きます。

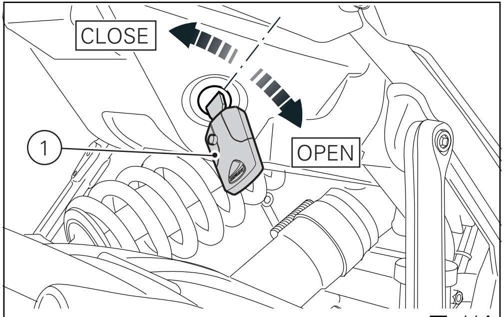


図 114

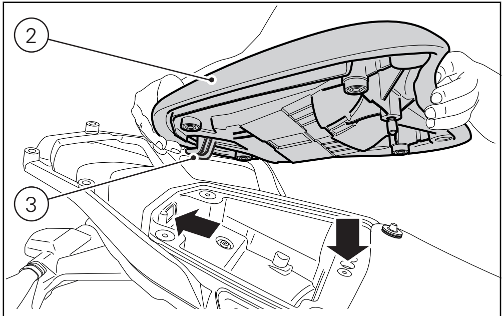


図 115

ライダーシート(4)の取り外しには、後方部分をフレームピン(5)から抜き取ります。
ライダーシートを後方に引くと同時に、前方部分を下に押して、ピン(6) で燃料タンクに留めてください。

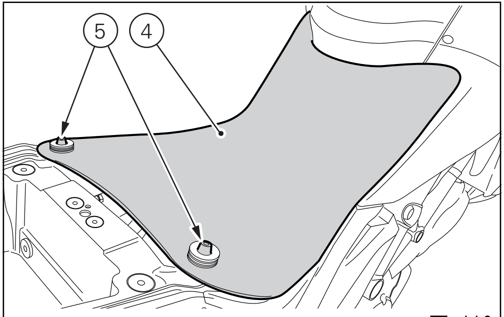


図 116

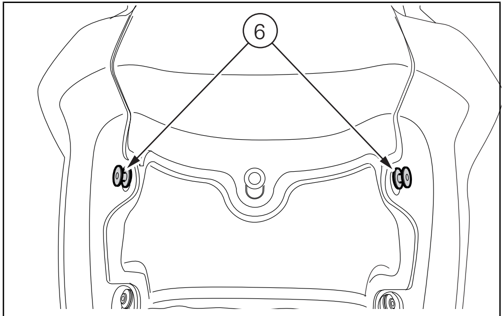


図 117

シートの取り外し

ライダーシート前方部分(4)にピンホール(7) があり、燃料タンクのピン((6、 図 117))はここに入ります。
ライダーシート前端部の上を、ピンホール(7)に深くピン(6) がおさまるように押します。
ライダーシートの後方部分を、フレームピン((5、図 116))に挿しこみます。
後部ホック((3、図 115))をテールを開けたところに挿し、パッセンジャーシート(2)の前方部分を、ピン中央がラッチにカチっとおさまるまで押します。
正しくロックされているか確認するため、パッセンジャーシートを少し上に引き上げます。
ロック((1、図 114))キーを抜き取ります。

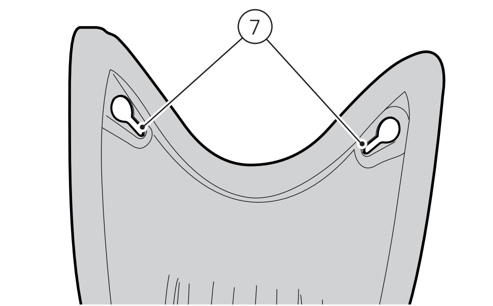


図 118

ヘルメットホルダースタンド

”シートの取り外し”ページ 162 に従い、パッセンジャーシート及びライダーシートを取り外します。
ケーブル(1)をヘルメットに通し、フレームのピン(2、)にケーブルの両端を挿入します。
ヘルメットをぶら下がった状態にし、ライダーシート及びパッセンジャーシートを取り付けヘルメットを固定します。

警告

ヘルメットロックケーブルは、車両の駐車中にヘルメットの盗難を防止するためのものです。運転中はヘルメットをつけたままにしないでください。運転の邪魔になり、バランスを失う可能性があります。

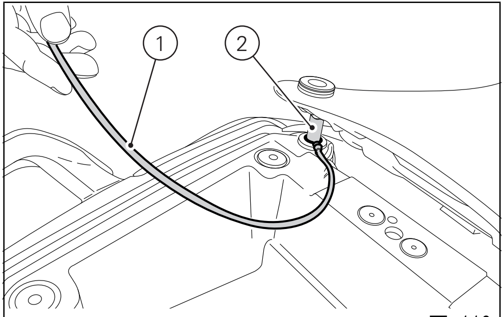


図 119

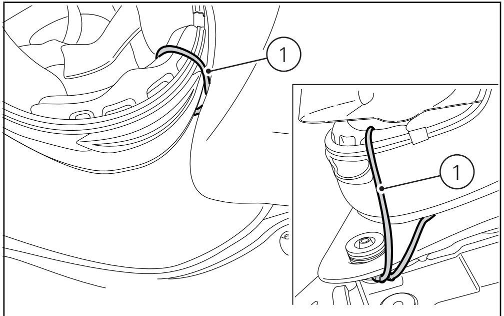


図 120

サイドスタンド

重要
サイドスタンドは短時間の駐車時に利用します。サイドスタンドを使用する前に、地面が適しているか、平らであるかを確かめて下さい。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等にパーキングすると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、常にリアホイールが斜面の低い側になるようにして下さい。
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと路面に着くまで、車体を徐々に傾けていきます。
サイドスタンドを元の位置(水平位置)に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

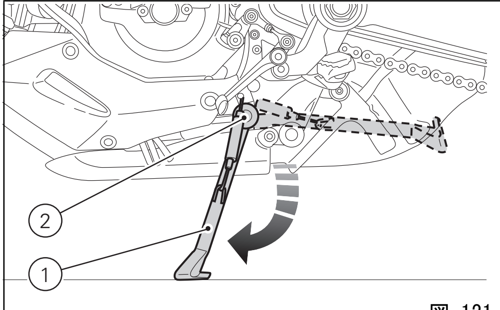


図 121

警告
サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないで下さい。

参考
定期的にスタンド(内側と外側 2 つのスプリングの状態)と安全センサー(2)の作動を点検することをお勧めします。

参考

スタンドが開き、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい(この際サイドスタンドは閉じていなければなりません)。

ソケット

車両は付属アクセサリーのための 2 つのパワーサプライが装備されています。後部ヒューズボックスには、10 A の保護ヒューズがあります。
パワーサプライは、パッセンジャーステップサポートブラケットの裏側に位置し、車両左側(1) と右側(2)にあります。

重要

エンジン停止状態で、アクセサリーをパワーサプライに付けたまま長い時間放置しないで下さい。車両バッテリー消耗の原因になります。

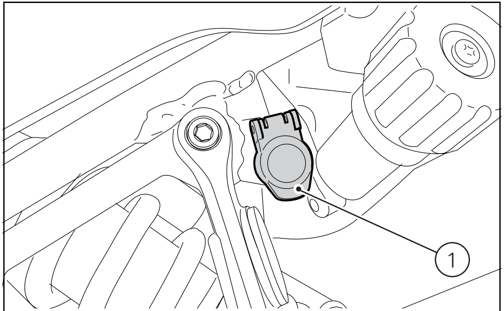


図 122

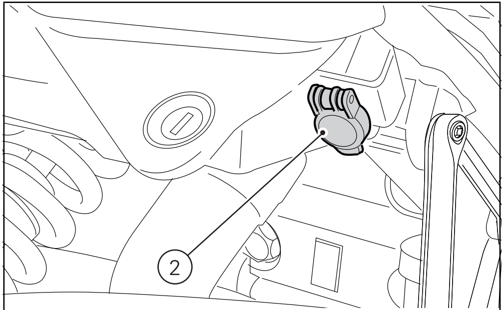


図 123

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンド/コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
調整はスクリュー形のアウターアジャスターでおこないます。

1) 油圧ブレーキのリバウンドダンピングの変更 (図 124)
2) インナースプリングのプリロードの変更 (図 124)
3) 油圧ブレーキのコンプレッションダンピングの変更 (図 125)。

車両をサイドスタンドに安定した状態で停車させます。マイナスドライバーで各フォークレッグの先端にあるアジャスター(1)を回転させ、油圧ブレーキのリバウンドダンピングを調整します。

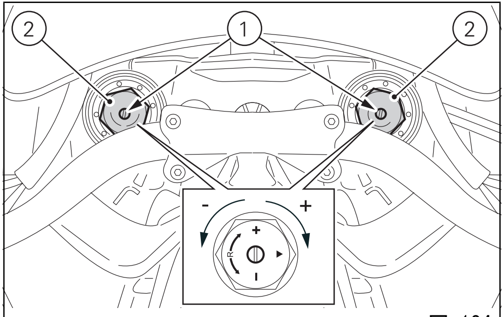


図 124

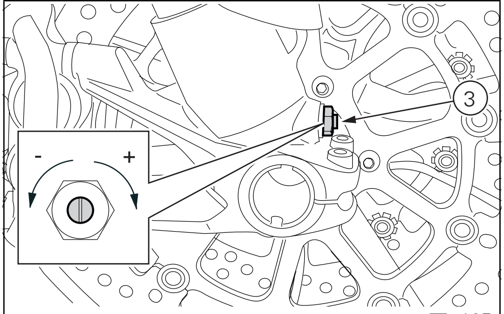


図 125

マイナスドライバーでホイールホルダーの脚の前の部分にあるアジャスター(3)を回転させ、油圧ブレーキのコンプレッションダンピングを調整します。各レッグのインナースプリングのプリロードを調整するには、先端が六角形のアジャスター(2)を 22 mm の六角レンチで回転させます。アジャスター(1 および3)を回転させるとカチッと音がします。1 回音が鳴るごとに減衰の調整がおこなわれます。固定位置までアジャスターを完全にねじ込むと、ポジションが(0)となり、減衰が最大になります。

STANDARD 調整は以下のとおりです。
コンプレッションダンピング : 1 回点半
リバウンドダンピング : 2 回転
スプリングプリロード : 全開(反時計回り)

警告
両方のレッグのアジャスターを同じ位置に調整します。

リアショックアブソーバー調節

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアウターアジャスターを装備しています。
ショックアブソーバーをスイングアームに固定している部分にあるアジャスター(1,図 126)は、リバウンドダンピングの段階(リターン)にある油圧ブレーキを調整します。
車両の左側にあるつまみ(2,図 126)は、ショックアブソーバーのアウタースプリングのプリロードを調整します。
ショックアブソーバーの膨張タンクにあるアジャスター(3,図 127)は、コンプレッションダンピングの段階にある油圧ブレーキを調整します。

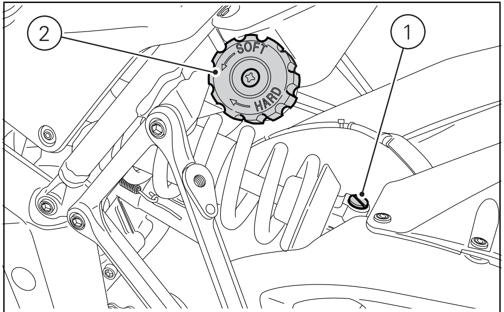


図 126

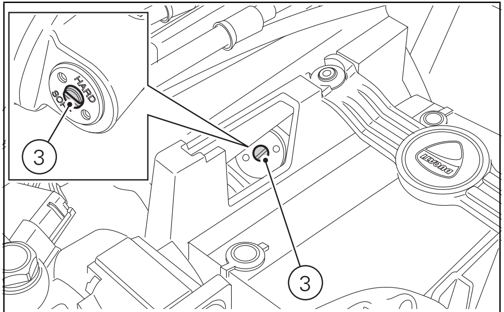


図 127

アジャスター(3)の作業をおこなうには、ライダーシートおよびバッテリーの脇にあるカバー(4)を取り外します。
バッテリーマウントの開口部からアジャスター(3)を操作することができます。アジャスター(1, 図 126)および(3)、またはつまみ(2, 図 126)を回転させ、ブレーキまたはプリリードを増加させます。反対に回転させると減少します。

STANDARD 調整：全閉のポジションから(時計回りの方向に)以下の分だけ緩めます。
アジャスター(1)、9 クリック
つまみ(2)、18 mm (最大 18 - 最小 25 mm)
アジャスター(3)、1.5 クリック

警告
ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となります。

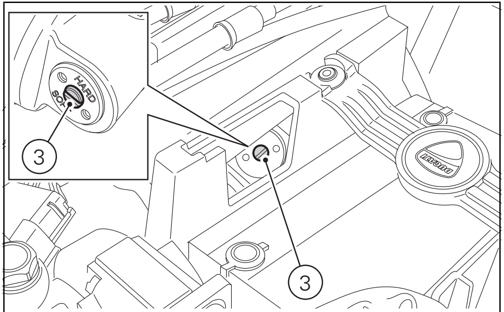


図 128

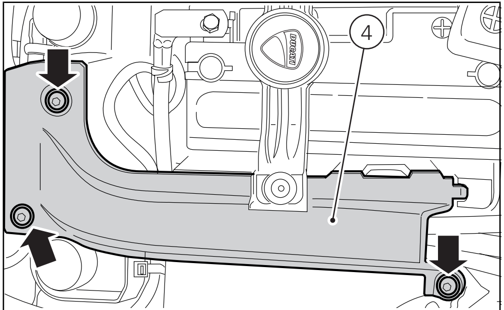


図 129

パッセンジャーと荷物を載せる場合、リアショック
アブソーバーのスプリングを最大にプリロードし、
車両の動的挙動を改善させ、地面の干渉を避けます。
この場合には、リバウンドダンピングの再調整が必
要になることがあります。

運転のしかた

慣らし運転の方法

慣らし運転時の最高速度

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最大許容回転数：
1） 1,000 km まで
2） 1,000 ～ 2,500 km まで

1,000 km まで

最初の 1,000 km まではタコメーターに注意し、5,500 ～ 6,000rpm を絶対に超えないようにします。
最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジンの負荷と回転数を色々変えることをお勧めします。
エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km は、ブレーキディスクに対してパッドの摩擦材を適切に慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキや長い間ブレーキをかけることは避けて下さい。
全ての機械部分を互いに馴染ませるため、また、エンジンの主要部分の寿命に悪影響が出ないよう、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたる高速回転は避けて下さい。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑し、調整して下さい。

1000 ～ 2500 km まで

この間、エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000rpm を決して超えないようにしてください。

重要
慣らし運転期間は、当マニュアルで指定された点検、整備を必ず受けて下さい。順守されなかった結果、エンジンの損傷、および寿命の短縮などについて、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負いません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整、オーバーホールの回数を抑えることができます。

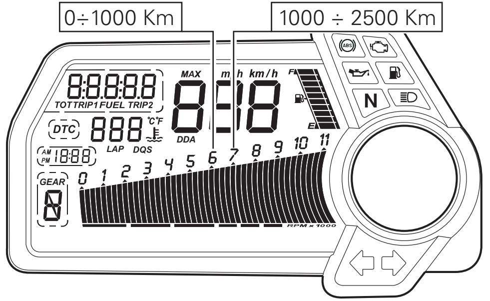


図 130

走行前の点検事項

警告

走行前にこれらの点検を怠った場合、車両に損傷を与え、ライダー、及びパッセンジャーを危険に晒す恐れがあります。

走行前に以下の点検を実施してください:

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください(ページ 188)。
- エンジン内のオイルレベル
  点検窓からタンク内のオイル残量を点検します。必要であれば補充してください(ページ 221)。
- ブレーキおよびクラッチフルード
  各リザーバー内のフルードレベルを確認して下さい(ページ 195)。
- クーラント
  クーラントタンクの液量を確認します。必要であれば補充して下さい(ページ 193)。
- タイヤコンディション
  空気圧と摩耗度を点検します(ページ 218)。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、アクセル、トランスミッション等の作動レバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、ホーンが適切に機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換して下さい(ページ 210)。
- ロック類
  フィラープラグ(ページ 160)およびシート(ページ 162)の固定状態を点検します。
- スタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかをチェックします(ページ 166)。

ABS ランプ

key-on 後、ABS ランプ((10、 図 3))は点灯し続けます。
走行速度が 5 km/h を越えた時点で、ABS システムの正常な機能を示すため、ランプは消灯します。

警告
不良な点がある場合には、車両の使用を中止し、Ducati オフィシャルディーラーにご連絡下さい。

ABS 装置

フロントフォニックホイール(1) とリアフォニックホイール(2)をよく清掃してください。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しない恐れがあります。泥の多い路面を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合がありますのでシステムを OFF にしておくことをおすすめします。

警告

長い後輪立ち走行を行うと、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

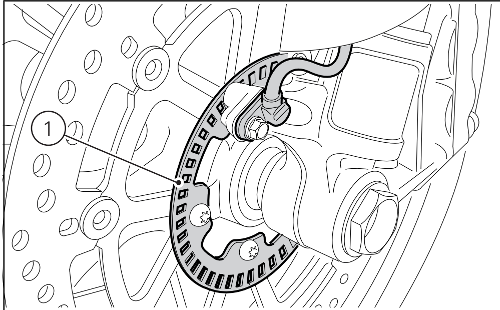


図 131

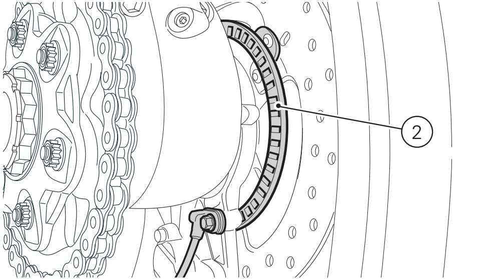


図 132

ON/OFF

警告
エンジンを始動する前に、運転に必要な操作系の取り扱いに慣れておいて下さい。

警告
屋内では絶対にエンジンを始動したり、作動させたりしないで下さい。排気ガスは有毒ですので、短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

右ハンドルの赤いスイッチ(1)を下にずらしながら、アクティブキーまたはパッシブキーで “key-on” (Hands free システムと全てのエレクトリックデバイスの起動)状態にして下さい。インストルメントパネルは初期設定と車両システムコントロールを開始し、下から上方向に連続で全てのランプを数秒点灯します。このコントロールの後は、グリーンのランプN (2)と赤いランプ (3)のみが点灯します。

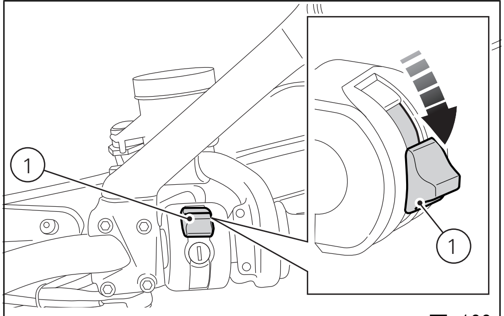


図 133

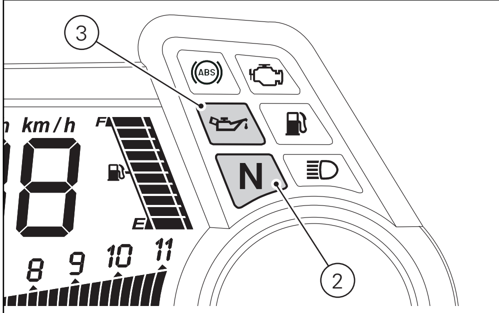


図 134

警告

サイドスタンドが完全に上がって(水平)いない場合、安全センサーが作動して始動できません。

Key-on 後で、まだエンジンが始動していない状態の時、アクティブキーが感知されない場合、その 10 秒後に、このシステムは自動的に key-off になります。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

黒いボタン(4)が見えるように、赤いスイッチ(1)を上にずらして下さい。エンジン起動のため、ボタン(4)を押して下さい。

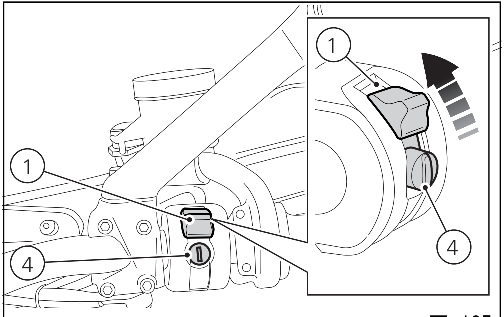


図 135

重要

エンジン冷間時は回転数を上げ過ぎないで下さい。潤滑が必要な全ての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるのを待ってください。

オイル圧の赤いランプ(3,図 134)は、エンジン起動後数秒で消えます。
ハンドルの赤いスイッチ((1、図 135)) をRUN OFFにいれ、エンジンを停止します。Hands freeシステムと全てのエレクトリックデバイスの起動に関しては、 “Hands Freeシステム”ページ 139も参照してください。

車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2) 1速に変速するためにギアチェンジペダルをつま先でしっかり押し下げます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、エンジン回転数を落とすためにスロットルを戻し、クラッチを切り、ギアチェンジレバーをもち上げ、クラッチレバーを放します。シフトダウンは以下のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチを放します。

これらの作業は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたらすぐにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。

警告
急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッションのスナッチを招きますので避けて下さい。ギアを変速した後もクラッチレバーを引いたままでいると、機械部分の過熱や摩擦部分の異常な摩耗を引き起こします。

警告
長い後輪立ち走行を行うと、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

減速するには、最初にスロットルグリップを戻してエンジンブレーキをかけ、それからブレーキングします。エンジンが急に止まるのを防ぐため、車両が停止する前に、クラッチを切ります。

ABSシステム

困難な条件下のブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転

で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、牽引力、安定性が減り、車両のコントロールを失います。
アンチブロックブレーキシステム(ABS)は、緊急のブレーキ時、悪道路、悪天候の下でブレーキの性能を最も効率的に使えるように開発されたものです。
ABSは油圧電子システムです。ホイールがロックされそうになると、ホイールにあるセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内のプレッシャーが制御されます。
一時的にプレッシャーが下がることで、タイヤが理想的な接地状態を維持したまま、ホイールは回転を続けます。ブレーキ回路内のプレッシャーはすぐにまた上がり始め、ブレーキが作動するようになります。ロックアップのリスクが完全になくなるまでこのサイクルが繰り返されます。ブレーキが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダル上に軽い断続的抵抗が感知されます。
フロント及びリアブレーキシステムのコントロールと管理は別々にはおこなわれません。車両に装備されているABSシステムは、フロントブレーキが操作されるとリアブレーキシステムがフロントブレーキシステムに関与するインテグラルブレーキ動作をおこないます。しかし、反対の動作はおこなわれません。リアブレーキコマンドはフロントブレーキシステムには作用しません。
それを望む場合は、インストルメントパネルでライディングモードのレベルをOFFにすることで、それを解除することができます。

⚠ 警告

コンビネーションブレーキ機能(フロントブレーキを使用した際のリアブレーキの作動)があっても、二つのうちの一つのブレーキコントロールを独立して使用すると、車両のブレーキ性能は弱まります。
ブレーキ類は急激に力づくで操作すると、車両のリアホイールが持ち上がり)リフトアップ)が生じ、車両のコントロールを失います。
雨中を走行する際や、滑りやすい路面上ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をして下さい。急ブレーキは車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用します。ブレーキは断続的に短時間だけ使用して下さい。 ブレーキの長時間にわたる連続使用は、摩耗材の過熱を招き、ブレーキ能力の著しい低下の原因となります。規定空気圧以外のタイヤはブレーキ能力を低下させるとともに摩耗を早め、また運転の確実性と、カーブでの安定を欠きます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は 徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながらクラッチをつなぎ、最後に１速からニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

赤いスイッチ（1）を下にずらし、エンジンを OFF にして下さい。

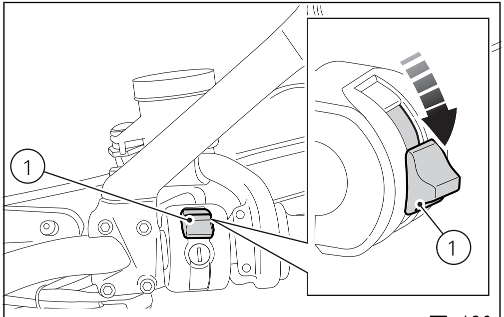


図 136

パーキング

停止させた車両をサイドスタンドを使い駐車します。ハンドルを左か右に振りきります。エンジンを切手から 60 秒以内のこの作業をおこなうと、ステアリングブロックを起動させることができます。
ステアリングブロックを起動させたい場合、この間に赤ボタン(1)を下方向に再度押し、ステアリングを左いっぱいから右いっぱいにした状態で 3 秒間押したままにします。1 秒後、インストルメントパネルには"KEEP PRESSED FOR LOCK"のメッセージが 2 秒間表示され、その後ステアリングブロックがかかります。ステアリングブロックが正常にかかると、インストルメントパネルには"STEERING LOCKED"のメッセージが表示されます。ステアリングブロックがかからない場合、5 秒後にインストルメントパネルに"RED SWITCH NOT REALEASED"のメッセージが表示されます。
この時点でボタンを放し、60 秒以内に再度ステアリングブロックをかけます。それでもかからないばあいは、ドゥカティサービスセンターにご連絡ください。

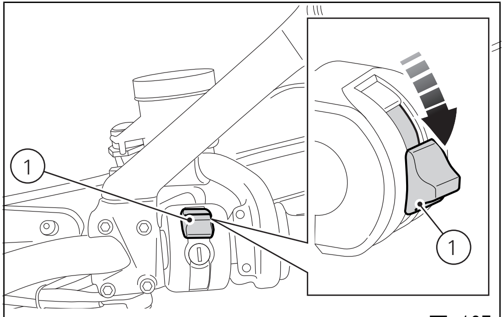


図 137

ボタン（2、fig. 133）を 3 秒以上押します。インストルメントパネルの円形ディスプレイ上に、起動を示す表示(fig. 134)が 5 秒間表示され、ランプは 2 時間点灯し続けます。この時間が経過すると、自動的に消灯します。

参考

Parking 機能が起動中に、突然バッテリーが無くなるなどの理由で電源が遮断された場合、電源をリセットするため、インストルメントパネルは機能を停止します。

重要

この機能を頻繁に使うことで、バッテリーの消耗が著しくなります。 ドゥカティ社は必要な場合のみこの機能を使用することを推奨します

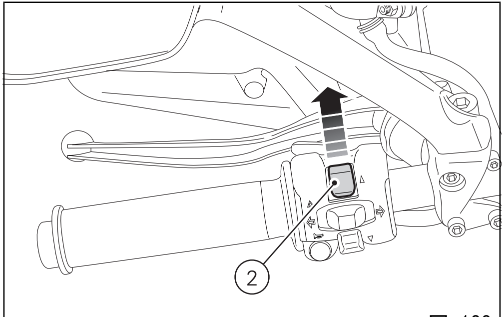


図 138

図 139

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があるので、手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険で、車両の機能とライダーとパッセンジャーの安全に危害を与えるおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、入れすぎないように注意してください。燃料はプラグの下縁をこえてはいけません。

警告

燃料は、鉛の含有量が少なく、混合前のオクタン価が 95 以上のものを使ってください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10%以下の燃料(E10)のみ使用することができます。
エタノール含量が 10%以上のガソリンを使用することは禁止されています。 この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10%以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

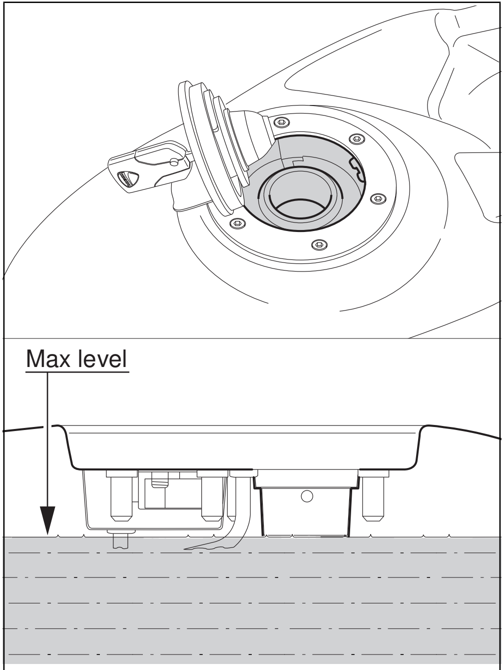


図 140

付属アクセサリー

シート下のボックス(1)には、取扱説明書、ツールキット(2)が収納されています。ツールキットには次のものが含まれて鋳ます。

- タイヤ用スクレーパー付きニードル(90°) 1本
- パンク用ラバーストッパー 2つ
- 高圧ボンベ 2本
- バルブアダプター（ボンベがない場合） 2つ
- 5 mm アレンレンチ ストーンフェンダー用 1本
- 10 mm アレンレンチ 偏心クランプ用 1本
- レンチ 偏心クランプ用 1本
- レンチ、10mm アレンレンチ、ドライバー用エクステンション 1本
- テンションチェーンキャリパー（ページ 208 に書かれている目的のみに使用） 1個
- プラスドラーバー もしくは 10 mm バッテリー用レンチ 1本

小物入れの利用は、パッセンジャーシートを取り外してください。

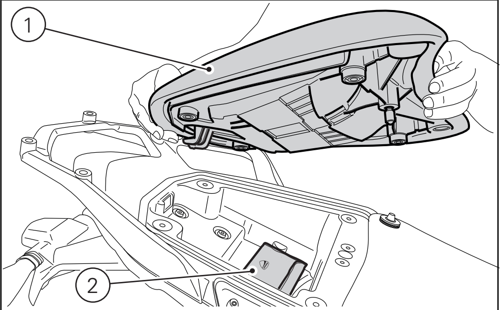


図 141

標準装備として：

- フロントセミマッドガードキット
- リアロングマッドガードキット。

フロントセミマッドガードキット

⚠ 重要
フロントセミマッドガードキットの取り付けは、必ずDucati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。

ホースガイド(1)を取り外し、2 本のスクリュー(2)を外します。
フロントマッドガードにフロントセミマッドガードキット(3)を配置し、フロントブレーキパイプ(4)およびフロントフォニックホイール(5)ケーブルは図(図 143)のように配置します。
穴(A)をフロントマッドガード(3)の溝に固定します。

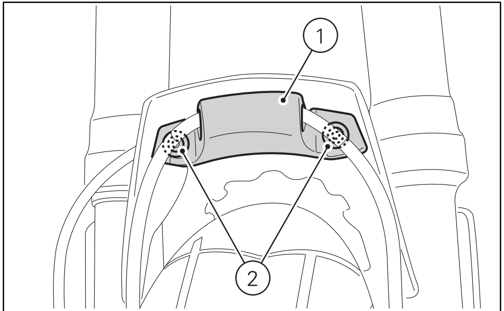


図 142

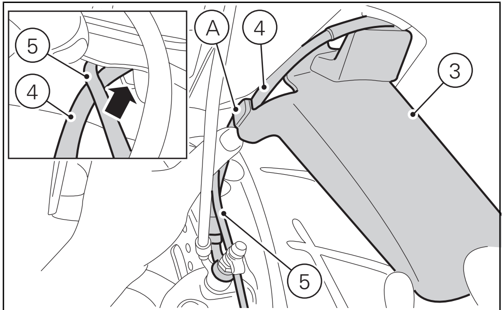


図 143

先ほど取り外したスクリュー(2)を差し込み、3.5Nm ± 10%のトルクで締め付けます。

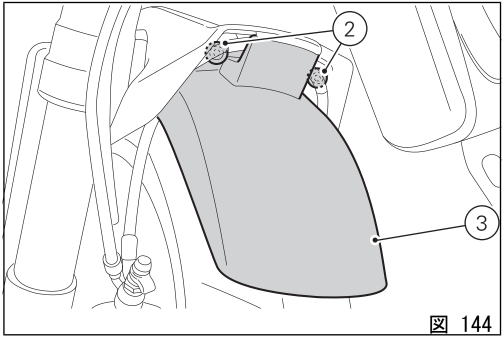


図 144

リアロングマッドガードキット

重要
リアロングマッドガードキットの取り付けは、必ず Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。

3 本のスクリュー(2)を外し、リアマッドガード(1)を取り外します。
リアロングマッドガードキット(3)をスイングアーム上に配置し、前の作業で取り外したスクリュー(2)を差し込みます。
スクリュー(2)を 5Nm ± 10%のトルクで締め付けます。

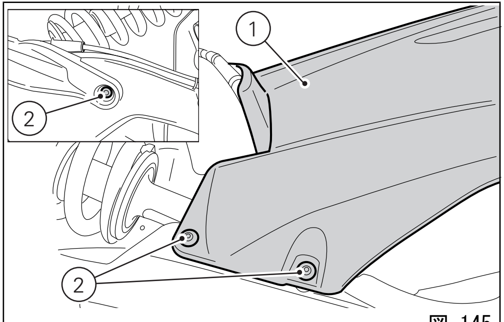


図 145

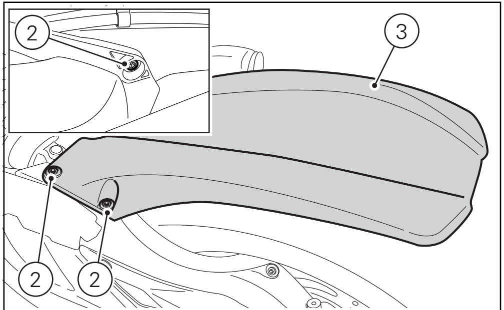


図 146

主な整備作業とメンテナンス

クーラントレベルの点検および補充

ステアリングチューブ右側にあるエキスパンションタンク内のクーラントレベルを点検します。
ハンドルを左側にいっぱい切り、エキスパンションタンク脇に見えるMIN からMAX 目盛のどのレベルにあるかを確認します。
液体レベルがMIN 以下の場合は補充します。
充填キャップ(1)を緩め、不凍液ENI Agip Permanent Spezial を薄めずにMAX レベルまで充填します。
プラグ(1)を閉めます。

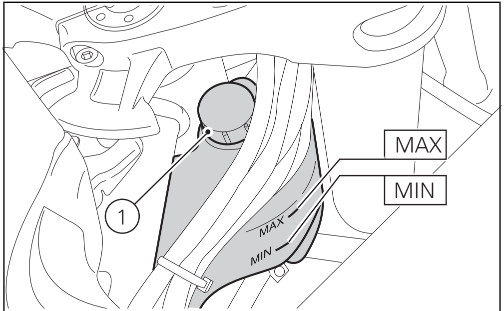


図 147

上記に示された混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事が出来ます (-20° C/-4° F から凍結し始めます)。クーリングシステムの容量 : 2.3 リットル。

警告

この作業はエンジンが冷たい状態でおこないます。エンジンが熱い上体でこの作業をおこなうと、クーラントや熱い蒸気がもれ、深刻なやけどを負うおそれがあります。

ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ、クラッチフルードのレベルは絶対に各リザーバーのMIN 目盛り以下になってはいけません（(はフロントおよびリアブレーキフルードリザーバーで、(図 149)はクラッチフルードリザーバーです)。
液体レベルが下がりすぎると、回路内に空気が混入し、 システム作動に悪影響を及ぼします。
また、定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充及び交換は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターに依頼して下さい。

重要

ブレーキ、クラッチシステムのパイプは 全て4年毎に交換して下さい。

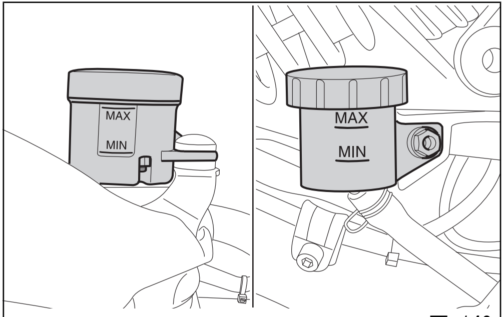


図 148

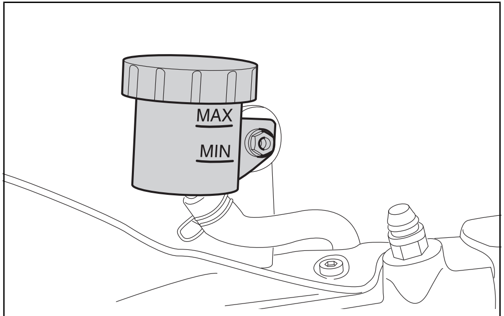


図 149

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのに、ブレーキレバー、ブレーキペダルの過度の遊びに気付いた場合には、Ducati ディーラーまたはサービスセンターに連絡し、システムの点検とエア抜きを行って下さい。

警告
ブレーキ/クラッチフルードはプラスチックおよび塗装部分に損傷を与えますので、こぼさないようにして下さい。
これらの液体は腐食性ですので傷損害を与える恐れがあります。異なった品質のオイルを混ぜないで下さい。シールの状態をチェックしてください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際クラッチにスナッチやジャダーが出る場合は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検しエアを排出する必要があるため、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにご連絡下さい。

警告
クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材の消耗によって上がる傾向があります。規定のレベルを超えないよう注意して下さい(最低レベルの 3 mm 上)。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部を通してパッドの摩耗を点検します。

摩耗剤の厚さが一つでもおよそ 1㎜ ならば、両方のパッドを交換します。

警告

摩耗剤が消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触し、ブレーキの性能、ディスクの完全性、ライダーの安全性を損なう可能性があります。

重要

ブレーキパッドの交換は Ducati ディーラーまたはサービスセンターで実施して下さい。

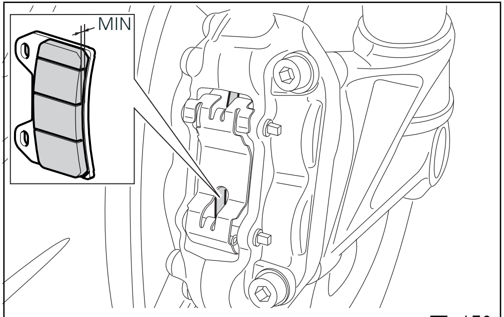


図 150

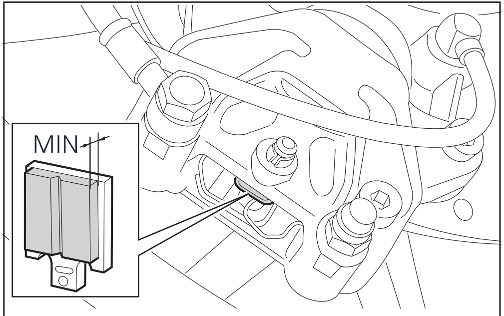


図 151

ジョイント部の潤滑

スロットルコントロールケーブル外部のシースおよびスターターの状態を定期的に点検する必要があります。外側プラスチック部に亀裂や押し潰された跡があってはいけません。スロットルグリップを動かして、インナーケーブルが滑らかに作動することを確認します。引っかかったり何か異常を感じる場合は、ディーラーまたはDucati サービスセンターに交換を依頼して下さい。このようなことを避けるためスロットルトランスミッションの場合は2本の固定スクリュー(1)を緩めてスロットルを開き、ケーブルの両端とプーリー(2)をグリース SHELL Advance Grease またはRetinax LX2で潤滑します。

⚠ 警告

プーリーの中にケーブルを入れ、注意しながらスロットルを閉じます。

カバーを付け、スクリュー(1)を10 Nmのトルクで締め付けます。

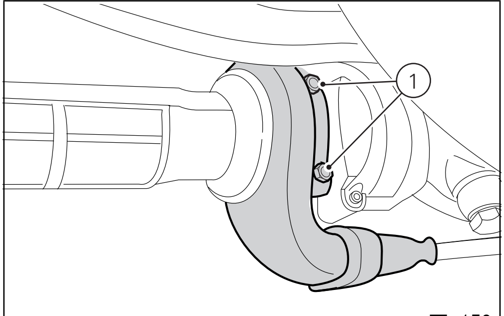


図 152

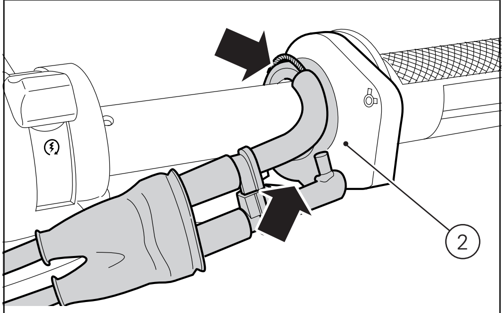


図 153

サイドスタンドのスムーズな作動を確保するために、
汚れを取り除き、全ての可動部分に規定のグリース
SHELL Alvania R3 を塗布して下さい。

スロットルグリップの調整

スロットルコントロールグリップはどのステアリング角度においても、(グリップの端で測定)規定値：1.5 ～ 2.0 mm の遊びがなければなりません。必要であれば、車体左側のステアリングチューブにある適切なアジャスター(1 および 2)を使用して調整します。アジャスター(1)はスロットル開度調整用で、(2)は閉度調整用です。アジャスターの保護カバーを引き抜き、ロックナット(3)を緩めます。両方のアジャスターを釣り合うように操作して調整します。時計回りに回すと遊び量が増え、反時計回りに回すと減少します。調整が終了したらロックナット(3)を締め、アジャスターに保護キャップを取り付けます。

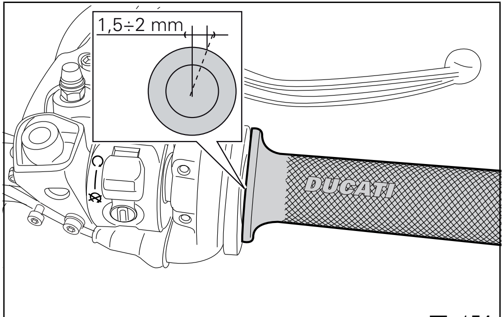


図 154

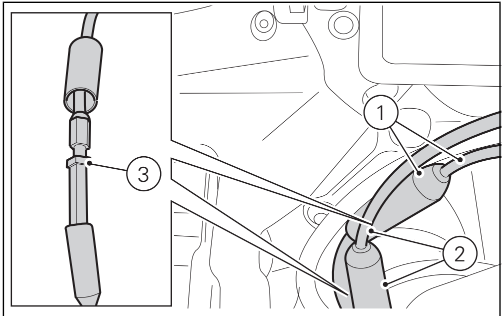


図 155

バッテリーの充電

バッテリーを充電する際、バッテリーを車両から取り外して下さい。
ライダーシートを取り外します。スクリュー(1)を緩めて、固定ブラケット(2)を取り外します。スクリュー(3)を緩め、陽極ケーブル(4)及び陽極ケーブル(ABS) (5)を陽極端子から、陰極ケーブル(6)を陰極端子から取り外します。必ず陰極（-）から始め、バッテリーを上方向に引き抜きます。

警告

バッテリーは爆発性ガスを発生させます。火花、炎、タバコを近付けないでください。バッテリー充電を行う場所の換気が適切であることが確認してください。

充電は換気のよい場所で行って下さい。
端子に充電機のコンダクターを接続します。赤い端子はプラス(+)、黒い端子はマイナス(-)。

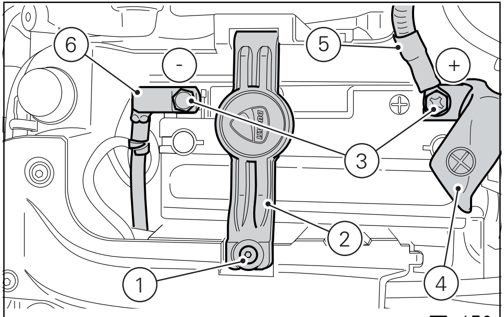


図 156

重要

電源を入れる前にバッテリーを充電機に接続します。電源に接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する危険があります。接続は常に赤のプラス(+)極から行って下さい。

スクリュー(3)にグリースを塗布します。
サポートにバッテリーを置き、陽極ケーブル(4)及びABS 陽極ケーブル(5)を陽極端子に、陰極ケーブル(6)をバッテリーの陰極端子に節ず臆します。必ず陽極(+) から初め、スクリュー(3)を差し込みます。
バッテリー固定ステイ(2)を取り付け、スクリュー(1)で締め付けます。

警告

バッテリーは幼児の手の届かないところに置いて下さい。

バッテリーは0.9A で5 ～10 時間充電します。

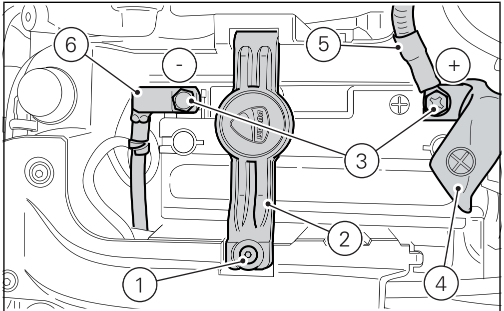


図 157

バッテリー充電および冬季の断熱

車両には所定の充電器(2)(バッテリーメンテナンスキット、部品番号 69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号 69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ)を接続することができるコネクター(1、)がシート下に装備されています。充電機は当社の販売店でお求めできます。

参考

このモデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止の状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。いずれにせよ、バッテリーは自然に放電し、それは"使用していない"期間や環境条件によって変化します。

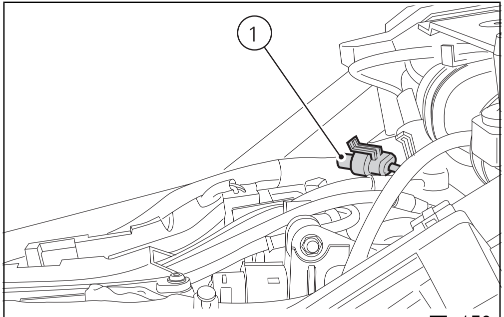


図 158

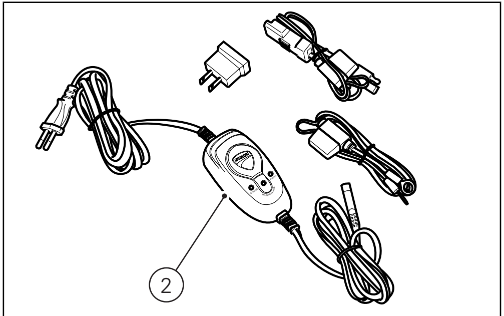


図 159

重要
所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、不可逆反応でバッテリー自体の性能の低下を招くサルフェーション現象が生じます。

参考
車両を使用していない期間（大体 30 日以上)。Ducati 充電メンテナー（バッテリーメンテナンスキット、部品番号 69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号 699246011.5 AX - 日本、中国、オーストラリアのみ）の使用を推奨します。電圧をモニターするインターナルエレクトロニクスが装備され、最大充電電流は 1.5 A/h です。メンテナーを車両の後部にある診断プラグに接続します。

参考
Ducati に認可されていないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷をきたす恐れがあります。上記の理由で車両が損傷を受けた場合、不適切なメンテナンスとみなし、バッテリーは車両の保険の対象にはなりません。

トランスミッションチェーン張力の点検

重要
チェーン張力の調整はDucati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターに依頼してください。

サイドスタンドで駐車した状態でチェーン下部中央のチェーンの圧力を測定します。指で押す程度の力でチェーンを下げて放ち、チェーン中央部とスィングアームのアルミニウム部間(A)を測定します。
次の値でなければなりません。A = 35 ～ 37 mm

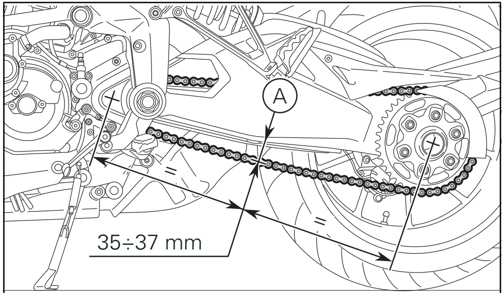


図 160

警告

安全な走行状態を保つにはスイングアームのスクリュー（1）の正しい締め方がとても重要です。

重要

不適切なチェーンの張りは、トランスミッション部品の磨耗を促進させせます。

スクリュー(1)に到達するには、3 つのスクリュー(4)を外して、ストーンガード（2）とリアチェーンガード(3)を取り外す必要があります。

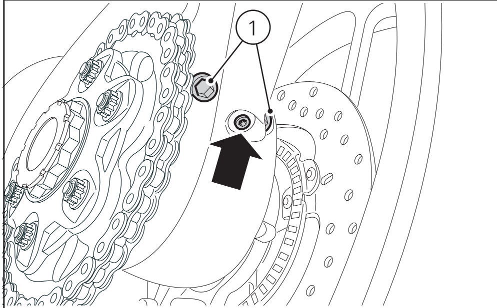


図 161

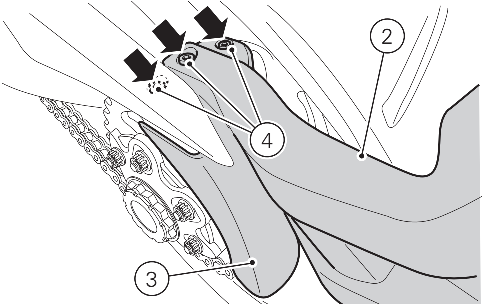


図 162

チェーンの潤滑

この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つOリングシールの付いたチェーンが装備されています。
チェーンを洗浄する場合には、シールの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用して下さい。ウォッシャー等でスチームや圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。
洗浄後は、コンプレッションエアーでチェーンを乾かし、SHELL Advance Chain または Advance Teflon Chain で潤滑します。

重要

規定オイル以外を塗布すると、チェーン、フロント / リアスプロケットに損傷を与える可能性があります。

付属のチェーン張力計測器の使用

正確に測定するため、車体はリアスタンドに駐車しておかなければなりません。チェーンが最も張っている部分のテンションが正しいことを常に確認する必要があります（したがって、チェーンを等間隔で何か所も測定します）。

参考

チェーン張力は設定したライディングモードによって異なります。測定はプリロードがLivello 1 (ライディングモード"URBAN")の条件でおこなうことが推奨されます。

始める前に、指の力だけでチェーンを下ろし、ツール(1)を使用します。
チェーンテンションキャリパー(1)をスイングアーム及びアンダーチェーンのガイド中央固定に該当するアンダーチェーンガイドの間に挿入します(図 164)。

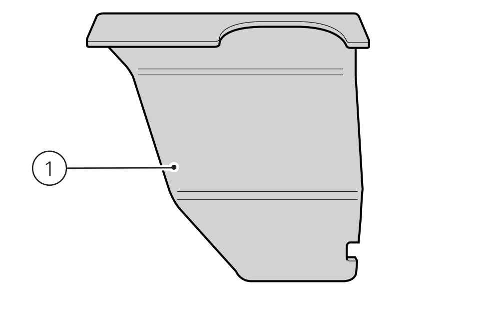


図 163

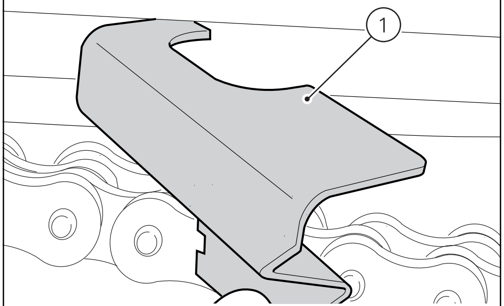


図 164

チェーンのテンションが正しいかどうかは、チェーンテンションキャリパー上のカービングのインターバル識別内部にチェーンピンの軸（(図 165)の黒線）が一致していることを確認します（(図 165)の矢印からインターバル境界)。
チェーンピンがこのインターバル(図 166)より高いか低い場合は、チェーンのテンション調整ページ 205 をする必要があります。

重要
チェーン張力の調整はDucati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターに依頼してください。

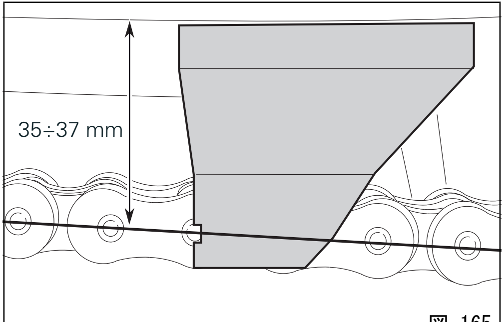


図 165

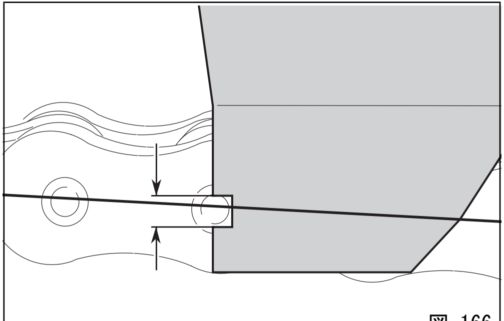


図 166

ハイ/ロービーム電球の交換

切れた電球を交換する前に、新しい電球が"エレクトリカルシステム"の章に記載されている電圧及び電力と同じであることを確認してください。
取り外したパーツを再度取り付ける前に、新しく取り付けた電球の機能を点検してください。
(図 167) にはLEDパーキングランプ(1)、LEDロービームランプ(2)、ハイビームランプ(3)配置が図示されています。

左右のヘッドランプを交換するには、以下の方法でブリッジを取り外さなければなりません。

参考

図はヘッドライト右側のランプの交換を表しています。左側も同じ作業をおこないます。

ダッシュボードカバー(2)を取り外します。

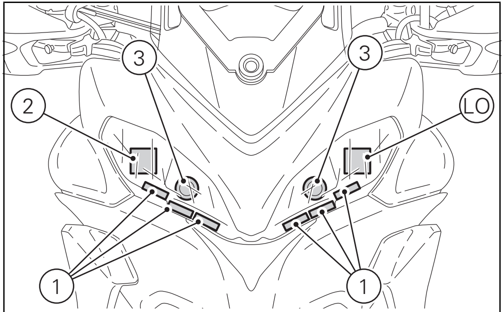


図 167

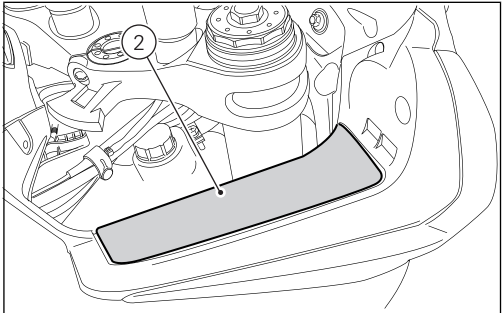


図 168

フェアリングにダッシュボード(4)を留めている4つのスクリュー(3)を外します。ヘッドライトフェアリング上の溝(A)から留め具を外すため、後部を持ち上げながらダッシュボード(4)を外します。

参考
レンズの部分には、絶対に指で触れないで下さい。電球の高度が落ちる原因となります。

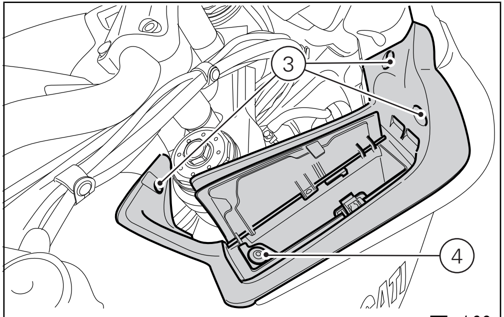


図 169

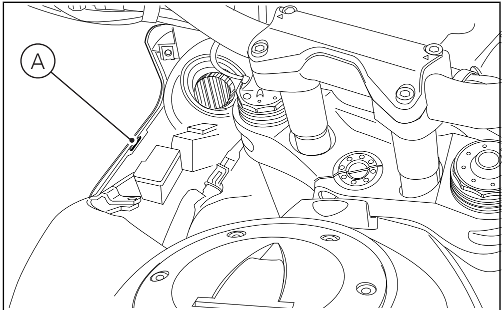


図 170

ランプホルダー(6)からコネクター(5)を外します。溶断した電球とランプホルダーをいっしょに反時計回りに回し、取り外します。新しいランプと交換してください。

取り付けには、ランプホルダー(6)を時計回りに回し、ランプボディに取り付けます。
コネクター(5)を取り付け、取り外したダッシュボード(4)を再度取り付けます。このとき、注意しながらヘッドライトフェアリングの溝A、(図 170)に留め具(B)を入れて下さい。

参考

パーキングランプの交換については、Ducati サービスセンターまでお問い合わせ下さい。

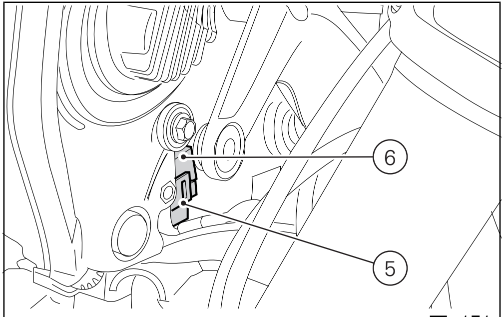


図 171

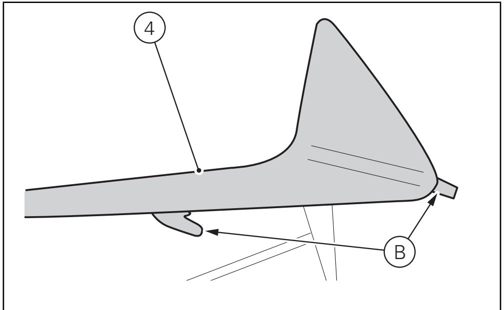


図 172

リアターンインジケーター

スクリュー(1)を外し、ソケット(2)とターンインジケーターのホルダーを別々にします。
電球はバイヨネットベースタイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。
新しい電球は、押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。
ツメを正しくインジケーターサポート上の溝にいれ、ホルダー(2)を取り付けます。
スクリュー(1)を締めます。

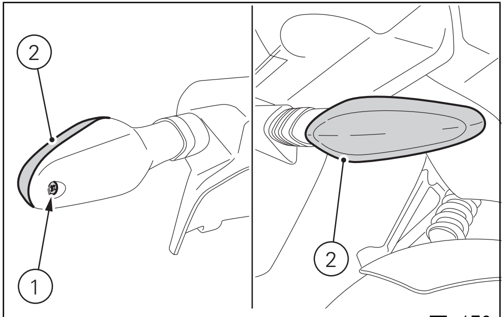


図 173

ナンバープレートランプ

ナンバープレートランプは、ナンバープレートランプの小さなふた(3)を開け、ランプ(4)を抜き取り、新しいものと交換してください。

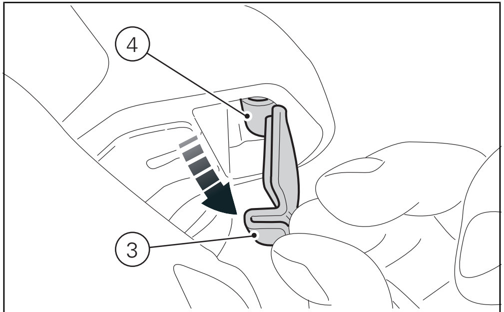


図 174

ヘッドランプの光軸調整

参考
ヘッドライトには右と左の明るさを調整するダブルアジャスターがついてします。

ヘッドランプの光軸をチェックするには、適切な空気圧のタイヤの車両にまたがり、車体を垂直に保ち、縦軸に対して正しい角度を保持します。車両は壁またはスクリーンから 10m の距離に配置します。壁にヘッドランプの中心と同じ高さで水平に線を引き、また車体の縦軸に一致する垂直線も引きます。この作業はできれば薄暗い場所で行って下さい。ロービンランプをつけ、左右の光の強さを調整します光の照射範囲の高さが(照射された部分と明るいの部分との境界の上限)、地上からヘッドランプの中心までの高さの 9/10 以下でなければなりません。

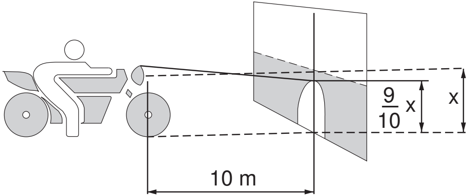


図 175

参考
この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。イタリア以外の国で使用する場合は、それぞれの国で法律に従い調整してください。

ロービーム/バーチカルハイビームの光軸の高さを調整します。

1) ロービーム/ハイビームの光軸を点灯します
2) どちらかの光軸を完全に覆います。
3) 対応する調整スクリュー(1)を操作して覆われていない光軸の垂直方向の向きを調整します。ヘッドランプのスクリュー(1)を時計回りに回すと、光軸は下に移動します。反対に回すと上に移動します。
4) 調整を終えた光軸を覆い、もう片方の覆いを取ります。
5) 対応する調整スクリュー(1)を操作して覆われていない光軸の垂直方向の向きを調整します。ヘッドランプのスクリュー(1)を時計回りに回すと、光軸は下に移動します。反対に回すと上に移動します。

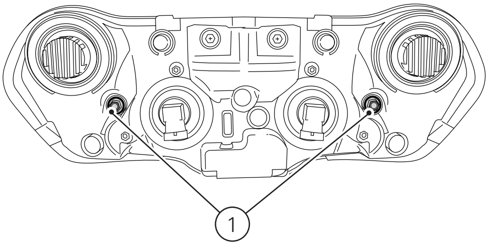


図 176

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

リアビューミラーの調整

(A)を手で押し、ミラーを調整します。

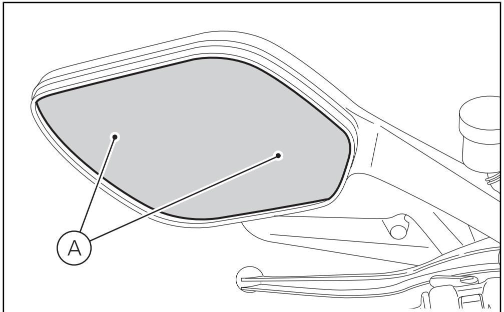


図 177

チューブレスタイヤ

フロントタイヤ空気圧：
2.50 bar（ライダーのみ）－ 2.9 bar（タンデムおよびバック、またはその一方）
リアタイヤ空気圧：
2.50 bar（ライダーのみ）－ 2.9 bar（タンデムおよびバック、またはその一方）
タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化するので、標高の高い場所や気温差のある場所を走行する場合は、毎回点検と調整を行って下さい。

重要

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定しなければなりません。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2 ～ 0.3bar 上げて下さい。

タイヤの修理、交換(チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告

パンクしたタイヤは交換して下さい。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認します。チューブタイプのタイヤは絶対に使用しないで下さい。 突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーの安全に大きな危険を及ぼします。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行って下さい。

警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないで下さい。

参考

タイヤの交換が必要な場合は、ホイールを正しく着脱することが大切ですので、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。センサー、フォニックホイールなど ABS システムのパーツがホイールに装着されており、特別の調整が必要になります。

警告

フロントホイールの交換は、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターで、メンテナンスマニュアルのフロントホイールシャフトの取り外しおよび取り付けに記載されている内容にしたがって行います。

タイヤ摩耗の限度

最も磨耗が激しい点のトレッドの最低厚さ (S、図 178)を測定します。2 mm 以上で、現地の法律に記載されている厚さ以上でなければなりません。

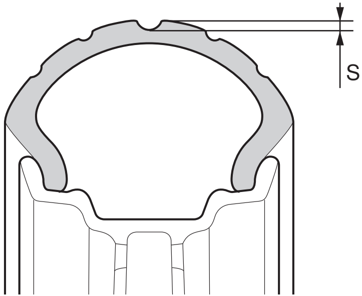


図 178

重要

タイヤを定期的に点検します。特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかを注意深く目視点検して下さい。損傷が著しい場合はタイヤを交換して下さい。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いて下さい。

エンジンオイルレベル点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓(1)から見ることができます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイル SHELL Advance 4T Ultra を補充してください。注入口キャップ (2) を外し、指定のオイルを所定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

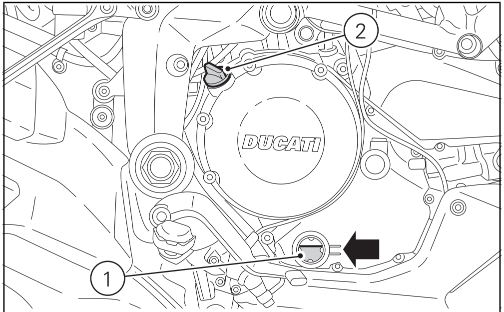


図 179

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとフィルターの交換は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。

粘度

SAE 15W-50
車両使用環境の気温が表示された規定範囲内であれば、表に示された以外の粘度のオイルも使用できます。

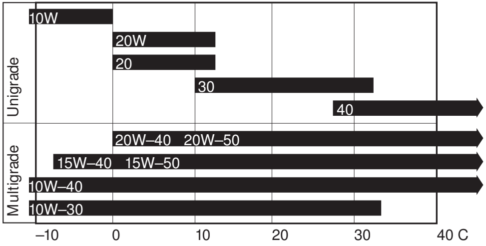


図 180

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換が必要な場合は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

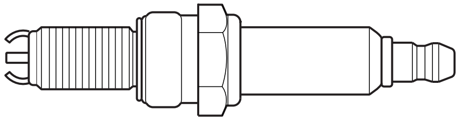


図 181

車両の清掃

塗装部分とメタリック部分の本来の艶を長期間保つため、走行する道路の状態に合わせて、車両を定期的に清掃、洗車しなければなりません。車両に損傷を与えないように、強力な洗剤や溶剤を使用せず、専用の洗剤と水を使って洗車します。
プレキシグラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤をお使いください。
定期的にアルミニウム製部品を手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨剤付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要

走行後のボディがまだ暖かい間は、水染み等を防ぐためすぐには洗車をしないで下さい。
高温や、ウォッシャー等の圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。
ウオッシャー等の使用は、フォークやホイールベアリング、電装部分、ランプ内部の結露（くもり）、フォークシール、エアー吸入口、エキゾーストサイレンサーの磨耗や変形をもたらし、車両の安全を損ねるおそれがあります。
エンジンにひどく汚れた部分や油脂汚れなどがある時は、油取り用洗剤を使って、トランスミッション系統（チェーン、ギア、リム等）に洗剤がかからない様に洗浄します。

水道水で良くすすぎ、車体全表面部をセーム革で拭きます。

警告

洗車後は、ブレーキ能力が落ちることがあります。ブレーキディスクには絶対に、グリースやその他のいかなるオイルを付けないで下さい。ブレーキ能力が失われます。 ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、結露などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABS システムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーをいためますので、強い洗剤、溶剤の使用は避けてください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします：

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダーの中に数滴のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検と充電、交換を行う必要があります。
結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。
車体カバーはDucati パフォーマンスにて取り扱っています。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、スイス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法規に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合するDucati オリジナルパーツと取り替えて下さい。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*) Km x1000 マイル x1000	1 0.6	12 7.5	24 15	36 22.5	48 30	期間(月)
DDS による故障メモリーの読み取り、及びコントロールユニットへのソフトウェアのバージョンアップの確認	●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデート及びリコールの有無の確認	●	●	●	●	●	12
エンジンオイル及びフィルターの交換	●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃	●					-
バルブクリアランスの点検と調整			●		●	-
タイミングベルトの交換			●		●	60
スパークプラグの交換			●		●	-
エアフィルターの交換			●		●	-
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●	●	●	●	●	12
ブレーキ / クラッチフルードの交換						36
ブレーキパッドとディスクの消耗度点検 必要な場合は交換	●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*) Km x1000 マイル x1000	1 0.6	12 7.5	24 15	36 22.5	48 30	期間(月)
安全部品の締め付け点検(ブレーキディスクフランジスクリュー、ブレーキキャリパースクリュー、フロントホイール及びリアホイールのナット、スプロケット及びセカンダリートランスミッションスプロケットのナット)	●	●	●	●	●	12
リアホイールシャフトの点検と潤滑			●		●	-
チェーン張力の点検と潤滑	●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ(チェーン、フロントスプロケット、スプロケット)及びチェーンシューの磨耗点検		●	●	●	●	12
フロントフォーク及びリアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検	●	●	●	●	●	12
フロントフォークオイルの交換				●		-
サイドおよびセンタースタンドの動作及び締め付け点検(装備している場合)	●	●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検	●	●	●	●	●	12
クーラントレベルのチェック	●	●	●	●	●	12
クーラントの交換					●	48
電動ファンの作動点検	●	●	●	●	●	12
タイヤ圧、磨耗点検	●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 **(km/マイル毎、または経過時間*)** Km x1000 マイル x1000	1 0.6	12 7.5	24 15	36 22.5	48 30	**期間(月)**
バッテリーチャージレベルの点検	●	●	●	●	●	12
アイドリング点検	●	●	●	●	●	12
セキュリティー電気装置の作動点検（サンドスタンドセンサー、フロント及びリアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー）	●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーターの点検	●	●	●	●	●	12
DDS を介したサービスインジケーターのリセット	●	●	●	●	●	-
セキュリティーデバイス(例、ABS 及び DTC)テストを兼ねた道路上の試運転	●	●	●	●	●	12
車両のソフトクリーニング	●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車内資料(サービスブック)への記入	●	●	●	●	●	12

メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容(km/マイル毎、もしくは経過時間 *) Km x1000	1
マイル x1000	0.6
月	6
エンジンオイルレベル点検	●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●
タイヤ圧、磨耗点検	●
チェーン張力の点検と潤滑	●
ブレーキパッドの点検 必要であれば、ディーラーにて交換して下さい。	●

* 走行距離(km)又は経過月数のうち、どちらか最初の期限に達した場合に作業を実施して下さい。

テクニカルデータ

重量

相工事の重量(燃料およびバッテリー抜き)： 196 kg。
重量(燃料込み)： 430 kg。

警告
重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

警告
サイドバック、トップケース、タンクバックの最高重量は、以下のように区分した合計 35kg を絶対に超えていけません。
サイドバック(1)は1個につき最大 10 kg
トップケース(2)は最大 10 kg
タンクバック(3)は最大 5 kg。

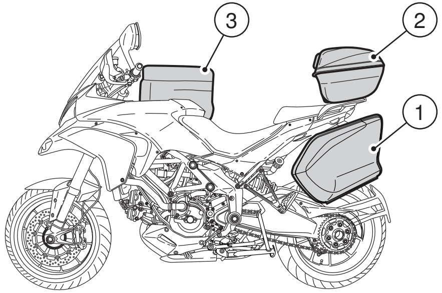


図 182

全体寸法(mm)

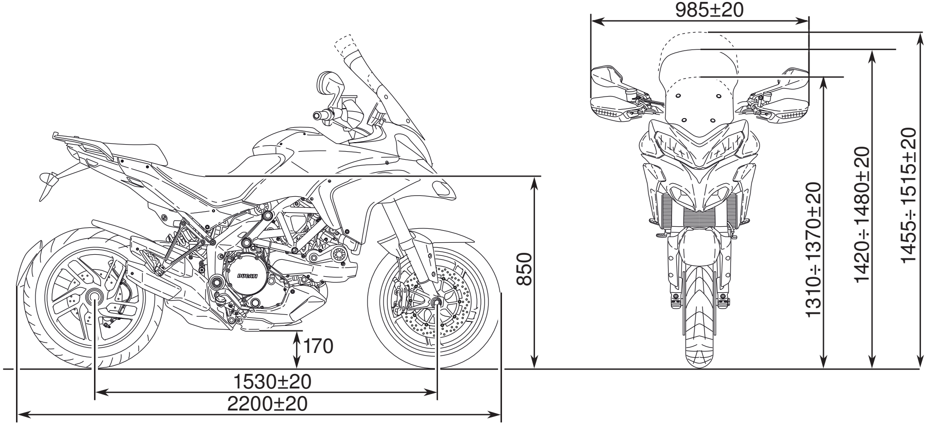

985±20
850
170
1530±20
2200±20
1310÷1370±20
1420÷1480±20
1455÷1515±20

図 183

燃料補給

給油	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットルを含む	オクタン価 95 以上の無鉛ガソリン	20.0 リットル
エンジンクランクケースおよびフィルター	SHELL - Advance 4T Ultra	4.10 リットル
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	SHELL Advance Brake DOT 4	-
電極保護液	SHELL Advance Contact Cleaner	-
フロントフォーク	SHELL - Advance Fork 7.5 または Donax TA	720 cc（レッグごと）(*)
クーラントシステム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial（薄めずに使用します）	2.3 リットル

(*) 値はオイルの表面とケースの端の間に出来る空気の柱を測定します。フォーク内のプリロードスプリングとチューブは無しで、ケースを下げた状態で測定します。

重要
燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないで下さい。この燃料を使用すると、車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10%以下の燃料(E10)のみ使用することができます。
エタノール含量が 10%以上のガソリンを使用することは禁止されています。 この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10%以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

エンジン

90°L型、2気筒4ストローク。

ボア mm：

106.

ストローク mm：

67.9.

総排気量、cm^3：

1198,4.

コンプレッション比：

11.5±0.5:1

クランクシャフト最大出力 (95/1/EC)、kW/馬力：

110.3 kW/150馬力/9,250rpm

クランクシャフトトルク最大回転数(95/1/EC)：

7,500rpmで12.7 kgm/118.7 Nm

最大回転数、rpm：

10,700

⚠ 重要

In nessuna condizione di marcia si deve superare il regime massimo.

タイミングシステム

デスモドロミックシステム ：シリンダーごとに 2 本のバルブ、4 本のロッカーアーム（2 オープニングロッカーアーム、2 クロージングロッカーアーム)、オーバーヘッドカムシャフトクランクシャフトよりスパーギアとベルトローラー/ コグドベルトで駆動されるカムシャフトによって制御されます。
デスモドロミックタイミングシステム

デスモドロミックシステム ：シリンダーごとに 2 本のバルブ、4 本のロッカーアーム（2 オープニングロッカーアーム、2 クロージングロッカーアーム)、オーバーヘッドカムシャフトクランクシャフトよりスパーギアとベルトローラー/ コグドベルトで駆動されるカムシャフトによって制御されます。
デスモドロミックタイミングシステム

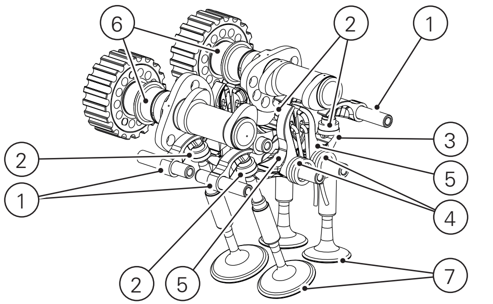


図 184

1) オープニング(アッパー)ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) クロージング(もしくはロア) ロッカーアームシム
4) ロッカーアームリターンスプリング
5) クロージング(もしくはロア) ロッカーアーム
6) カムシャフト
7) バルブ

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく行い、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これは保証の必須条件で、この条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：
NGK
タイプ：
MAR10A-J

燃料供給

ミツビシ製間接式エレクトロニックインジェクションシステム。
楕円対応スロットルボディ（直径準拠）：56 mm
インジェクター（各シリンダー）：1
インジェクターロ径：12
ガソリン燃料：95-98 RON

警告

この車両にはエタノール含量が 10%以下の燃料（E10）のみ使用することができます。エタノール含量が 10%以上のガソリンを使用することは禁止されています この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10%以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチブロックシステムは、両タイヤに搭載されたホール効果センサーで制御されます。ABS 解除が可能。

フロント
穴付きセミフローティングダブルディスク。
ブレーキシュー材質：ステンレス
ハウジング材質：アルミニウム
ディスク径：320 mm
右側ハンドルレバーによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO.
タイプ：P4-32 ピストン
摩擦材：TT 2172
ポンプタイプ：PR18/19

リア
穴付き固定ディスク、スチール製

ディスク径：245 mm
車体右側ペダルによる油圧コントロール。
メーカー：BREMBO
タイプ：P34c ピストン
摩擦材：FERIT I/D 450 FF.
ポンプタイプ：PS 13c

警告
ブレーキフルードは腐食性です。
誤って目や皮膚に付いた場合は、大量の流水で洗浄して下さい。

トランスミッション

湿式クラッチ/左側ハンドルバレバーによる操作
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達
エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：33/61
6速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/40
変速比：
1速 15/37
2速 17/30
3速 20/27
4速 22/24
5速 24/23
6速 25/22

チェーンを介したギアチェンジおよびリアホイール間のトランスミッション
メーカー：REGINA
タイプ：136ZRPB
寸法：5/8” x 1/16”
リンク数：108

重要
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更する場合には、Ducati モーターホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供いたしますので、オフィシャルディーラー又はDucati サービスセンターにお問い合わせ下さい。

警告
リアスプロケットの交換作業は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせ下さい。この部品の誤った交換作業はライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に回復不能な損傷を与える原因となります。

フレーム
ALS420 スチール製パイプトレーリスフレーム。
ALS 450 スチール製パイプトレーリスリアフレーム
エンジン上をビボットするサイドプレートは軽合金製ダイキャスト接続 ステアリングヘッドアングル: 24° 30'

ホイール
フロント
軽合金 10 本スポークホイール
寸法 : MT3.50x17"

リアサスペンション
軽合金 3 本スポークホイール
寸法 : MT6.00x17"

両ホイールともシャフト取り外し可。

タイヤ
フロント
"チューブレス"ラジアルタイヤ
寸法 : 120/70-ZR17

リアサスペンション
"チューブレス"ラジアルタイヤ
寸法 : 190/55-ZR17

サスペンション
フロント
油圧倒立フォーク、油圧ブレーキのリバウンドダンピング、コンプレッションダンピング、レッグのインナースプリングのプリロードのアウター調整システム付き。
スタンションチューブ径 : 50 mm、TIN 加工済み
ホイールトラベル : 170 mm

リアサスペンション
リバウンド/コンプレッション調整、スプリングプリロードのリモコン操作が可能なショックアブソーバーは、フレーム上部とスイングアーム下部の中心に位置します。スイングアームはフレーム、エンジン用ピンの基点の回りを回転します。このシステムは車両に高い安定性をもたらします。
ショックアブソーバーストローク : 59.5 mm。
リアホイールトラベル : 170 mm。

エキゾーストシステム

アルミ製端部付きステンレス製モノブロックマフラー
マフラー内の集積触媒システムと排気筒上のラムダセンサー

カラーバリエーション

Ducati アニバーサリーレッド、部品番号：473.101 (PPG)
クリアー、部品番号：228.880 (PPG)
レーシンググレーフレーム、ブラックホイール

マットクローム、部品番号：928.I0046 (PALINAL)
グロスプライマークロームブラックベース、部品番号：873I1952 (PALINAL)
クロームフィニッシングセミグロスクリアー、部品番号：923I2294 (PALINAL)
レーシンググレーフレーム、ブラックホイール。

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。
ヘッドランプ：
ロービームランプタイプ：LED ランプ
ハイビームランプタイプ：2xH11 (12V-55W)
パーキングランプ：LED ランプ
ハンドル上スイッチ
ターンインジケーター:
フロント：LED (9.8 V- 2.2 W)
リア：ハロゲンランプ RY10W 琥珀色 (12V-10W)。
警告ホーン。
ストップランプスイッチ。
バッテリー、12V-10 Ah、密封タイプ。
ジェネレーター、12V-500W。
電子部分は 30A ヒューズで保護されています。バッテリー(C、図 187)後ろのスターターコンタクター上に配置されています。
スターターモーター：12V-0.7 kW.
テールランプおよびストップランプ：LED(13.5V - 4.2W / 1.5W)。
ナンバープレートランプ：ランプタイプ C5W (12-5W)。

参考
電球の交換は、″ハイ/ロービーム電球の交換″の章を参照してください。

ヒューズ

エレクトリックコンポーネントプロテクトはフロントおよびリアヒューズボックス内に 12、スターターコンタクター上に一つあります。それぞれのボックス内に補給ヒューズがあります。
用途およびアンペア値については表を参照してください。

フロントヒューズボックス (A、図 185)は右ブリッジ内に位置し、点検窓を外すとアクセスが可能になります。ヒューズの交換には、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外してください。
リアヒューズボックス(B、図 186)およびABS ヒューズ(C、図 186)は、ABS コントロールユニットの脇、リアサブフレームの右フレーム上に位置します。リアおよびABS のヒューズボックスの作業をするには、ライダーシートを取り外す必要がありますページ 162 を参照してください。ヒューズの交換には、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外してください。

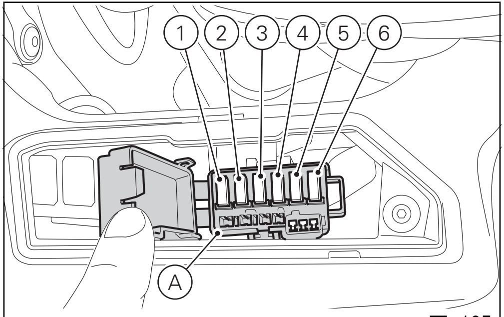


図 185

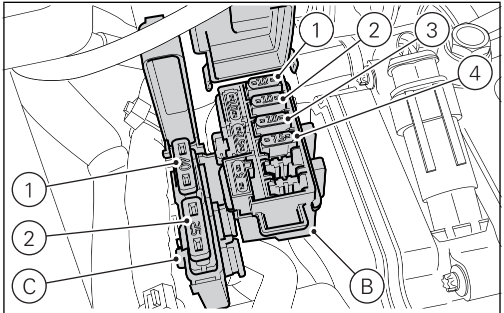


図 186

フロントヒューズボックス凡例		
配置	内容	数値
1	ランプ	20 A
2	インストルメントパネル	10 A
3	エンジンコントロールユニット	5 A
4	Key-sense	10 A
5	インジェクションコンタクター	20 A
6	スロットルモーターコンタクター(ETV)	10 A

リアヒューズボックス凡例		
配置	内容	数値
1	Black Box システム (BBS)	10 A
2	BBS コンタクター	10 A
3	プラグ/ナビゲーションシステム/アラーム	10 A
4	診断	7.5 A

ABS ヒューズボックス凡例		
配置	内容	数値
1	ABS 1	40 A
2	ABS 2	25 A

メインヒューズ(C)は、スターターコンタクター(D)上、リアヒューズボックスの前に位置しています。交換の際は保護キャップ(E)を取り外して下さい。切れたヒューズは、インナーフィラメントが溶断していることで確認できます(F)。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前には、イグニッションキーを OFF にして下さい。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないで下さい。この規則を順守しない場合、エレクトリカルシステムに損傷を招き、火災の原因となることがあります。

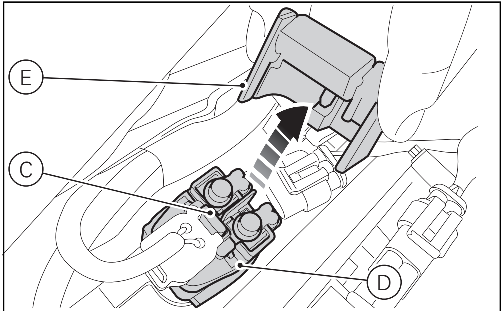


図 187

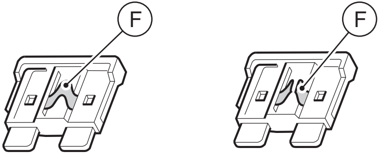


図 188

インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

1) 右側スイッチ
2) イモビライザー
3) Hands Free リレー
4) Hands free
5) フロントヒューズボックス
6) 右ファン
7) 左ファン
8) ABS ヒューズボックス
9) 燃料ポンプリレー
10) ride-by-wire リレー (ETV)
11) インジェクションコントロールユニット(EMS)
12) ナビゲーター
13) 左プラグ 12V
14) 右プラグ 12V
15) リアヒューズボックス
16) データの獲得/ 診断
17) スターターモーター
18) セカンダリーエアアクチュエーター
19) ヒューズコンタクター
20) バッテリー
21) アース配線
22) レギュレーター
23) ジェネレーター
24) フューエルポンプ
25) 燃料レベル
26) 右リアターンインジケーター
27) リアライト
28) 左リアターンインジケーター
29) 後部配線
30) 車両コントロールユニット(BBS)
31) 防犯アラーム
32) エキゾーストバルブモーター
33) ギアセンサー
34) リアスピードセンサー
35) ABS コントロールユニット
36) ガスグリップポジションセンサー(APS)
37) ポテンシオメーター/ ride-by-wire (TPS/ETV)
38) エンジン回転作動センサー
39) バーチカル MAP センサー
40) ホリゾンタル MAP センサー
41) エンジン温度
42) 気温センサー
43) バーチカルラムダセンサー
44) ホリゾンタルラムダセンサー
45) オイルプレッシャースイッチ
46) リアストップ
47) サイドスタンドスイッチ
48) クラッチスイッチ
49) フロントストップ

50) バーチカルメインインジェクター
51) ホリゾンタルメインインジェクター
52) バーチカルコイル
53) ホリゾンタルコイル
54) 左側スイッチ
55) 警告ホーン
56) フロントスピードセンサー
57) 防犯 Led アラーム
58) 左フロントターンインジケーター
59) インストルメントパネル
60) 右フロントターンインジケーター
61) ハイビームリレー
62) ロービームランプ
63) 左ハイビーム
64) 右ハイビーム
65) ABS シリアルライン

配線カラー表

B 青
W 白
V 紫
Bk 黒
Y 黄
R 赤
Lb ライトブルー
Gr グレー
G 緑
Bn 茶
O オレンジ
P ピンク

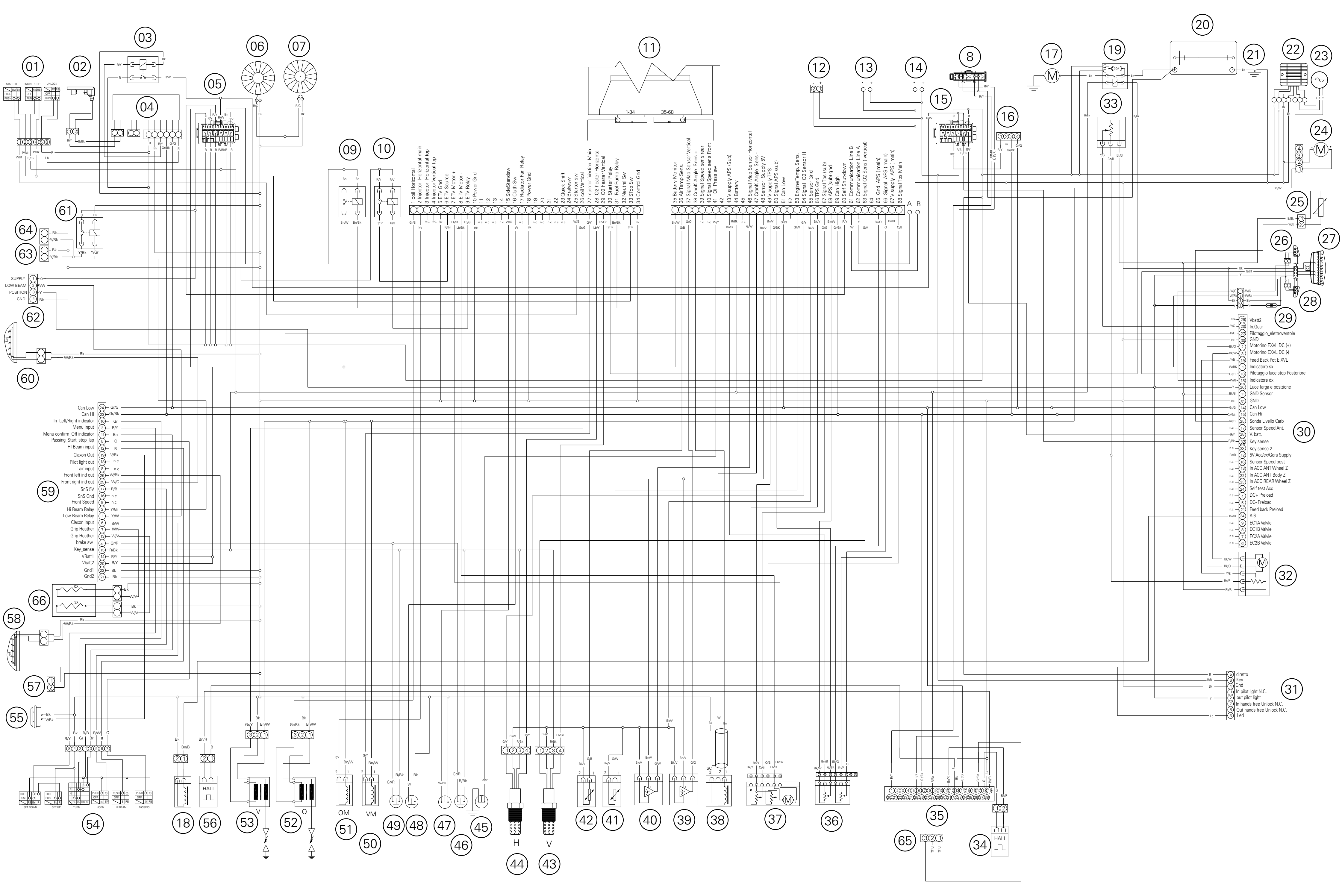
参考

配線図はマニュアルの最後部にあります。

定期点検メモ

定期点検メモ

KM	名前 ドゥカティサービス	走行距離	実施日
1000			
12000			
24000			
36000			
48000			
60000			



Multistrada 1200 ABS MY 2013

Stampato 10/2012 Cod. 913.7.203.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italia
Tel. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

cod 913.7.203.1B